THE ESSENTIAL
EVANGELION
CHRONICLE
SIDE B
Sony Magazines Deluxe
2007年12月25日発行 第17巻第31号通巻第605号
SIDE B
THE BEGINNING AND THE END, OR
"KNOCKIN' ON HEAVEN'S DOOR"
定価2,604円(税込)

エッセンシャル
エヴァンゲリオン・クロニクル
THE ESSENTIAL
EVANGELION
CHRONICLE
SIDE B

THE ESSENTIAL
EVANGELION CHRONICLE
SIDE B

エッセンシャル エヴァンゲリオン・クロニクル

目次

CONTENTS

キャラクター&エヴァンゲリオン

CHARACTER & EVANGELION

エピソードガイド&チェックポイント

EPISODE GUIDE & CHECK POINT

グッズコレクション

GOODS COLLECTION

キャラクター&エヴァンゲリオン

THE ESSENTIAL
EVANGELION CHRONICLE
SIDE B

CHARACTER & EVANGELION

人物相関図

各組織の活動と関係

■ 特務機関NERV

国連直属の非公開組織だが、国連に直接的な影響力はまったくなく、実質的にはゼーレの支配下にあった特務機関。最高司令官、碇ゲンドウを中心に使徒の殲滅及び「人類補完計画」の遂行を主務とするが、ゲンドウが己の望むかたちでの人類補完計画遂行を目指したことで徐々にゼーレとの軋轢が深まる。

■ 人工進化研究所/調査機関ゲヒルン

箱根芦野湖畔に建設された国連直轄の人工進化研究所。ゼーレの下部組織でNERVの前身でもある調査機関ゲヒルンは、同施設を隠れ蓑にしていた。なお、両者は遅くとも2003年までには発足していたと思われ、碇ゲンドウがその責任者を務めていた。

■ ゼーレ/人類補完委員会

人類補完計画の完遂を目指す国際秘密結社。国連直属の諮問機関である人類補完委員会を介してNERVの活動を指揮した。人類補完計画の完遂を至上命題としており、同計画の遂行にあたっているNERVの最高司令官、碇ゲンドウの行動を注視している。

■ 国連/国連軍

全世界の指導者的立場にある国際機構。加盟各国は自国の軍隊を派遣、国連がこれを再編成したのが国連軍である。なお、対使徒戦の全権はNERVにあるため、国連軍はサポートに回ることを余儀なくされた。

■ 日本国政府/戦略自衛隊

日本国を統治する内閣や中央官庁などの統治機関の総称。国連軍に編入されない直属の軍事組織、戦略自衛隊を保有して有事に備えている。超法規的に保護されたNERVとの関係は良好とは言い難い。

■ 第3新東京市立第壱中学校

第3新東京市北部に位置する市立中学校。碇シンジらが所属する2年A組には適格者候補が集められていたが、その情報は極秘とされており、NERV内でも一部の人間しか知ることはない。

特務機関NERV

弐号機パイロットたり得なくなったアスカに代わり、人類補完委員会から直接送り込まれた適格者カヲル。彼の存在はシンジに決定的な影響を与え、物語の終局を左右することとなる。

民間

フォースチルドレンとして選定されたトウジは、妹をNERV本部付属の医学部に転院させることを条件にEVAに乗ることを承諾。EVA3号機に搭乗する。

人物相関図

母
協力？
人工進化研究所／ゲヒルン
碇ユイ（故人）
NERV発足以前、その前身でもあるゲヒルンにてゲンドウらと活動を共にしていたユイとナオコ。両者ともすでに死去しており、NERVに所属することはなかった。
同僚・嫉妬
同僚・元教え子
同僚・協力
人工進化研究所／ゲヒルン
赤木ナオコ（故人）
同僚・妻
？
同僚・夫
同僚・愛人関係
ゲヒルン
最高幹部／人類補完委員会議長
キール・ローレンツ
加持を使うなどしてNERVの監視を強化。全使徒殲滅後はNERVとの確執が表面化する。
ゼーレ
上司・深い信頼
父・愛憎
最高司令官
碇ゲンドウ
母・複雑な感情
同僚・協力
同僚・元教授
上司・複雑な感情
部下・協力
上司・愛情
娘・愛情
部下・協力
副司令官
冬月コウゾウ
上司・不信感
上司・無関心
上司・敬愛
部下・指令
上司・服属
部下・指令
上司・信頼
技術開発部技術局一課
赤木リツコ
上司・保護者
同僚・旧友
同僚・不信感
上司・敬愛
戦術作戦部作戦局第一課
葛城ミサト
中央作戦司令室付
青葉シゲル
同僚・旧友
部下・信頼
同僚・恋人
同僚・協力
中央作戦司令部作戦局第一課
日向マコト
部下・指令
上司・憧れ
特殊監察部　他
加持リョウジ
良識のある大人としてシンジやアスカに影響を与えた加持。その裏ではゲンドウの指令で極秘の任務に従事するとともに、ゼーレからはゲンドウの"鈴"としての役目を与えられていた。
技術開発部技術局一課
伊吹マヤ

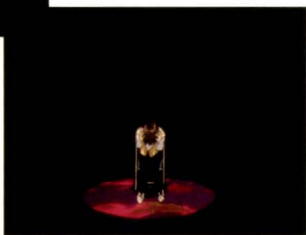
NERV

碇シンジ

**EVA初号機を操縦する"第3の適格者"。
多くの人間との繋がりと父との葛藤の果てに、
人類補完における最重要人物となる。**

EVA初号機の適格者——サードチルドレンである碇シンジは、EVAに乗ることで、自らの存在理由を求め続けた。EVAに乗る明確な理由を持たなかった彼は、そんな自分のあり方に疑問を持ち、同じ適格者であるレイやアスカにEVAに乗る理由を問うようになる。そして、第10使徒殲滅後、父ゲンドウに「よくやったな」というひと言をかけられ、「誰かが自分を認めてくれている」という確信こそが自分が渇望していたものだったと気づく。最終的にゲンドウとシンジの和解はならなかったが、その父に与えられたEVA初号機がシンジの成長を促し、居場所を生み出すことに繋がった。心の拠り所を模索するシンジは、他人を求めながらも他人によって傷つくことを怖れるというアンビバレンスを抱えていたが、心を閉ざしがちな彼を立ち直らせたのもまた、初号機を媒介とした人間との繋がりであった。その繋がりが自分を形成しているのだと気づいた時、シンジは人類補完の方向性を決める重要な役割を果たすこととなった。

シンクロテストでトップの数値を記録したことを知り、満面の笑みを浮かべたシンジ。適格者としての自身の成長を実感し、後の使徒戦ではそれまでになかった積極性を見せた。

人類補完の最中、精神世界の中で自分の内面と向き合うシンジ。彼は、様々な思考が錯綜する世界の重く生々しい苦悩の中で、自分自身を肯定し、自らの居場所を求めた。

PERSONAL DATA

- 名前：碇シンジ
- 年齢：14歳
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.2001/06/06
- 血液型：A型
- 所属：NERV/EVA初号機専属操縦者

SHINJI IKARI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

碇シンジ

人間関係

基本的なシンジの性質はあくまでも内向的なものである。しかし、EVA初号機専属操縦者という特殊な立場を中心に構築された人間関係においては、特に繋がりの深い他の適格者や上司である葛城ミサトはもちろん、初号機専属操縦者である自分にさまざまなかたちで教示を与える加持リョウジの存在が、心を閉ざしがちなシンジによい影響を与え、人間としての成長を促したようだ。ただし、第13使徒戦においては、結果的に親しい友人だった鈴原トウジを負傷させてしまう。また、短期間のうちに友情を深めた渚カヲルの正体が使徒であったことを知った際は、それを手酷い裏切りと感じる結果となり、シンジは心に大きな傷を負った。なお、彼には母の記憶がないはずだが、無意識のうちに母が大きな存在となっており、自分を否定する父とは対照的に、母は自分を肯定し優しくしてくれる存在として認識している節がある。幼い頃にその愛情を十分に受けられなかったためか、近しい異性にも同じような性質を求める傾向にあったようだ。

逃げ出した後自ら戻り、父に嘆願し再びEVAに乗ることを選んだシンジ。成長のあとが見られる行動だった。

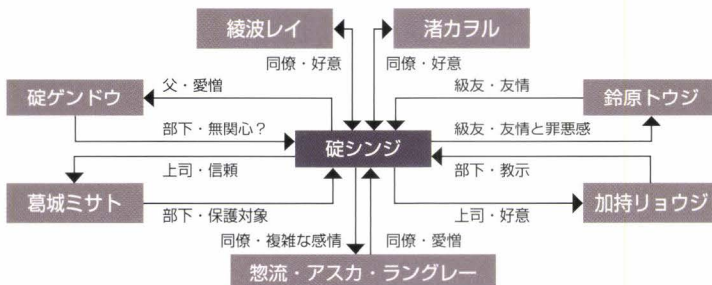
■ 綾波レイとの関係

碇ゲンドウに深い信頼を寄せながらも、シンジに対して好意を持ちはじめた綾波レイ。シンジとの関わり合いによって自分の感情と明確な意志を得たレイは、人類補完計画発動時、ゲンドウを裏切りリリスと融合する道を選んだ。

初号機を依り代とした人類補完計画進行時、シンジと一体化しようとするレイ。シンジはそれを拒み、他人の存在する世界を選択した。

■ 惣流・アスカ・ラングレーとの関係

同じ適格者であり、同居人でもある惣流・アスカ・ラングレー。シンジは正反対ともいえる性質の彼女を、時に異性として意識することもあった。ただし、精神世界では彼女に心情を吐露し、救いを求めるも、にべもなく拒絶されている。

人類補完計画が未完に終わった世界に横たわるふたり。アスカは、シンジが望んだ他人の存在する世界における最初の他人となった。

活動

初出撃となった第3使徒サキエル襲来時以降、シンジはEVA初号機専属操縦者として活動し、めざましい活躍を見せた。初号機との高い適合性を持っていたことはもちろん、自己主張の少ない彼の性格が、作戦に忠実に行動するという点で操縦者に適していたとも言えるだろう。以降、すべての使徒を殲滅するまで、シンジはエースパイロットといってよい活躍を見せた。なお、シンジが乗る初号機は、ゼーレが主導する人類補完計画において依り代の役割を果たした。トウジの負傷やカヲルの裏切りによって心に大きな傷を負ったシンジは、ミサトの命を賭した叱咤などによって一度は立ち直りかけたが、凄惨をきわめる弐号機の姿を見た瞬間に精神崩壊寸前まで追い込まれる。その結果として、心の補完を行う人類補完計画にとって必要な、欠けた心を持った依り代としての初号機操縦者を完成させるに至った。ちなみに人類補完計画進行時、すべての人類がL.C.L.の海に溶け込んだ時にも意識を持ち続けたことから、シンジには「最初の人」として人類の命運が託されたとも考えられる。父が発案した計画に巻き込まれたかたちで、奇しくも息子であるシンジが計画の行く先を決める執行者となっていったのである。

生きる気力すら失ったシンジを一喝するミサト。彼女は結果的に、命を賭してシンジの心を動かした。

アスカの無惨な姿を見せつけられたシンジ。響きわたる彼の絶叫によって、人類補完計画の幕が開かれた。

所属
NERV

対使徒戦用兵器としての名を裏切らない結果を残したEVA初号機は、専属操縦者である碇シンジが危機に陥るたび、想定外の能力を発現する特異な機体だった。操縦者の制御を離れる“暴走”と呼ばれる状態となった同機は、絶対的な力で使徒を屠っている。暴走の発現は「魂のないEVAには人の魂が宿らせてある」と赤木リツコ博士が語るように、宿された魂が暴走というかたちによって初号機の真の力を引き出し、操縦者を守ろうとした結果であったとも考えられる。また、アダムのコピーとされるEVAだが、ゼーレの言によると初号機のみは人類の始祖とされるリリスから造られた「分身」であるという。ゼーレにとっての初号機はリリスの予備であり、結果的に人類補完の中心を担うこととなった。一方初号機は、ゼーレとは異なる人類補完を目論んでいた碇ゲンドウにとっても、他のEVAとは一線を画す特別な機体であった。これは、初号機が彼の計画に必須だっただけでなく、初号機接触実験中に消失した彼の妻、碇ユイとも無関係ではないだろう。

人類補完計画の鍵となったEVA

DATA

- 機　体：EVA-01 TEST TYPE
  初号機
- 搭乗者：3rd Children
  碇シンジ
- 主装備：パレットライフル
  ハンドガン
  プログレッシブ・ナイフ　他

使徒との交戦記録（第拾四話～）

第12使徒レリエル	⇒暴走により殲滅
第13使徒バルディエル	⇒ダミーシステムにより殲滅
第14使徒ゼルエル	⇒暴走により殲滅
第15使徒アラエル	⇒交戦せず
第16使徒アルミサエル	⇒参戦のみ
第17使徒タブリス	⇒単独にて殲滅

EVA-01 TEST TYPE

汎用人型決戦兵器
人造人間エヴァンゲリオン初号機

Illustration by Hirofumi Ichikawa

EVA初号機

機体の特徴とおもな使用武器

NERV本部が所有するEVAの中で最も多くの戦闘記録を有するEVA初号機。その戦闘において様々な武器を使用したEVA初号機は、テストタイプという本来の役目を果たし、実戦での活動データ収集に大きく貢献した。また、初号機は、対使徒戦の最中にしばしば暴走するという他の機体には見られない特徴も有していた。制御下にないとはいえその標的はあくまで使徒であり、無差別に暴れた事実はなく、対使徒兵器としての役割は果たしていた。

■ 格闘武器類

作戦行動時は銃火器類を用いた中～遠距離での戦闘のみならず、近接戦闘になる場合も少なくなかった。そういった際、初号機は格闘武器として内蔵兵器であるプログレッシブ・ナイフを使用し、敵のコアに直接攻撃を加えた。

小型ながら、対使徒戦において最も活躍したプログレッシブ・ナイフ。ウェポン・ベイに収納されており、速やかに手に取ることができた。

初号機固定装備のプログレッシブ・ナイフ（PK-01）。高周波が流されることで刃が振動を開始。分子レベルで物質を切断する。

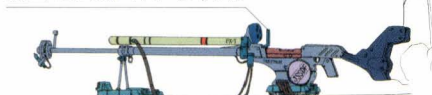
■ 銃火器類

初号機は、使徒との戦闘においてスタンダードなパレットライフル、ハンドガンといった実弾系の銃火器を使用。また、陽電子系銃火器としては第5使徒戦に使用したポジトロンスナイパーライフルを使用した。なお、後者は戦略自衛隊つくば技術研究本部から徴発した自走陽電子砲を改良したものであり、大電力を必要とする汎用性が低い銃火器だった。

汎用性の高いパレットライフル。しかし、使徒を倒すほどの威力は期待できず、おもにけん制用として使用されている。

大電力を必要とするポジトロンスナイパーライフル。のちに改良され、外部電源を必要としない大出力ポジトロンライフル改となった。

パレットライフル

ポジトロンスナイパーライフル

■ 暴走

暴走状態の初号機は驚異的な性能を発揮。獣のような攻撃性を持つと共にA.T.フィールドを自在に操り、直接的な打撃などにより使徒にダメージを与えることを可能にする。また、内蔵電源がゼロの状態であっても活動する人智の及ばない存在と化す。NERV最高司令官である碇ゲンドウは、この暴走を想定内の現象として捉えていたようだ。なお、EVAが素体の上に纏う装甲は、単なる防御用の装甲板ではなく、EVA本来の力を抑えるための拘束具の役割も兼ねている。

第12使徒の虚数空間に取り込まれた初号機。生命維持機能が切れ内蔵電源もゼロとなった状態で稼動し使徒を内部から破壊した。

使徒との戦闘

起動に成功し、実戦に投入された初めてのEVAである初号機。15年ぶりに現れた第3使徒を含め、多くの使徒を単独で殲滅する高いポテンシャルを見せた。しかしながら、幾度かの戦闘において本来動かないはずの機体が再起動し、操縦者の意志とは無関係の“暴走”を見せた。この暴走が勝利の要因となる場合が多く、その戦果は必ずしもシンジの実力とEVAの基本性能によるものばかりではない。暴走については、いずれも操縦者、シンジの危機において発現。初号機には実験中にシンジの母ユイを取り込んだコアが使われているものと思われ、暴走と何らかの関係があると推察される。また、第13使徒戦においては初めてダミーシステムが起動されたが、その破壊衝動とも言うべき凶暴さは暴走と酷似していた。それが人間の制御下にない状態のEVA本来の姿とも考えられるが、その真偽は定かではない。なお、初号機は第14使徒戦において敵のS^2機関を取り込み、NERV本部所有のEVAとしては初めてのS^2機関搭載機となっている。

■ 専属操縦者・碇シンジ

初号機に搭乗した際、シンジはそこに「母」を感じることもあった。第12使徒レリエルとの戦闘時や、肉体がL.C.L.に融合してしまった時など「自身の内面と対峙するような出来事」の最中には、決まって母のイメージが現れている。初号機にユイの魂が宿っているかは定かではないが、シンジの意識下で母の存在が大きなものであることは間違いない。

シンジに危機が迫った際には、自ら動き出すこともあった初号機。それが母の意志だったかは定かではない。

■ EVA初号機の交戦記録

NERV本部にとっても初戦となった第3使徒戦を皮切りに、最後の使徒とされた第17使徒との戦闘まで戦い抜いた初号機。その戦闘数、殲滅数はEVAの中でも最多を誇り、実に11体の使徒と戦闘し9体もの使徒を仕留めている。

第3使徒サキエル戦 SACHIEL

初陣でシンジが満足に動かせなかったため、初号機は光の槍で頭部を貫通され活動を停止し、直後に暴走。追い詰められたサキエルは自爆するが、初号機は無事に生還した。

第4使徒シャムシエル戦 SHAMSHEL

シンジは戦場にいたトウジとケンスケを収容した後、ミサトの退却命令を聞かず、プログレッシブ・ナイフを用いて使徒に反撃。内蔵電源が切れる直前に、辛くも勝利を収めた。

第5使徒ラミエル戦 RAMIEL

初戦は戦う間もなく敗北。その後に発動されたヤシマ作戦にて、ポジトロンスナイパーライフルで砲手を担当。レイの零号機が敵の加粒子砲を防いでいる間に、二射目で使徒を打ち抜く。

第7使徒イスラフェル戦 ISRAFEL

弐号機との初の共同作戦。初戦は予期せぬ分裂能力により敗北するも、シンジとアスカはユニゾンによる攻撃を特訓。再戦時には使徒のコアへの二点同時過重攻撃を決め、殲滅に成功する。

第9使徒マトリエル戦 MATRIEL

初のEVA3機によるチームプレイにおいて、オフェンスを担当。NERV本部に溶解液による攻撃を加える使徒に対し下部から接近し、パレットライフルの一斉射により殲滅する。

第10使徒サハクィエル戦 SAHAQUIEL

自身を質量爆弾として落ちてくる使徒を受け止めるためいち早く落下地点に到着。A.T.フィールドを全開にし、後着の2機が敵のコアを破壊するまで使徒を支え続けた。

第12使徒レリエル戦 LELIEL

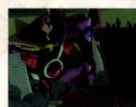
先行して使徒の足止めを試みるも、失敗。使徒が形成するディラックの海に囚われる。シンジの生命が尽きようとする刹那に初号機が暴走し、使徒を内側から破壊して脱出した。

第13使徒バルディエル戦 BARDIEL

使徒に寄生された3号機に自分と同じく子供が乗っていることを知り、攻撃を躊躇するシンジ。ゲンドウがダミーシステムの起動を強行させ、初号機は暴走時のような力で使徒を蹂躙した。

第14使徒ゼルエル戦 ZERUEL

中央作戦司令室まで侵入した使徒を、ジオフロントまで引き戻す。戦闘を有利に進めたものの、活動限界に達し、暴走を発現。さらに使徒を捕食することで、S^2機関を取り入れた。

第16使徒アルミサエル戦 ARMISAEL

零号機の危機を受け、凍結を解かれて参戦。プログレッシブ・ナイフでダメージを与えるも、使徒に侵食されて危機に陥る。最終的には零号機の自爆により難を逃れた。

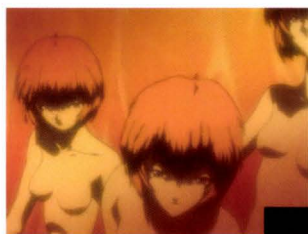
第17使徒タブリス戦 TABRIS

弐号機を操ってターミナルドグマへと向かう使徒を追跡。足止め役の弐号機とプログレッシブ・ナイフで交戦。これを打ち倒し、自ら死を望んだ使徒を手中に収めて握りつぶした。

綾波レイ

NERV

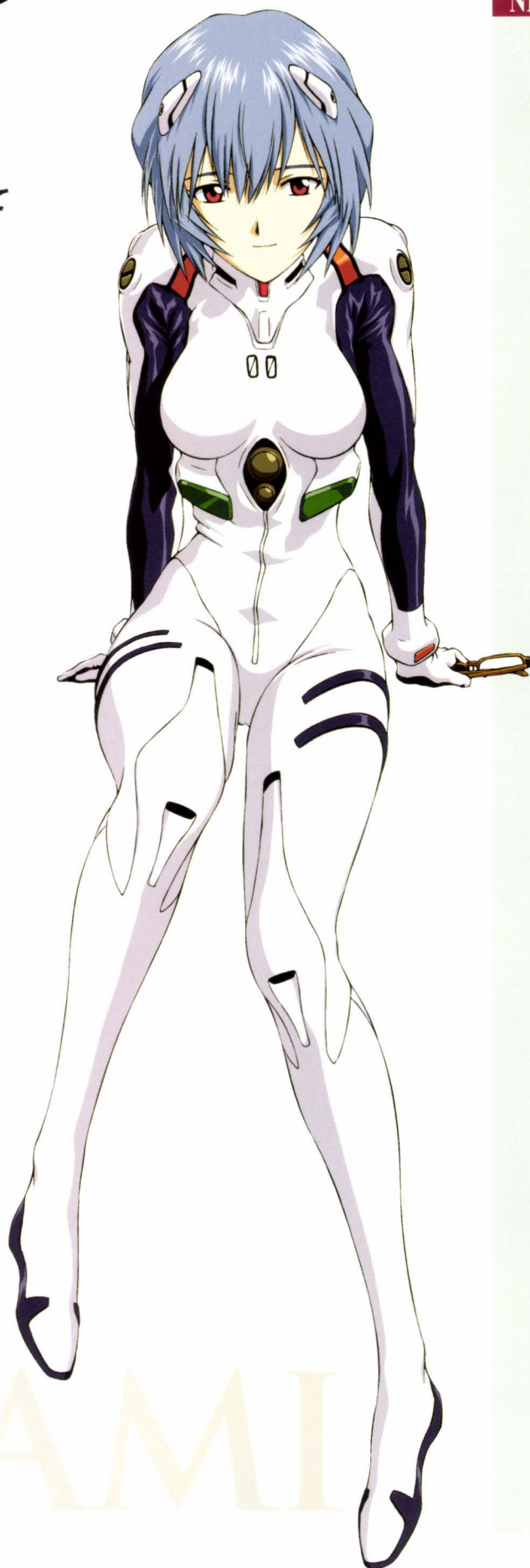
**他人との絆を求めた"第1の適格者"。
造られたモノである彼女は、最後に人類の道標として
消えゆくことを望んだ。**

同じ姿、同じ記憶、同じ使命を与えられた3人のレイ——様々な計画と並行して造られたモノ。それがファーストチルドレン、綾波レイである。与えられた役割を淡々とこなす彼女の無表情さの裏には、NERVが隠し続けてきた真実があった。地下のプラントで保存されている、無数のレイの「容れ物」たち。この事実を知る者はNERVにもごくわずかしか存在しないが、彼らにとってのレイとは使い捨てができる「モノ」だったのである。ヒトの造りしモノとしてEVAに搭乗し、時として重傷を負うほどの危険をも省みず任務にあたってきたレイ。しかしEVAに乗ることで他人との絆を築いた彼女は、自らの意思とも言えるものを得た。その結果、彼女は碇ゲンドウの人形であることをやめ、第2の使徒とも言われるリリスへと還る選択をする。ヒトの造りしEVAに乗る、ヒトの造りし綾波レイ。人間との接触により3人目にして初めて自我を得た彼女は、新しい人類の道標として消えゆくことを望み、その存在に幕を下ろした。

レイがヒトではない、という事実を示す地下のプラント。そこにあるレイの形をしたモノは、レイの魂の「容れ物」であると共に、ダミープラグにも転用されていたようだ。

初号機を依り代とした人類補完計画進行時に、リリスと融合したレイ。地表に存在していた無数の生命体は赤い球体状になり、レイの手中へと流れ込んでいった。

PERSONAL DATA
- 名前：綾波レイ
- 年齢：14歳
- 国籍：不明
- 生年月日：不明
- 血液型：不明
- 所属：NERV/EVA零号機専属操縦者

REI AYANAMI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人間関係

綾波レイは「モノ」として生み出され、適格者として生かされ続けてきた。彼女にとってはEVAに乗ることが生のすべてであり、EVAに乗ることで築かれる碇ゲンドウとの繋がりに自身の拠り所を見出していたようだ。しかし、碇シンジとの出会いによって彼女の内面に微妙な変化が生まれた。対等なひとりの人間として自分に接してくるシンジに対し、レイは他とは違う感情を抱いていたようである。レイはシンジとの関わり合いによって、自分の感情と明確な意志を得るが、その自我こそ、レイが存在の根底で欲していたものだったのだろう。また、レイが実際どこまで自身のことを理解していたのかは定かではないが、渚カヲルとの出会いによって、それまで漠然としていた自分の立場がヒトよりも使徒に近い存在なのだと悟ったようでもある。新たな人間関係と自我を得たレイは深い信頼を寄せていたゲンドウのもとを離れ、明確な意思をもってリリスと融合。人類補完計画のための依り代になった初号機——シンジのもとへと向かった。

3人目とされるレイは、新たな人間関係の中で自分が何のため、誰のために生きているのかと自問し続ける。

■ 碇シンジとの関係

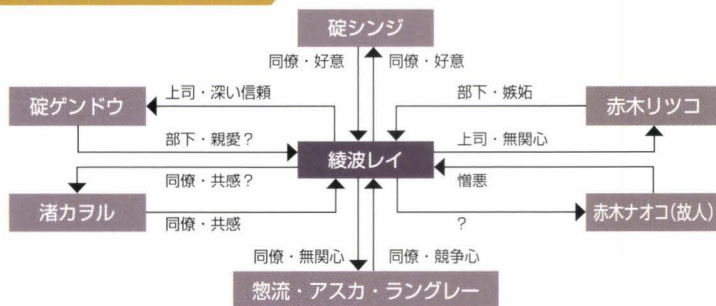
碇ゲンドウとの関係に疑問を持ちながらも、レイに好意を持ち、時に母親を感じることもあったシンジ。レイにとっても彼の存在は大きく、人類補完計画発動直前、ゲンドウを裏切り「碇君が呼んでる」と呟いてシンジのもとに向かった。

シンジに対して言った「ありがとう」という言葉を反芻するレイ。シンジとの関係が深まるにつれ、人間的な表情が多くなってくる。

■ 碇ゲンドウとの関係

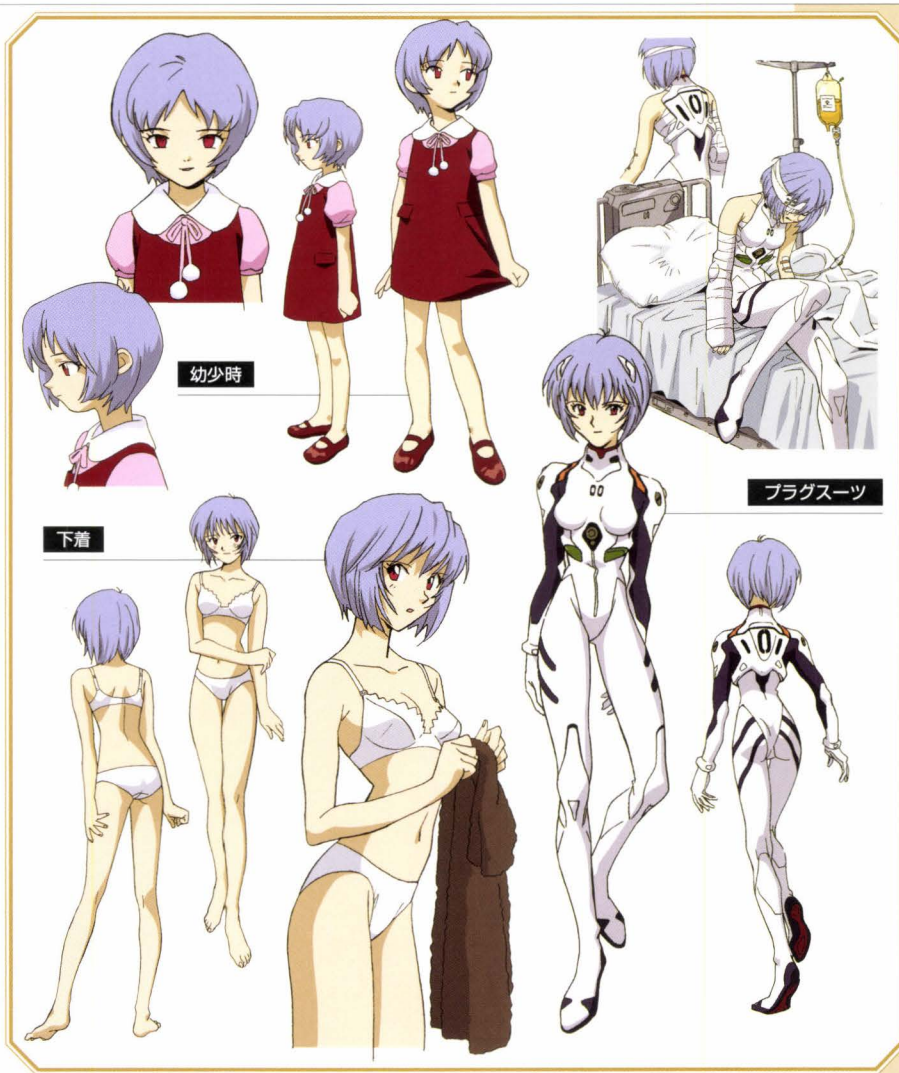
碇ユイを失った後、レイを側に置くようになったゲンドウ。ゲンドウが執着していたのは自分ではなかったことに気づいたレイは人類補完計画発動直前、「私はあなたの人形じゃない」と呟き、深い信頼を寄せていたゲンドウを裏切った。

計画発動の直前に、ゲンドウを拒否するレイ。ゲンドウの計画は発動直前で彼の手を離れ、シンジたちへと託されることとなった。

▶ 人物相関図（第拾四話～）

活動

ゲンドウの側に置かれるようになってから、人類補完計画を完成させるためのパーツとして、使徒を倒すための人形として、さらには碇ユイの身代わりとして存在することとなったレイ。感情が希薄であり「自分にはなにもない」と口にしていたレイだが、使徒との戦いやそこから生まれた人間関係の中で、徐々に変化するさまを見せた。第16使徒との戦闘の最中に自分自身の内面と向き合ったレイは、ひとりでいることを怖れる「寂しい」という感情を知った。また、第16使徒の意表をついた動きに押され、レイ自身も体の一部を侵食された際、シンジへの思いが初号機への侵食攻撃に繋がると悟った彼女は、自らの意志で零号機を自爆させている。なお、ゼーレが主導する人類補完計画発動直前、レイはゲンドウを裏切り、リリスと融合する道を選んだ。黒き月を胸に抱いて翼を生やしたリリスは、アンチA.T.フィールドを展開。全人類をL.C.L.の海へと誘った。さらに世界の始まりと終局がもたらされるかのように思われたとき、レイはシンジに向かって語りかけた。リリスとなったレイは新しい人類となるシンジに道を示し、結果的に人類補完計画は、シンジの意志に基づいて未完に終わることとなった。

ゲヒルンを訪れた子供の姿のレイ。ゲンドウは「知人の子」と紹介したが、赤木ナオコはユイの面影を見ていた。

黒き月から溢れ出た赤い液体を浴び、地表に落ちていったレイの体。その周囲では、多くの生命が輝いていた。

所属 NERV

汎用人型決戦兵器
人造人間エヴァンゲリオン零号機（改）

EVA-00' PROTOTYPE

Illustration by Hirofumi Ichikawa

第5使徒の加粒子砲による攻撃で外部装甲が融解、後に青いボディへと換装されたEVA零号機（改）となって使徒との戦いに臨むことになったEVA零号機。第9使徒戦以降は安定した稼動を見せ、僚機のバックアップを担当することが多かった。これは専属操縦者の戦闘適性、あるいは単純に作戦上の役割分担のためとも思われるが、試作機としては十分実戦に耐え、一定の戦果を残した点は評価に値すると言えるだろう。なお、機体相互互換試験の際にサードチルドレンが搭乗、制御不能となったが、これは本来乗り手を選ぶEVAの性質上、想定され得るケースというべきであろう。また、起動実験の際はファーストチルドレンの精神状態に問題があったとする見解もあり、実際のところ機体自体は正常であったとも考えられる。制御不能となった零号機には敵意のような意志が見受けられ、その際、赤木リツコ博士は「零号機が殴りたかったのは、私ね」と独白している。EVAには人間の魂が宿されているとも言われているが、リツコの言葉の真意は定かではない。

再就役を果たしたプロトタイプ

DATA

- 機　体：EVA-00' PROTO TYPE
  零号機（改）
- 搭乗者：1st Children
  綾波レイ
- 主装備：スナイパーライフル
  パレットライフル
  プログレッシブ・ナイフ　他

使徒との交戦記録（第拾四話～）

第12使徒レリエル	⇒交戦後退却
第13使徒バルディエル	⇒敗北
第14使徒ゼルエル	⇒敗北
第15使徒アラエル	⇒単独にて殲滅
第16使徒アルミサエル	⇒自爆にて殲滅
第17使徒タブリス	⇒交戦せず

EVA零号機(改)

機体の特徴とおもな使用武器

NERV本部が所有するEVAの中では、おもに実験や研究による情報収集を目的としていた零号機。同機がこなした実験のほとんどは前例がなく、想定外の事故が発生する危険性も孕んでいた。なお、実戦に耐え得る能力を十分に有していた零号機は、戦闘において様々な兵器を使用、実戦でのデータ収集にも貢献した。零号機はプロトタイプゆえに単独での戦果はほとんどないが、専属操縦者の堅実な運用により、チームプレイが必要な局面では重要な働きを担った。

失敗作

完成までに14年の歳月を必要としたエヴァンゲリオン。その試作機である零号機の完成までには様々な失敗作が建造され、NERV地下にあるターミナルドグマには、頭部と脊髄のみの山吹色の機体が数多く放置されている。

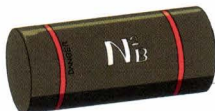
完成した零号機は単眼だが、数多の失敗作の中には双眼、複眼の頭部などが見受けられ、その試行錯誤のほどが窺える。

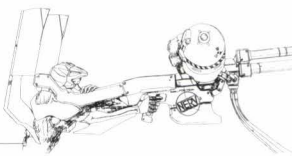
失敗作が多く、膨大な予算と犠牲を必要とした零号機。ターミナルドグマの一角には、まるで墓場のような光景が広がっている。

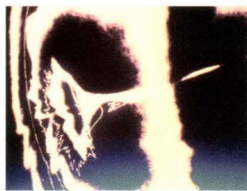
銃火器類

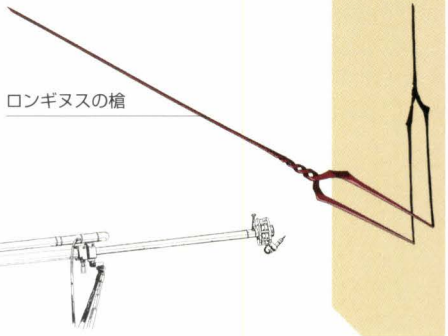
零号機の戦闘スタンスは、おもに銃火器を用いた僚機のバックアップである。レイの沈着冷静な性格もサポート役に向いていると考えられる。そのため、射程、威力共にパレットライフルを上回るスナイパーライフルや、スタンドアローン型に改良されたポジトロンスナイパーライフル改など、僚機の援護にうってつけな銃火器を使用する機会が多かった。

スナイパーライフルでの遠距離射撃態勢をとる零号機。レイの戦闘適性ゆえか、使徒との実戦において援護を担うことが多かった。

第15使徒戦では、ポジトロン20Xライフル以上の長射程を持つ大出力のポジトロンスナイパーライフル改を使用した。

n^2爆弾

ポジトロンスナイパーライフル改

特殊兵器

零号機は格闘武器、銃火器などの通常兵器のほかにも、n^2爆弾、ロンギヌスの槍といったEVAの制式装備に該当しない特殊兵器を使用している。人間の手と同じ形状の手部により様々な機構の武器を運用できる、EVAならではの柔軟さを表している。使徒という未知の存在に対し臨機応変の対処を施すには、人型の兵器が最適であったと考えられる。なお、これらの特殊兵器を使用したEVAは零号機のみであり、同機及び専属操縦者は特異な存在であったことが窺える。

A.T.フィールドに対する絶対的な突破能力を持つロンギヌスの槍。投擲時には二股の先端が収束し、第15使徒のA.T.フィールドを突破した。

ロンギヌスの槍

使徒との戦闘

特殊ベークライトで凍結されていたため、15年振りの使徒来襲時には出撃できなかった零号機。第5使徒戦で凍結を解除され防御を担当するものの、その戦闘で敵の加粒子砲により装甲が融解。再就役にあたり青い装甲へと換装された零号機（改）となり、対第9使徒戦から戦線に復帰した。再就役時の装甲は弐号機と同様のものに改装されており、防御面やメンテナンス性が向上。また、肩部ウェポン・ベイ兼ハードポイントによりプログレッシブ・ナイフ、非常用電池、ハードケースといった装備の拡張性も得た。そのため十分に実戦可能な機体性能を獲得し、後の使徒戦、特に弐号機の戦闘力が低下した中での戦いにおいて重要な役割を果たした。零号機はNERV本部が所持する3機のEVAの中で、実戦回数は最も少ないが、チームプレイにおいては初号機、弐号機を援護するなど堅実な役割を果たした。さらに第15使徒はロンギヌスの槍を用いて単独で殲滅。第16使徒は自爆という強硬手段を用いて殲滅する働きも見せている。

専属操縦者・綾波レイ

他の適格者のように機体自体への思い入れは見受けられないものの、自分が零号機に乗る理由を「人との絆」と話すレイ。彼女は、かつて起動実験の事故の際、自分を救出してくれた碇ゲンドウとの絆を強くした。第5使徒殲滅後、その時とほぼ同じ形でゲンドウの息子であるシンジに救出されたレイは、彼との絆も強くしていくこととなる。

初号機への侵食攻撃を阻止するため、自爆の道を選んだレイ。シンジに対しては特別な感情を抱いていたようだ。

EVA初号機の交戦記録

第5使徒戦に投入された後は、改修のため第9使徒戦から再就役した零号機。使徒との戦闘数は8回、殲滅数は2体と少ないが、n^2爆弾の使用や自爆など、その危険を省みない攻撃は他のEVAではなし得なかったと言えるだろう。

第5使徒ラミエル戦 RAMIEL

起動実験に成功して間もなく、調整もままならない機体でヤシマ作戦における防御役を担う。その際、初号機の第一射と敵の第一射は、互いに干渉し合い外れてしまう。EVA専用耐熱光波防御兵器を用いた零号機が敵の第二射を防いでいる間に、初号機が敵を打ち抜いた。ただし、零号機は敵の加粒子砲によって装甲が融解、大破した。

第9使徒マトリエル戦 MATRIEL

EVA3機のチームプレイにおいてバックアップを担当。敵の溶解液を受け縦穴に落下したパレットライフルを回収。オフェンス担当の初号機へとパスする役目を担った。

第10使徒サハクィエル戦 SAHAQUIEL

自身を質量爆弾として落ちてくる使徒を受け止めるため落下地点に急行。プログレッシブ・ナイフで敵のA.T.フィールドを切り開き、弐号機の攻撃をアシストした。

第12使徒レリエル戦 LELIEL

敵と距離を置き、スナイパーライフルによる遠距離からの狙撃によるバックアップを担当。初号機が虚数空間に飲み込まれた際に退却し、初号機の救出作戦のため待機した。

第13使徒バルディエル戦 BARDIEL

使徒に寄生された3号機を待ち伏せて背後を取るが、攻撃を躊躇した隙に組み敷かれ、使徒による侵食を受けたため左腕部を切断。それに伴うパイロットの負傷により活動不能となる。

第14使徒ゼルエル戦 ZERUEL

まず弐号機がジオフロントに侵入した使徒を迎撃するも、完膚なきまでに敗退。急遽、零号機が左腕部の修復も終わっていない状態での出撃を余儀なくされる。零号機は侵攻を続ける敵に対し、n^2爆弾を抱えての特攻を敢行。敵のコアに直接触れて起爆させようと試みるも防御されてしまい、爆風の中、敵の刃状の腕部で頭部を切断されて活動を停止した。

第15使徒アラエル戦 ARIEL

ポジトロンスナイパーライフル改を用いて衛星軌道上の敵に長々距離射撃を試みるも、A.T.フィールドを貫けず失敗。その後、ロンギヌスの槍を投擲して殲滅に成功する。

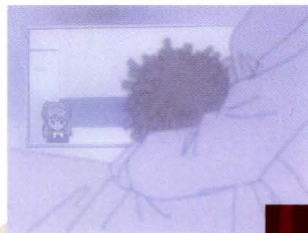
第16使徒アルミサエル戦 ARMISAEL

スナイパーライフルによる遠距離からの先制攻撃を狙うも、近接戦闘に持ち込まれ、敵の侵食攻撃を受ける。凍結を解かれ、援護のために出撃した初号機への侵食攻撃を阻止するため、A.T.フィールドを反転させて使徒を抑え込み自爆、殲滅した。なお、生存の見込みはないと思われていた操縦者は後に発見され、生還を果たしている。

NERV

惣流・アスカ・ラングレー

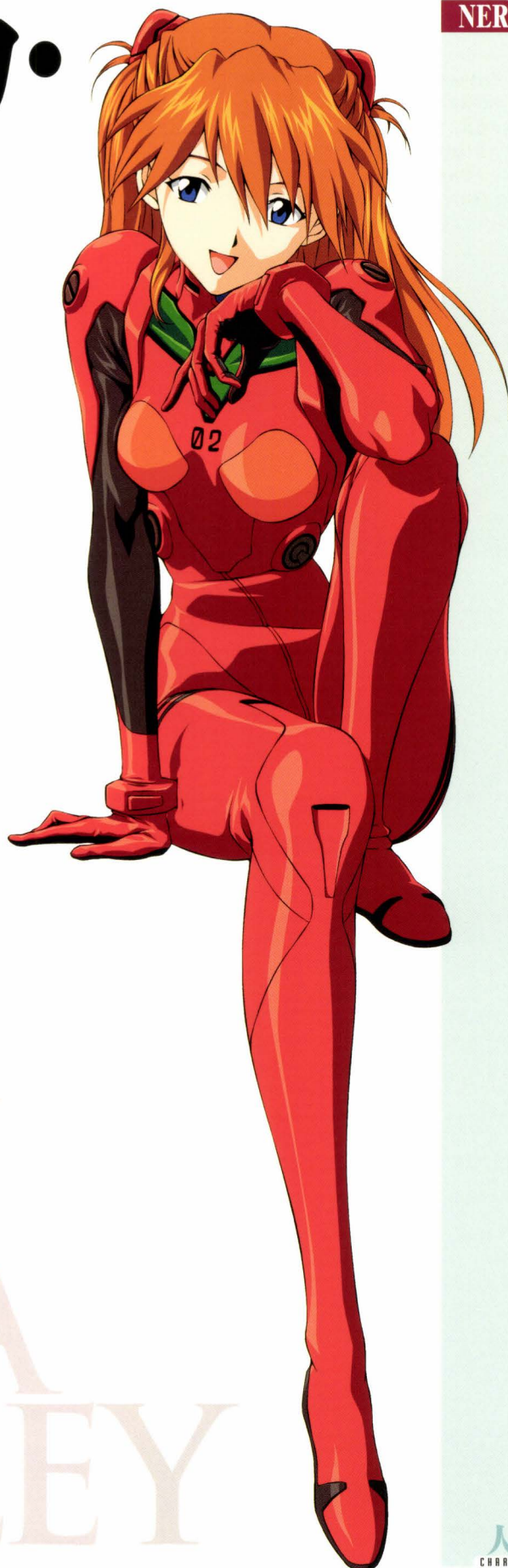
**EVAの操縦に誇りを持つ"第2の適格者"。
使徒との度重なる戦闘、そしてEVA量産機との戦いの果てに強い喪失感を覚えることとなる。**

自信に満ち溢れた明朗快活な適格者——、それがEVA弐号機の専属操縦者、惣流・アスカ・ラングレーである。EVAに乗る理由を「自分の才能を世に示すため」と口にしていたアスカは、EVAに乗ることでしか自身の存在価値を認められず、異常なほどに高いプライドを持っていた。そういった彼女の性質は、母に関するトラウマから生まれた「自分が一番でなければ、誰も見てくれない」という思考に起因していると考えられ、さらに突き詰めていけば「他人に自らの存在を認めてもらいたい」という飢えにも似た気持ちが見て取れる。アスカは、実は不安定な精神を秘めた非常に脆い存在だったと言えるだろう。EVAに乗ることや、それに付随する人間関係——特に自分よりも活躍している碇シンジとの関係により、アスカの精神は少しずつ安定を失い、ついには崩壊していく。彼女を支えていたのはEVAに乗って戦っているという事実だったが、その戦いの果てにあったのは「誰も自分を見てくれない」という失意だけだった。

精神汚染の影響で人形を自らの娘と思い込んでいた母。実の母親に娘と見てもらえなかったことは、幼いアスカの性質の形成に大きな影響を与えたようだ。

第14使徒との戦いにおいて完敗を喫したアスカ。この事実は自身が考える彼女の存在意義を大きく揺るがした。精神的な脆さを露呈し、続く第15使徒にも敗れたアスカは、以降、ほぼ戦力外の存在となる。

SORYU ASUKA LANGLEY

PERSONAL DATA
- 名前：惣流・アスカ・ラングレー
- 年齢：14歳
- 国籍：アメリカ合衆国
- 生年月日：A.D.2001/12/04
- 血液型：A型
- 所属：NERV/EVA弐号機専属操縦者

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人間関係

プライドが高く、積極的な性格の持ち主であるアスカ。ただし、それが強すぎるがために、精神的に不安定な状態の時にはEVAに乗ることすらままならない状態に追い込まれてしまう脆さも持っていた。そういったアスカのパーソナリティに最も大きな影響を与えたのは彼女の母、惣流・キョウコ・ツェッペリンだろう。実験により精神汚染を受けた母親との記憶が、「母が自分を見てくれない」という意識を強固なものとした。さらに、アスカがセカンドチルドレンに選出された日、彼女が見た母の遺体は「選ばれた存在なのに、見てもらえない」というトラウマを生み出すこととなり、極めて自己顕示欲が強いアスカを形成したと考えられる。NERV本部に所属してからのアスカの行動、言動にも無意識に支えとなる存在を探している弱い一面が見え隠れしており、強く想いを寄せていた加持リョウジの存在を失った後、第15使徒の精神攻撃により、憧れていた加持と馬鹿にしていた碇シンジがアスカの心の中でほぼ同じ位置にあることが暴かれた。

加持の喪失を愛憎半ばの感情を向けるシンジから聞かされたことは、アスカにとって受け入れ難いものだった。

■ 碇シンジとの関係

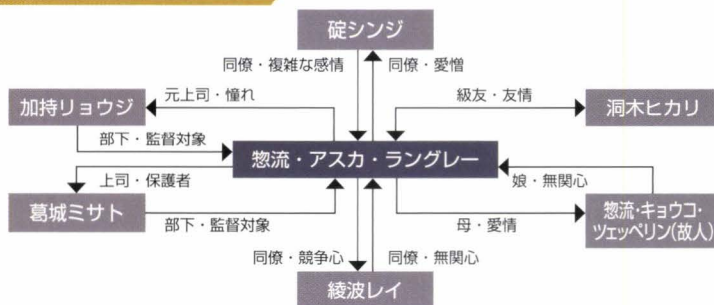
碇シンジに対しては基本的に馬鹿にするような態度を取りつつ、異性としての興味も示していたアスカ。しかし、シンクロ率において後塵を拝した時から、彼に対して愛憎入り混じったような不安定な様子を見せていくこととなる。

シンジが自分よりも高いシンクロ率を記録し、激昂するアスカ。以降、シンクロ率の低下や度重なる敗北により自暴自棄となる。

■ 加持リョウジとの関係

アスカの保護者的存在であり、憧れの対象でもあった加持リョウジ。日本において間諜として活発に動いた彼は、何者かの凶弾により倒れる。加持を失ったことは、EVA操縦者としての能力を失い傷ついていたアスカに追い討ちをかけた。

アスカに対して常に一定の距離を保ち続けていた加持は、そのまま帰らぬ人となった。その喪失感も、アスカの心に影を落とす。

▶ 人物相関図(第拾四話〜)

活動

初戦の第6使徒戦以降、EVA弐号機専属操縦者としてめざましい活躍を見せたアスカ。ただし、第12使徒戦を前にシンクロテストにおいてトップの座をシンジに奪われた時から、その精神的な脆さを露呈。第14使徒戦では完膚なきまでに打ちのめされ、第16使徒戦においては、シンクロ率の低下により弐号機を動かすことすらままならない状態となる。しかし初号機を依り代とした人類補完計画が実行に移される直前、アスカは一時的に戦線復帰。戦略自衛隊を壊滅寸前に追い込み、その後9機のEVA量産機と交戦するも、活動限界に達した弐号機は成す術もなく破壊され、アスカはまたも敗北を喫することとなった。なお、人類補完計画の進行中、シンジの精神世界において彼と対峙したアスカは「あんたが全部私の物にならないなら、私、何もいらない」という言葉を口にした。しかし、その言葉に対するシンジの感情は非常に曖昧であり、ただ「楽な居場所」としての彼女の存在を求めた。逃げる場所にされたという事実はアスカを傷つけ、彼女はシンジを受け入れることを拒否する。結果として初号機を依り代とした人類の補完は成されなかったが、残されたふたりの関係がどのような変化を見せたかは定かではない。

一度は殲滅したEVA量産機たちに食い荒らされる弐号機。アスカは、そこに宿った母の魂と思われるものをも失うこととなった。

自分の首を絞めるシンジに対して手を差し伸べた直後、アスカは「気持ち悪い」と突き放すようにつぶやいた。

所属 NERV

汎用人型決戦兵器
人造人間エヴァンゲリオン弐号機

EVA-02 PRODUCTION MODEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

安定したスペックを誇るEVA弐号機。専属操縦者であるアスカの練度も高かったが、その戦果はEVA初号機に及ばなかった。ひとつには、これは規格外の能力を発現する状態——“暴走”と呼ばれる状態を引き出せなかったためである。無論、暴走は操縦者の制御を離れるという特異な状態であり、本来あってはならない事態である。また機体と操縦者の精神的な結びつきが“人造人間”であるEVAの性能を左右するという事実は、シンクロというかたちで証明されている。アスカは特別な思い入れを持ってはいたもののあくまでEVAを“機械”として見ていたため、「機械としてのEVA」の性能しか引き出せなかったとも考えられる。そうであるならば弐号機は、暴走に頼らず、操縦者の技量によってその真価を発揮した完成度の高いEVAだったと言えよう。なお弐号機は、第6使徒戦においては秘めた性能を発揮して顔面部の装甲（拘束具）を開くという変化を見せ、EVA量産機との戦いでは、大破しながらも暴走の兆候を見せている。

EVAの真価を窺わせた制式機

■ 機体：EVA-02 PRODUCTION MODEL 弐号機
■ 搭乗者：2nd Children 惣流·アスカ·ラングレー
■ 主装備：プログレッシブ·ナイフ（改） ソニックグレイブ スマッシュ·ホーク 他

使徒との交戦記録（第拾四話～）

使徒	結果
■ 第12使徒レリエル	⇒交戦後退却
■ 第13使徒バルディエル	⇒敗北
■ 第14使徒ゼルエル	⇒敗北
■ 第15使徒アラエル	⇒敗北
■ 第16使徒アルミサエル	⇒交戦せず退却
■ 第17使徒タブリス	⇒使徒に操られ初号機に敗北

EVA EVANGELION

機体の特徴とおもな使用武器

量産を前提とした機体だけに完成度が高く、暴走など制御不能な状態に陥ることのない安定した性能を発揮。テストタイプの実戦データをフィードバックすることで、総合的に能力が向上していると考えられるEVA弐号機。戦闘においては操縦者の性格も相まってか、様々な武器を使用して多彩な攻撃を見せた。なお、同機は第17使徒に操られ、NERV本部内にて初号機と交戦した。その際に破壊されたため、急遽、頭部装甲などを中心に改修が施されている。

■ 銃火器類

使徒との戦闘でパレットライフル、ハンドバズーカ、バズーカといった実弾系銃火器を使い分けていた弐号機。また、作戦に応じてEVA専用ポジトロンライフル、ポジトロン20Xライフルといった陽電子系銃火器も使用した。

第14使徒戦ではハンドバズーカなど実弾系の銃火器による連続攻撃を見せた弐号機だったが、その効果は見られなかった。

バズーカ

■ 格闘武器類

作戦行動時は敵に接近し、近接戦闘を仕掛ける機会も多かった。そういった際、弐号機はプログレッシブ・ナイフのみならず、長柄の薙刀ソニックグレイブ、武器自体の質量で威力を高めた斧スマッシュ・ホークといった高振動粒子の刃を持つ格闘武器類を用いた。銃火器と同様に多種の武器を用いていることから、アスカの非凡な操縦センスが窺える。

決定打とはならなかったものの、一刀で第7使徒を両断したソニックグレイブ。EVAの格闘武器の中では最大のリーチを誇る。

第12使徒戦で弐号機が携行したが、武器ではなく踏み台として使われたスマッシュ・ホーク。以降も対使徒戦で使われることはなかった。

スマッシュ・ホーク

開いた状態の頭部装甲

改装後の頭部装甲

■ 頭部装甲

第17使徒に操られた際、初号機と交戦して破壊された弐号機。その修復の際には素体の改修も行われたと考えられ、新たな生体部品に合わせて装甲も改修されたものと推測される。装甲部分の中で最も形状が変化したのは頭部で、額、顎部のディティールを中心に、大幅な改修が施されている。なお、弐号機は、第6使徒戦においては秘めた性能を発揮。過去最高のシンクロ率を記録した際には顔面部の装甲が開き、素体本来の眼をのぞかせた。

第6使徒戦において、操縦席にいたふたりの思考が一致。高いシンクロ率を記録した際に顔面部の装甲が開き、驚異的な力を発揮した。

改装後の装甲（背面）

改装後の装甲（前面）

EVA弐号機の戦闘

EVAの制式機として、零号機、初号機よりやや遅れてNERV本部に配備された弐号機。輸送中に突如襲撃してきた第6使徒との戦闘以降、多くの使徒戦で活躍。さらには局地戦用EVA-D型装備で火口に潜行し第8使徒を殲滅するなど、そのポテンシャルの高さを見せた。第12使徒戦以降は使徒殲滅という至上命題を果たす機会に恵まれなかったが、戦果が伴わなかったのは、テストタイプながら十分な戦闘力を有していた初号機の活躍と、アスカと弐号機のシンクロ率の低下にあったと言えるだろう。なお、第17使徒戦後に改修が施された弐号機は、ゼーレがNERV本部の直接占拠に及んだ際、EVA量産機と交戦。3分半ほどの活動時間で、9体のEVA量産機を相手取ることになった。精神衰弱状態から復帰し、弐号機の中に“母”を感じ「A.T.フィールドの意味」を知ったアスカはその力を十二分に使いこなし、圧倒的な力でEVA量産機をねじ伏せていったものの、ロンギヌスの槍のレプリカに対しては無力であり、結果的には敗北を喫した。

■ 専属操縦者・惣流・アスカ・ラングレー

専属操縦者であるアスカは弐号機に対して強い思い入れを持つ様子を見せつつも、結局はただの兵器としてしか捉えていなかった。しかし、母の魂と思われるものの存在を知ったとき、彼女はそれまでにない力強さを得る。「母が護ってくれている」という感覚は、自己顕示欲に基づいた空虚な自信とは異なる確かな力をアスカに与えたのである。

死に直面した時、弐号機に母のイメージを見たアスカ。それをきっかけにEVAに心を開き戦う力を取り戻した。

■ 使徒との交戦記録

初戦となった第6使徒戦を皮切りに、10体もの使徒と戦い、5体の使徒殲滅に貢献した弐号機。しかし、第13使徒戦以降は連敗を重ね、第17使徒戦では使徒に操られ、初号機と戦闘。使徒がアダムと接触するまでの足止めに使われた。

第6使徒ガギエル戦 GAGHIEL

輸送中に第6使徒と遭遇し、水中戦を行う。使徒の口内に捕らわれるも、同乗したアスカとシンジの一念は高いシンクロ率を発揮し、太平洋艦隊との共同作戦を成功に導いた。

第7使徒イスラフェル戦 ISRAFEL

初号機との初の共同作戦。初戦は予期せぬ分裂能力により敗北するも、アスカとシンジはユニゾンによる攻撃を特訓。再戦時には使徒のコアへの二点同時過重攻撃を決め、殲滅に成功する。

第8使徒サンダルフォン戦 SANDALPHON

成体前の使徒を捕獲すべく局地戦用EVA-D型装備で火口に潜行するも、捕獲後突如羽化した使徒との戦闘に突入。高温高圧に耐える強固な敵の体を、熱膨張を利用して殲滅した。

第9使徒マトリエル戦 MATRIEL

初のEVA3機によるチームプレイにおいて、ディフェンスを担当。マトリエルのA.T.フィールドを中和しつつ溶解液を防ぎ、零号機から初号機へパレットライフルが渡される時間を稼いだ。

第10使徒サハクィエル戦 SAHAQUIEL

自身を質量爆弾として落ちてくる使徒を受け止めるため落下地点に急行。零号機のサポートを受け、プログレッシブ・ナイフで敵のコアを攻撃し殲滅に成功した。

第12使徒レリエル戦 LELIEL

零号機と共にバックアップを担当。初号機と同様に虚数空間に飲み込まれそうになるが、影の危険性に気付き、逃走に成功。以降は、初号機の救出作戦のため待機した。

第13使徒バルディエル戦 BARDIEL

バズーカで武装し、野辺山にて第13使徒を待ち伏せる。シンジに、使徒にのっとられた3号機の操縦者が鈴原トウジであることを伝えようとした瞬間、使徒の攻撃を受けて敗北した。

第14使徒ゼルエル戦 ZERUEL

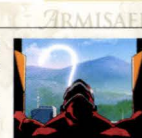
ジオフロントに侵入した第14使徒を、パレットライフル、ハンドバズーカといった銃火器で迎撃。しかし効果はみとめられず、使徒の攻撃で両腕、次いで頭部を切断され敗北を喫した。

第15使徒アラエル戦 ARIEL

ポジトロン20Xライフルを用い独断で衛星軌道上の敵に長々距離射撃を試みるも、攻撃は届かず。使徒の精神攻撃によって弐号機とシンクロできなくなるほどのダメージを受けた。

第16使徒アルミサエル戦 ARMISAEL

待機中、零号機の危機に際して出動命令が下されるも、シンクロ率が2ケタを切ったアスカは弐号機を動かすこともできず、使徒と戦うことなく強制的に退却させられた。

第17使徒タブリス戦 TABRIS

アスカの代わりとして派遣された渚カヲル——第17使徒に操られた弐号機はターミナルドグマへと侵攻を開始。足止め役として使われ初号機と交戦し、同機によって破壊された。

所属 NERV

渚カヲル

**碇シンジに好意を寄せる“第5の適格者”。
第17使徒である彼は、そのシンジの手により、
死という絶対的自由を得た。**

シンクロ率の著しい低下によりEVA弐号機を起動させることが不可能となったセカンドチルドレンに代わるEVA操縦適格者として、人類補完委員会により直接的にNERVへと配属されたフィフスチルドレン——それが渚カヲルである。その過去の経歴は生年月日を除きすべてが抹消済みであり、人類補完委員会直属の諮問機関、マルドゥック機関より提出された報告書においても、その存在は完全に非公開とされていたようである。

カヲルはただのヒトの少年ではなく、その正体は第17使徒タブリスであった。彼は使徒としての使命を果たすべくターミナルドグマ最深部へと侵攻し、「アダム」との接触を図った。しかし、そこに在ったのはアダムではなく「リリス」であると看破したカヲルは接触を中止、その後追撃してきたEVA初号機に身を委ね、殲滅された。生と死は彼にとって等価値なものであった。好意の対象だったシンジの手による死は、彼の自由意志によって選択された道であり、結果的に未来をヒトへと譲る行為であった。

予定していたのか、それとも偶然なのか、夕暮れ時の湖畔でシンジと出会ったカヲル。彼は率直に好意を示すことで、あっさりと内向的なシンジの警戒心を解いた。

フィフスチルドレンの肩書きをもってNERV本部に潜り込んだタブリス。使徒としての能力をあらわにした後、弐号機を操ることで自らの武器とし、追撃する初号機に差し向けた。

PERSONAL DATA
- 名前：渚カヲル
- 年齢：15歳
- 国籍：不明
- 生年月日：A.D.2000/09/13
- 血液型：不明
- 所属：NERV

KAWORU NAGISA

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人物 CHARACTER

渚カヲル

人間関係

人類補完委員会——実質的にはゼーレによってNERV本部に配属された渚カヲル。その特異な処遇は、葛城ミサトら一部のNERVスタッフに疑念を与えた。ただ、カヲルといち早く接触した人間——碇シンジにとってのカヲルは友人として非常に大きな存在だった。カヲルはシンジのことを「好意に値する」と評したが、それは、シンジにとって初めてのことであった。それが大きな契機となり、カヲルは周囲に友人と呼べる存在を失ったシンジの内部に深く入り込むこととなる。しかし彼は、シンジにとって倒すべき敵——使徒であった。その事実を知り憤るシンジに、カヲルは自らの死を託した。この行為は、好意を寄せたシンジに、自分を消すことでヒトが生きる道を選び取って欲しいと望んだためとも見て取れる。なお、カヲルはごくわずかながら、綾波レイとも接触を図っている。「君は僕と同じだね」とカヲルに語りかけられたレイは、後に「私と同じ感じがする」と独白。互いに「特異な存在」であることを感じ合っていたようだ。

シンジに対し「僕は君に会うために生まれてきたのかもしれない」と告げたカヲルは嬉しそうな笑顔を浮かべた。

■ 碇シンジとの関係

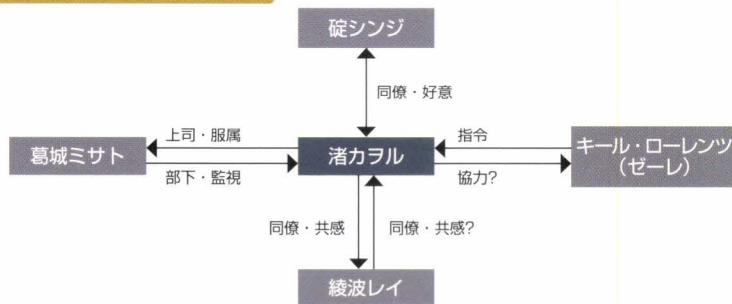
碇シンジと接触した結果、彼に好意を寄せ、積極的に友人関係を作ろうとしたカヲル。ヒトとしての彼が取った行動はシンジの心を開かせるに十分なものだったが、それゆえに、結果的にシンジに深い絶望感を与えることとなった。

シンジに自らの死を託し、会えて嬉しかったと口にしたカヲル。彼は死の直前まで、シンジに対する好意を失うことはなかった。

■ ゼーレとの関係

ゼーレの手によってNERVに送り込まれた"使徒"であるカヲル。湖畔にてコンタクトを図った両者だが、そこでの会話で判明したことは、カヲルがアダムの魂を宿す者という事実のみであり、彼らの関係については明らかなっていない。

サルベージされたアダムの魂を内に持つというカヲル。なお、そのアダムの魂は、ゼーレによって回収されたものだという。

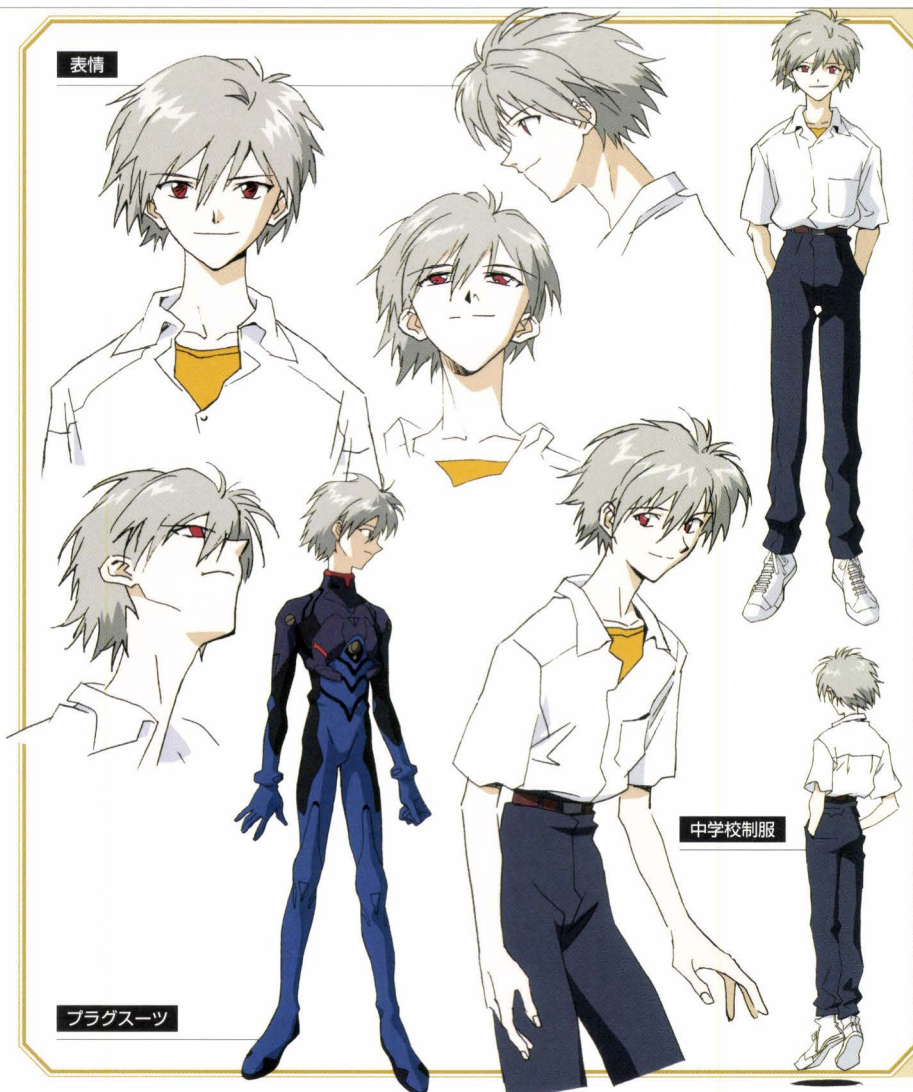
▶ 人物相関図

活動

NERV本部に配属されたカヲルは、配属直後のシンクロテストにおいてコアの変換なしに驚異的なシンクロ率を記録。EVAのシステム上有り得ないその数値に、NERVの面々は疑念を募らせた。なお、その後、カヲルは自らの意志でEVAとのシンクロ率を設定する能力を持っていることが判明したが、それもまた理論上有り得ない事態だった。

カヲルは使徒の中でも「ヒト」の形を持つという点において、特異な存在である。彼は適格者のひとりであるシンジとの一次的接触を成功させたが、これはヒトの形を持っていたがゆえに可能であったと言える。ただ一次的接触を図るだけならば、好意を表明する必要はなく、カヲルは使徒の使命という意味合いのみでシンジに近づいた訳ではないとも考えられる。その狙いは定かではないが、カヲルはあえて「ヒト」として接触を図ったと見るべきだろう。そうしてカヲルはシンジとの友情を深めた後、他の使徒と同様にアダムとの接触を図った。彼は弐号機を操ってシンジの乗る初号機の追撃を押さえ、ターミナルドグマに到達。しかし、NERVに秘匿されていたものがアダムではなくリリスであったため目的は果たされず、彼は自己の死を選択し、初号機により殲滅された。

素直に好意の言葉を口にするカヲル。それが本心から発せられたものと感じたシンジは心を動かされた。

生と死は等価値だと語るカヲル。彼は使徒という種の滅亡を選択することで、未来をシンジへと譲り渡した。

所属
ゼーレ

人類補完計画のために建造されたゼーレ直轄のEVA——それがEVAシリーズと呼称される5〜13号機までのEVA量産機である。その基本構造はNERV本部が所有するEVAと変わらないが、その外観、機体性能は従来のEVAとは一線を画すものであった。外観は非常に生物的なものであり、機能面では無限の稼動を可能とする動力源——永久機関「スーパーソレノイド機関」通称「S²機関」を実装するなど、従来のEVAにない特異性を有していた。これらを見ただけでも、量産機が生産性の向上のみを目的として量産されたものでないことは明白である。9体のEVA量産機は、本来の目的である「使徒殲滅」に使われるものではなく、その力はゼーレに対し叛意を示したNERVとの戦いにおいて弐号機に振るわれ、十二分にその役目を果たした。さらに、ゼーレ主導による人類補完計画が遂行される運びとなった際には、初号機を依り代としてサードインパクトを誘発させるという重要な役割を担う機体だったことが明らかになった。

ゼーレ直轄の量産モデル

EVA SERIES 05-13 MASS PRODUCTION MODEL

DATA

- 機　体：EVA SERIES 05-13 MASS PRODUCTION MODEL 量産機
- 搭乗者：ダミープラグ
- 主装備：ロンギヌスの槍（レプリカ）

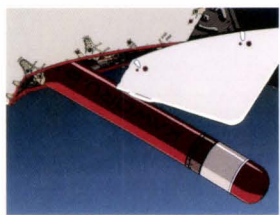
汎用人型決戦兵器 人造人間エヴァンゲリオン量産機

Illustration by Hirofumi Ichikawa

機体の特徴とおもな使用武器

兵器としては異質ともいえる、人間を模したフォルム。重装甲に覆われた全身——。9体のEVA量産機も、その基本構造は他のEVAと変わらない。しかし、肩部装甲を持たず、頭部形状がNERV本部所有のEVAとは異なるなど、相違点は多い。S²機関や主翼の搭載など、その機能面の違いも非常に大きい。量産機と称されながらも、量産化を前提に開発された弐号機と大きく異なる、非常に特徴的な外見と能力を持つこととなったEVA量産機。その理由は、この機体が対使徒戦を見据えたものではなく、人類補完計画遂行のために開発されたためと考えるのが妥当であろう。

■ ダミープラグ

機体ごとに頭部、胸部装甲などに差異が見受けられるEVA。量産機はエントリープラグ（ダミープラグ）挿入口がシンプルな形状となっている。なお、ダミープラグのシステムベースはフィフスチルドレンである渚カヲルと考えられるが、基本的な戦闘力においては弐号機に及ばなかったことから、その性能はさほど高くなかったと言えるだろう。

ダミープラグには「KAWORU」と記されていることから、渚カヲルのパーソナルデータを用いたものと思われる。

■ 特殊装備

従来のEVAと比較した際、その能力の高さがはっきりと見て取れるEVA量産機。巨大な翼による滑空及び動力飛行（羽ばたきによる継続的な上昇飛行）能力、さらにS²機関の実装による無限の稼働時間と驚異的な再生能力や、アンチA.T.フィールド発生能力を備えている。これら従来のEVAが持たない特殊な装備は、決定的とも言える機体性能の差を生み出した。初戦においてはEVA弐号機により次々と活動停止に追い込まれた量産機だが、S²機関によるものと思われる再生能力によって活動を再開。唯一の武装であった両刃の大剣を用い、弐号機の打破に成功した。対使徒戦ではなく、対EVA戦を見据えた量産機は見事にその役目を果たし、ゼーレ主導による人類補完計画が遂行される運びとなった。

巨大な翼を持つが弐号機との戦闘時には収納し、飛行能力を持つという優位性を活かそうとはしなかった。

活動停止に追い込まれたEVA量産機たちは、その驚異的な再生能力によって活動を再開。弐号機を沈黙させた。

■ ロンギヌスの槍（レプリカ）

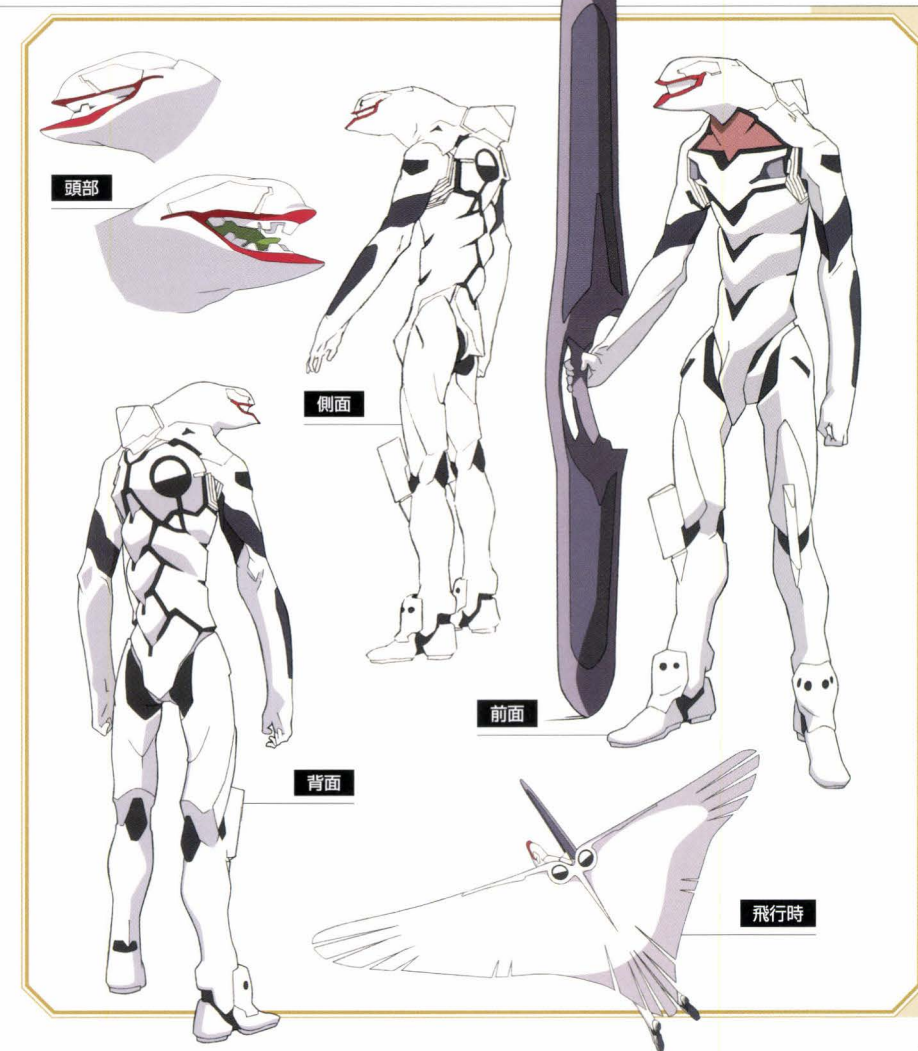
量産機の唯一の武装である両刃の大剣は、A.T.フィールドに対して絶対的な突破能力を誇る「ロンギヌスの槍」のレプリカだった。あくまでイミテーションコピーと思われるが、A.T.フィールドを貫く力はオリジナルと比べても遜色ないもののようであり、投擲された同武器は槍の形状をとり、弐号機のA.T.フィールドを容易く貫通した。また、ロンギヌスの槍のレプリカは武器としての性能が高いだけでなく、サードインパクトの発生において、初号機の掌に聖痕を刻む役割も果たした。よって同武器は、対EVA戦と人類補完計画に焦点を絞った量産機ならではのものだったと言えるだろう。

弐号機の頭部を貫いたロンギヌスの槍のレプリカ。A.T.フィールドを無効化する強力な格闘武器だった。

交戦記録

量産機はすべての使徒が殲滅された後、叛意を示した碇ゲンドウ及びNERV本部制圧のために投入された。まずは戦略自衛隊がNERV本部の直接占拠に乗り出すが、周囲に展開された陸上、航空戦力、艦艇といった通常戦力は、復活した弐号機によりほぼ壊滅。その後に対EVA用の戦力として現存する9体の量産機が投入され、交戦状態に入る。弐号機の猛攻の前に9号機、11号機、7号機、6号機、12号機、8号機、10号機、5号機、13号機の順に屠られた量産機だったが、弐号機の活動時間が残り数秒となったときロンギヌスの槍のレプリカが頭部に命中し、その活動を停止させることに成功する。戦闘は実質的には弐号機の圧勝とも言えたが、すべての量産機は再生能力をもって戦線に復帰し、停止した弐号機を蹂躙した。さらにその後、初号機を依り代として人類の補完を発動し、サードインパクトを誘発させた量産機は、その際にリリスと同化し、自らにロンギヌスの槍のレプリカを突き立てた。最終的には、補完を拒否したシンジの初号機によってロンギヌスの槍のレプリカが破壊されると同時に、量産機は石像と化して地上へと落下していった。

圧倒的な力を見せたが、ロンギヌスの槍のレプリカの一撃と電源切れによって力尽きた弐号機。量産機はその生体部品を食い荒らした。

人類補完計画遂行時、描かれたセフィロートの樹。初号機を中心に、量産機が各セフィーラーの役割を担った。

葛城ミサト

NERV

心に負った傷と戦いながらEVAを指揮する女性指揮官。愛した男の遺志を継ぎ、セカンドインパクトと人類補完計画の謎に迫る。

NERVにおいて、ほぼすべての使徒戦の指揮を執ってきた葛城ミサト。その活動の原動力となったのはセカンドインパクトとともに生まれた、使徒、そして父への想いだった。セカンドインパクト発生時、葛城調査隊に同行していたミサトは、その惨劇を目の当たりにした。さらに、研究に明け暮れ家庭を顧みなかった父が、その瀬戸際で自分を守るために亡くなっている。そういった出来事が彼女の心に多大な影響を与えており、使徒迎撃の任に着いたことについて「父への復讐をしたいだけなのかもしれない」と口にするなど、意外な弱さも見せていた。なお、後にミサトは同僚である赤木リツコへの疑念を発端に、NERVの活動に不信感を持つようになる。使徒戦の終盤になるにつれてその疑いは強くなり、彼女の目的は徐々に、セカンドインパクトと人類補完計画の真相を知ることへとシフトした。恋人である加持リョウジを失い、ミサトは時にはリツコら旧友へも銃を向け、味方の少ない状態で自らの信念に従って独自の行動を取り続けた。

セカンドインパクトの現場に居合わせながら、唯一生還を果たしたミサト。未曾有の大災害を目撃したことと、父を失ったことは彼女の心に大きな傷を残した。

使徒を倒すにつれ、ミサトにとって予期せぬ事態が次々と起こった。加持を失った後、彼女は直属の部下である日向マコトの協力も得つつ、さまざまな謎の真実に肉薄していった。

PERSONAL DATA

- 名前：葛城ミサト
- 年齢：29歳
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.1986/12/08
- 血液型：A型
- 所属：NERV/戦術作戦部作戦局第一課課長

MISATO KATSURAGI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人間関係

対使徒戦において、多大な発言力を持つミサト。彼女に直接命令を下せる存在は、最高司令官の碇ゲンドウあるいは副司令官の冬月コウゾウの2名であり、対等な位置にいる人間も赤木リツコくらいのものである。一方、上司としてのミサトは直属の部下である日向マコトに慕われており、適格者たちからも一定の信頼を得ている。難しい立場に置かれながら適当な人間関係を構築していることは、評価すべき点のひとつと言えるだろう。しかし、NERV本部の中枢にありながら人類補完計画の目的を知らずにいた彼女は、NERV上層部に疑念を抱き、さらに加持という自身にとっての絶対的な支えを失った後、独自に内部調査を開始しその真相に迫ろうと試みた。ちなみにNERV内での対人関係において、ミサトは自分の心の拠り所となる場所を探していたようにも見え、加持と再びよりを戻したことはセカンドインパクトの体験による心の穴を埋めたいという気持ちのあらわれだったとも考えられる。

旧友であるリツコに銃を向けるミサト。上層部への疑問を晴らすため、個人的に奔走することとなった。

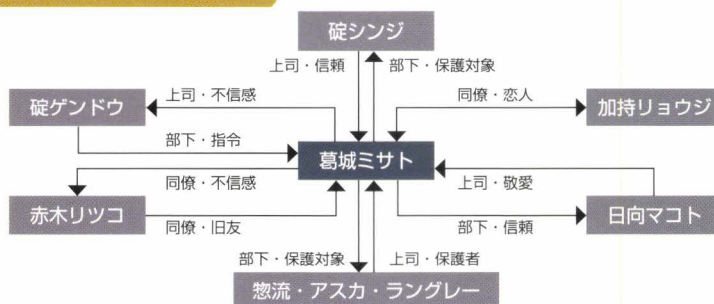
■ 碇シンジとの関係

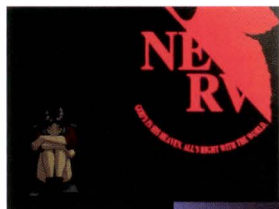
同居を始めた当初は保護者と非保護者という関係だったシンジとミサト。しかし、EVAや使徒と関わり合う中で心に傷を負い続けてきたふたりは、互いの心の隙間を埋め合うことを無意識に求め出していたようだ。

父への強い感情を抱えているという、共通した境遇を持っていたふたり。その関係は一言では言い表せない複雑なものだった。

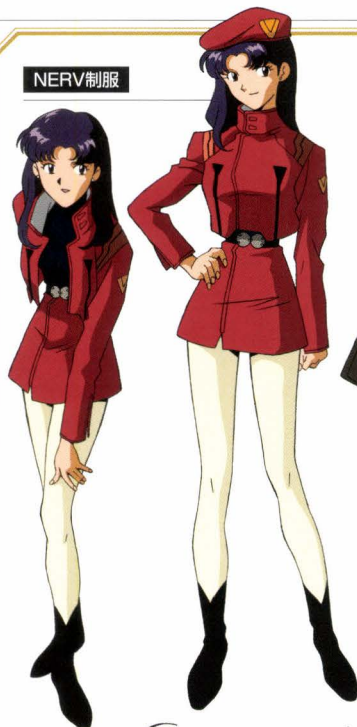
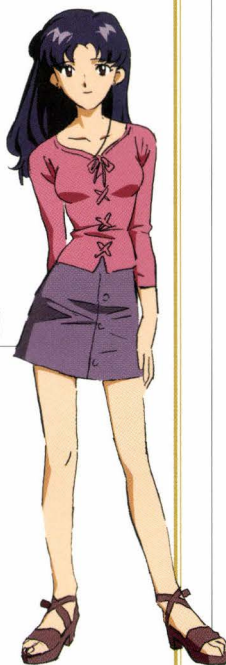
■ 加持リョウジとの関係

ミサトが抱えていた複雑な内面を彼に吐露したことを契機に、再び恋人関係となったふたり。加持は程なく何者かの手によって殺害されるが、彼が間諜として得た情報はミサトに渡り、さらなる真相の追求を決意させることとなった。

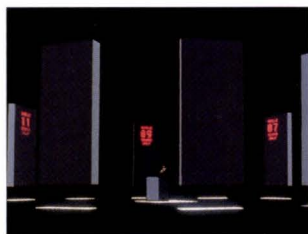
加持の死を直感し、泣き崩れるミサト。彼を失った際の深い悲しみようを見る限り、彼女は想像以上に加持に依存していたようである。

活動

初めて本格的な作戦指揮を執った第4使徒戦以降、ミサトはその手腕を揮い、第10使徒戦ではMAGIシステムすら撤退を推奨した事態において、自身の立案した作戦を強行し、成功させた。以降はミサトの立案した作戦により使徒殲滅に成功することはなくなるが、彼女が相応に重要な存在であったことは紛れもない事実である。ただし、セカンドインパクトを現地で目撃し、父を亡くしたという過去を持つミサトにとって、使徒やEVAに対する思いの中には個人的な感情が多分に含まれていた。NERVの一職員として「使徒対人類」という構図を捉えつつも、その使徒を倒すことが父の仇を討つことにも繋がるため、個人的な使徒殲滅への決意が行動の端々からは見てとれた。NERVの中心にありながらゼーレや人類補完計画の目的を知らずにいた彼女は、純粋にEVAを指揮し、勝つことに生きる意味を見出していたのだろう。なお、自分がNERVの実体を知らないということに徐々に気づき始めてからは、独自に内部調査を開始し、その秘密に迫ろうと試みている。しかし、結果的にその全貌を知ることは適わず、NERVが戦略自衛隊の攻撃を受けた際、シンジを守るためにその人生を捧げるかたちとなった。

失語症時代と同様にうずくまるミサト。セカンドインパクトに関わる出来事はトラウマとなっているようだ。

ミサトは深い傷を負いながら父の形見であるペンダントを託し、大人のキスと共にシンジを戦場へ送り出した。

NERV

碇ゲンドウ

**人類補完計画を立案し、それを遂行するNERV最高司令官。
亡き妻への想いを胸に抱きつつ、
自らが描いた計画の遂行に執心する。**

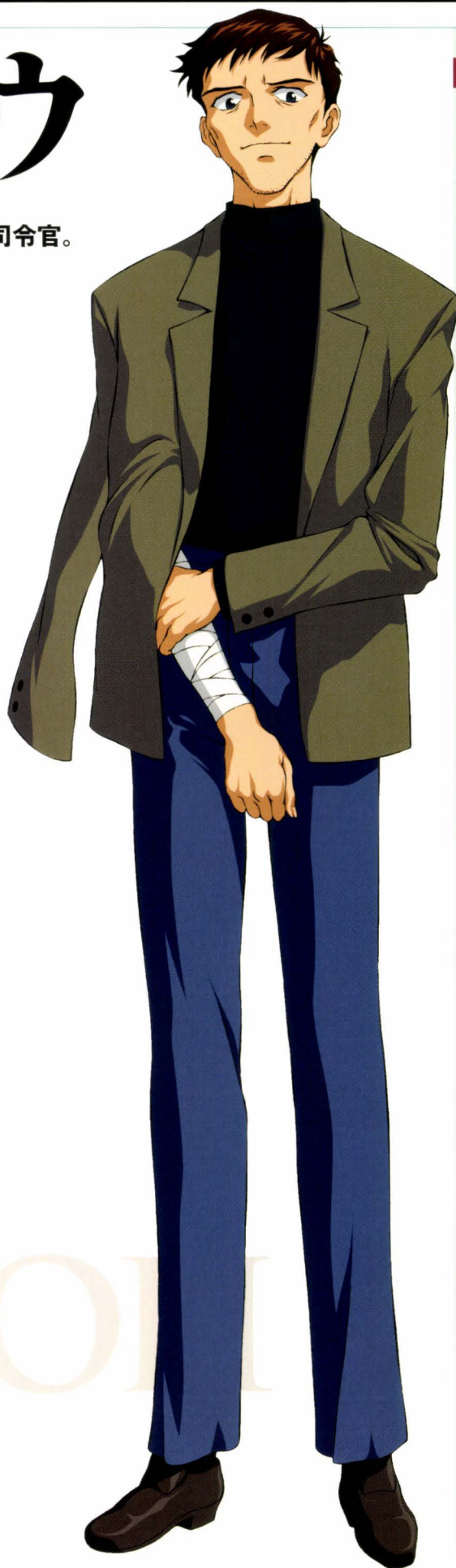
E計画、アダム計画、人類補完計画などを推進した人工進化研究所及びゲヒルンと、それらの計画と使徒殲滅を遂行すべく組織されたNERV——碇ゲンドウは各組織の最高責任者を務め、表立った活動ができないゼーレに代わる実行役となった。しかし彼は、E計画進行中に妻である碇ユイを失ったことにより、自ら立案した人類補完計画に「ユイとの再会」という極私的な目的を秘密裏に混交させた。ユイへの想いを胸に秘めつつ冷徹な司令官という役割を演じ、ゼーレの思惑とは異なる人類補完計画発動の契機を狙っていたゲンドウ。彼はその冷徹な面持ちの裏でユイとの再会という一点を目指したが、NERVにおいてその事実を知る者はほぼ皆無だったようだ。ちなみに、ゲンドウとユイは2001年に一子を儲けたが、子供が男ならばシンジ、女ならばレイにしようと決めていたという。ゲンドウが遂行しようとした人類補完計画のシナリオは、奇しくもそれぞれの名を与えられたふたりによって大幅に書き換えられることとなった。

15年ぶりの使徒襲来以降、ゼーレとゲンドウの間には徐々に亀裂が生じ始めた。ゲンドウは表向きはゼーレに従いつつも、ユイと再会するため、ゼーレへの裏切りを含めた計画を立てていたようである。

レイに向かって「私をユイの元へと導いてくれ」と語るゲンドウ。その言葉からは、彼がレイ自身ではなく、その背後に存在するユイの姿を見続けてきたことが窺える。

PERSONAL DATA

- 名前：碇ゲンドウ
- 年齢：48歳
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.1967/04/29
- 血液型：A型
- 所属：NERV/最高司令官

GENDOU IKARI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

碇ゲンドウ

人間関係

妻である碇ユイを通じてゼーレとの繋がりを持った碇ゲンドウ——旧姓六分儀ゲンドウは、その野心を隠すことなく様々な活動に着手した。国連直属の研究組織である人工進化研究所——それを隠れ蓑としたゲヒルンの設立、そして人造の巨人を造るというE計画を始動。ゲンドウはユイと共に、赤木ナオコ、冬月コウゾウら優秀な協力者を得て、アダム計画、初期の人類補完計画をも立案。さらにゲヒルンがNERVに移行してからは、NERV最高司令官として使徒の殲滅をしつつ、人類補完計画の完遂を目指した。ゲンドウは人類補完計画の遂行のためならどんなことでも厭うことがなく、実の息子である碇シンジはEVA初号機の専属操縦者として、自らを慕う赤木親子は協力者として計画遂行上の価値を求めて利用した。その姿が冷徹であるが故に、彼には常に「非情な人物」というイメージが付きまとったが、その行為を俯瞰した時「計画実現のためにはなりふり構うことができない」というゲンドウの、切迫した状況を鑑みることができる。

手段を選ばない活動に手を染めた若き日のゲンドウ。有無を言わさぬ厳しい口調は当時から変わらない。

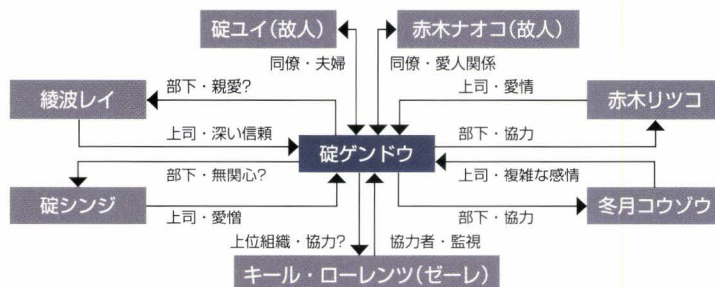
■ 碇ユイとの関係

かつて京都大学の優秀な学生だった碇ユイは、その頃に知り合った六分儀ゲンドウと交際を開始。ふたりは程なく結婚し、長男シンジをもうけた。しかし、その結婚生活はユイの消失によって終わりを迎えることとなった。

ゲンドウを「かわいい人」だと言うユイ。冷徹な普段の彼からは想像もつかない形容に、夫婦の確かな繋がりを感じることができる。

■ 綾波レイとの関係

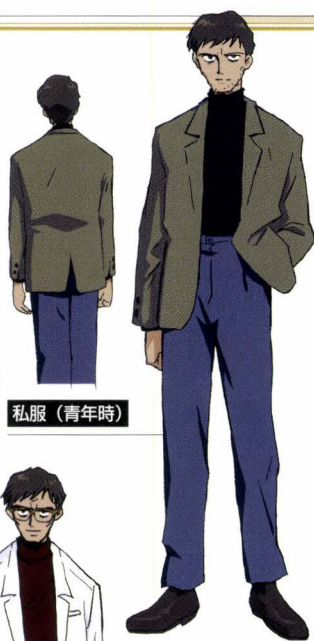
綾波レイは人類補完計画の鍵を握る存在であり、ゲンドウは彼女を特別視していた。ゲンドウに深い信頼を寄せていたレイが、突如ゲンドウを裏切ってリリスと融合する道を選んだため、計画は発動直前で彼の手を離れることとなった。

計画発動の直前、ゲンドウを拒否するレイ。長年の悲願が成就する寸前に絶望へ突き落とされ、ゲンドウはレイに追いすがった。

活動

NERV最高司令官として使徒の殲滅をしつつ、真の目的である人類補完計画を完遂すべく活動したゲンドウ。彼は最高指令官として卓越した統率力を見せる一方で、ゼーレとの繋がりを持ち、人類補完計画を完遂するための協力関係を築いていた。しかし、双方が思い描く計画内容にズレが生じていることにゼーレ側が気づき、その関係には徐々に亀裂が生じ始める。両者の溝は、ゼーレの計画に不可欠と考えられたロンギヌスの槍を、第15使徒戦においてゲンドウが独断で使用した件で決定的となる。さらに、戦略自衛隊によるNERV本部の直接占拠が敢行された折、ゲンドウは自身が長年守り続けてきた計画を実行に移したものの、レイがゲンドウを裏切ってリリスと融合する道を選んだため、計画は発動直前で彼の手を離れることとなった。

リリスとなったレイが全人類の前に現れた時、ゲンドウの元にもまた、彼が待ち続けていた人物が現れた。力なく横たわる彼の傍らに、消失した当時のままの姿で立つ碇ユイ。最愛の妻に見守られながら、初号機に飲み込まれるかのようにL.C.L.へと帰した瞬間、結果的にゲンドウ自身の人類補完計画は完遂されたと言えるのかもしれない。

ゼーレの介入を気にも留めず、自らの計画を進めるゲンドウ。冬月がその強引さを危惧する様子を見せることも。

「すまなかったな、シンジ」という息子への謝罪の言葉を残し、ゲンドウは初号機の中へと消えていった。

冬月コウゾウ

NERV

**最高司令官の側に佇む副司令官。
人類補完計画の真実を知る彼は、
自らが支え続けた計画の発動を静かに見届ける。**

NERV本部において最年長の部類に入るであろう副司令官、冬月コウゾウは、ひと回りも年下の碇ゲンドウを補佐する役割を担っていた。開発中のEVA零号機を見せられて以来、冬月はゲンドウらと共に人類の新たな歴史を生み出すこととなった。ゲヒルンに入所し秘密を共有する道を選んだ彼は、様々な計画を推し進め、15年ぶりの使徒襲来にも協力して対応。以降も、NERV副司令官としてNERVの運営にあたった。しかし、真に零号機の存在がゲヒルン入所の決定打になったかは明確ではなく、ゲンドウに付き従う理由には謎が残る。それでも彼は、人類補完計画を始めとするほぼすべての情報をゲンドウと共有し、人類補完計画を滞りなく発動させるための基盤作りを担った。ユイとの再会という一点を見つめた最高司令官に対し、副司令官として包括的にNERV内外の状況を読んでいた冬月。結果的に人類補完計画は予想と異なる形で発動したが、NERVにおける彼の役割は非常に重要なものだったと言えるだろう。

初号機がS^2機関を取り込んでしまった際、ゲンドウへの牽制の意味でゼーレに拉致、拘束された冬月。この時冬月は、皮肉をこめて「冬月先生」と呼ばれている。

補完計画の発動直前、「冬月先生、後を頼みます」と言って去るゲンドウに「ユイ君によろしくな」と応えた冬月。それが、ふたりの最後の会話となった。

PERSONAL DATA

- 名前：冬月コウゾウ
- 年齢：不明
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.?/04/09
- 血液型：AB型
- 所属：NERV/副司令官

KOUZOU FUYUTSUKI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

冬月コウゾウ

人間関係

京都大学の教授という名誉ある立場にあった冬月。彼が特務機関NERVの副司令官という、いささか不似合いな職業へと転身するきっかけとなったのは、碇ユイ、そして六分儀ゲンドウとの出会いであった。教授時代のふたりとの関わりはさほど深くなかったようだが、セカンドインパクト後、ゲヒルンへの入所によって彼の進む道は決定付けられ、その後はゲンドウに最も近い存在として、人類補完計画発動までNERVの運営にあたった。冬月のパーソナリティを考えると、セカンドインパクトの真相を暴こうとした点や闇医者として一般市民を助けていた点などから、正義感や使命感の強い人物であることが窺える。ただし、ゲンドウと同様に感情を表出しないためか腹の底では何を考えているか判らないという雰囲気も持ち合わせており、周囲には厳格な人物という印象を与えていたようだ。なお、ユイに対しては特別な感情を抱いていた様子があり、シンジがまだ幼い頃、ユイの語ったE計画への思いに対しても、冬月は一定の理解を示していた。

戦況の俯瞰やNERV本部の危機管理など、冬月は人類補完計画の大略において中心的な役割を果たした。

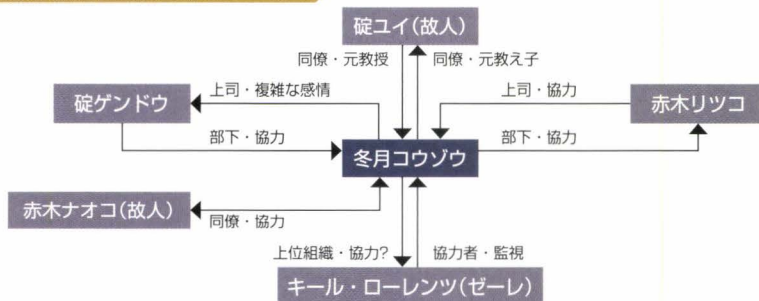
■ 碇ユイとの関係

京都大学の教授と学生として出会った冬月とユイ。冬月はユイのことを好ましく思っていたようであり、セカンドインパクトの裏で暗躍するゲンドウ——そこに繋がるユイとゼーレの関係を確信した際、嫌悪ではなく戸惑う様子を見せた。

ユイと人類の未来について語らう冬月。ユイのことを好ましく思っていた彼は、母となった彼女を前にして複雑な表情を浮かべていた。

■ 碇ゲンドウとの関係

セカンドインパクト以降、ゲンドウに重用されてきた冬月。ユイ消失後からは特に、その傾向が顕著になった。人類補完計画の真の目的を理解する存在として、NERVにおけるふたりの関係には、共犯者のような側面もあったようだ。

かつてのゲンドウに「イヤな男」という印象を持っていた冬月。思想あるいは利害が一致した上の協力関係だったのかもしれない。

活動

NERV副司令官としてゲンドウを補佐し、NERV本部の中心的人物として活動していた冬月。彼は、ゼーレに対しては基本的に従順な素振りを見せ、ゼーレの存在をあからさまに蔑ろにした行動に走りがちなゲンドウを、ある程度は抑制しようと試みていた。事あるごとにゼーレへの対応に苦慮するその姿から、彼がゼーレを「恐れるべき厄介な存在」と捉えている様が浮かび上がってくる。ゲンドウが構想する人類補完計画において、冬月は常にサポート役に徹している印象がある。ゼーレにゲンドウの真意を気づかせないということも重要な計画の一部であり、彼の存在は特にゲンドウにとって非常に大きいものだったと言えるだろう。なお、冬月は戦略自衛隊によるNERV本部直接占拠が開始された折、侵攻してくる戦自への対応を指揮しつつ、眼前で進んで行く人類補完計画を静観した。初号機が上空へと拘引された後、冬月は部下たちと同様に状況を見守るという行動しか取っていない。しかし、その場で人類補完計画の真実を知る者は冬月だけであり、彼だけはその後に起こるであろう出来事を予測していたようだ。補完が始まるまでの間、冬月は自らが支え続けてきた計画の発動を静かに見つめ続けていた。

ゲンドウに苦言を呈する冬月。聞き入れられずとも、ストッパーとして諫める存在は彼をおいて他になかった。

笑みを浮かべてユイを迎え、L.C.L.と化した冬月。彼が補完の結末を知り、なおかつ望んでいたことが窺える。

所属 NERV

赤木リツコ

**NERVの真の目的、人類補完計画を知る科学者。
クールで理知的な博士としての顔の裏には
ひとりの「女」としての顔があった。**

NERVにおいて碇ゲンドウ、冬月コウゾウに次いで、真の目的——人類補完計画を知る人物である赤木リツコ。E計画の責任者、MAGIシステムの管理など、NERV内の技術的な側面を一手に引き受けていた彼女は、一般職員が知り得ないNERVの秘密を握っていた。ゲンドウが秘密裏に推進する人類補完計画に力を貸すことを己の役割としていた彼女は、その職務上の機密保持のため結果的に他の職員を騙すなど、NERVにおける暗部を担う存在となった。しかし、リツコがそういった重要な位置に立つこととなったのは、ただ「非常に優れた技術者である」という理由からだけではない。彼女は、ゲンドウと密通していたことによりNERVの真の目的に近付いてしまったのである。特別な関係で繋がれたことで、彼女はその技術力のすべてをゲンドウ——、結果的にNERVという組織に捧げることとなる。クールで理知的な博士としての顔の裏にはひとりの「女」としての顔があり、結果としてそれが彼女を報われぬ死へと誘うこととなった。

潔癖すぎるきらいがある部下のマヤに、「汚れたと感じたときに潔癖症の辛さがわかる」と説いたリツコ。汚れてしまった自分に言い聞かせるかのようでもあった。

ゲンドウに銃を向け、「母さん、一緒に死んでちょうだい」と呟いたリツコ。しかし、母の「女」としての人格が移植されたカスパーは、本部爆破というリツコの選択を否定した。

PERSONAL DATA
- 名前：赤木リツコ
- 年齢：30歳
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.1985/11/21
- 血液型：B型
- 所属：NERV/技術開発部技術局一課

RITSUKO AKAGI

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

赤木リツコ

人間関係

NERV最高司令官である碇ゲンドウと部下であるリツコは、秘かに男女の関係を結んでいた。ゲンドウはその関係により有能な科学者であるリツコを繋ぎとめ、利用したに過ぎない。リツコもそれを頭では理解していたようだが、ゲンドウを男性として愛してしまったがゆえに、彼の存在を拒むことはできなかった。彼女が辿ることになった道は、結果的に母親である赤木ナオコと、非常に似通ったものだった。物事をデータで捉えることを得意とするリツコが、実質的には感情によって支配され利用されていたというのは皮肉な事実である。なお、一般職員が知り得ないNERVの秘密を握っていたリツコは、その結果として旧友である葛城ミサトをも騙さざるを得ない立場にあった。ただし、他の者へは見せない友情のような感情は持っており、騙すことは本意ではないという態度が見て取れた。同様に、リツコにとって大学時代からの知己である加持リョウジが三重スパイであることを察しながらも、友人としてある程度の忠告を与えることもあった。

ゲンドウに「失望した」と告げられ、激昂するリツコ。それまで抑えられていた感情を一気に爆発させた。

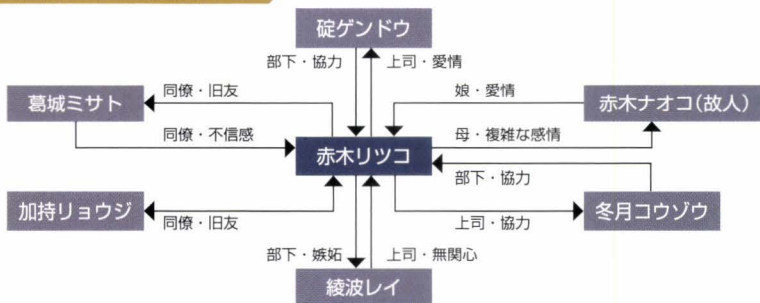
■ 碇ゲンドウとの関係

秘かに男女の関係を結んでいたゲンドウとリツコ。彼女は女としては憎んでさえいたという母と同様に、女としてゲンドウを愛してしまった。故に、リツコの愛憎入り混じった感情は迷走し、最終的に彼女はゲンドウとの心中を目論んだ。

ゲンドウを本部もろとも葬り去ろうとしたリツコ。母の女としての人格が移植されたカスパーに裏切られ、ゲンドウの銃弾に倒れた。

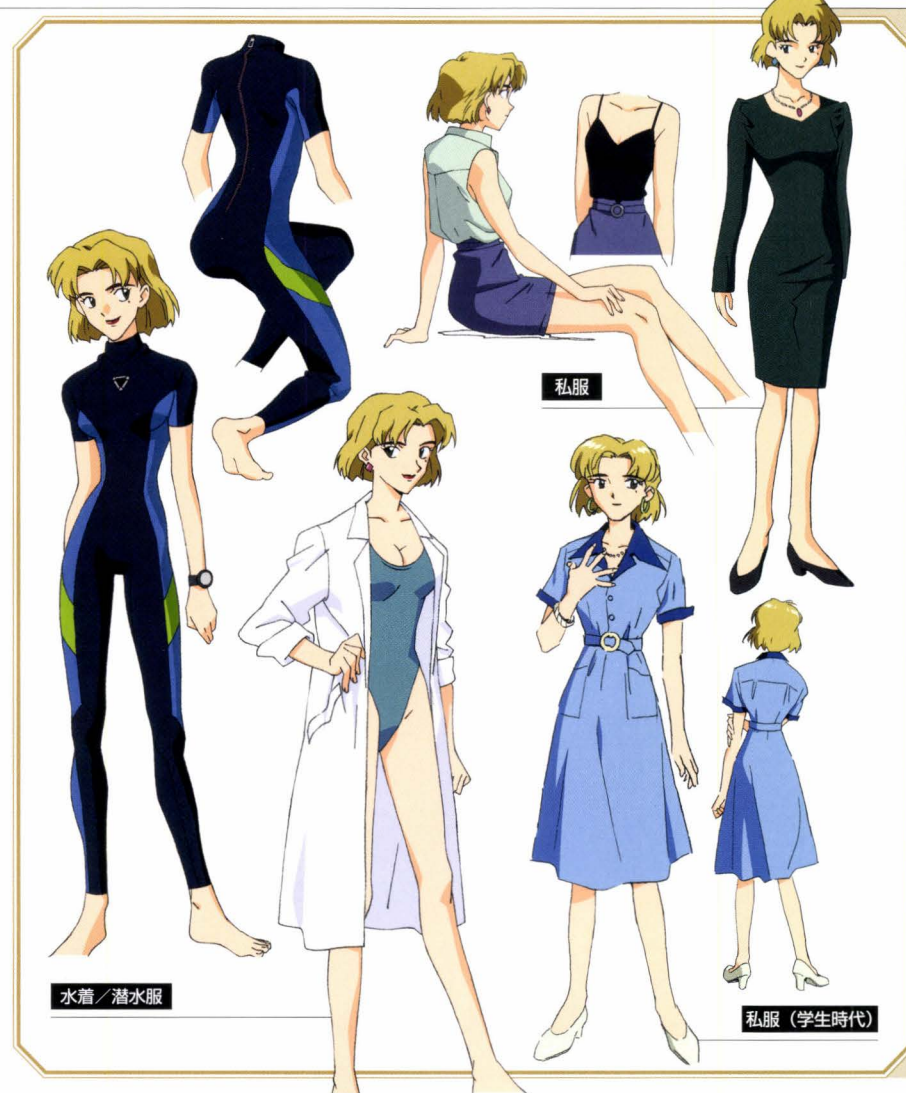
■ 綾波レイとの関係

ゲンドウが側に置き特別な親愛を向けていた綾波レイに、女としての嫉妬心を秘めていたリツコ。彼女はそのやり場のない怒りを、ゲンドウへの造反——レイのクローンを破壊するというかたちで爆発させた。

嫉妬から、レイのクローンを破壊するリツコ。ゲンドウに対する愛憎が極限に達した彼女が、感情を抑えきることは不可能だった。

活動

ゲヒルン解体後、NERVに籍を移してからはE計画を担当し続けるとともに、すでに故人となった母が基礎理論を構築したMAGIのセットアップと運営、管理を担当することとなったリツコ。NERVの中枢を担うブレーンともいえる存在である彼女は、常に現状を見据える冷静さをもって有事に対した。しかし、理知的、現実的な思考を常とするリツコは、職務においては時に非情とも思える判断を下すことがあった。加えて、一般職員が知り得ないNERVの秘密を握っていたため、彼女は時に、現場を指揮するミサトと衝突することもあった。なお、ゲンドウの数少ない協力者であると同時に男女の関係にあったリツコは、結果的にゲンドウの計画に必要な駒として利用されるという、母親であるナオコと非常に似通った扱いを受けた。そのため彼女はゲンドウに愛憎入り混じった感情を持ち、ゲンドウが特別な親愛を向けていたレイのクローンを破壊するという行動を取り、さらに後には、自らの役割に反してMAGIのプログラムを変更。NERV本部の自爆を謀り、ゲンドウに銃殺されることとなる。利用されるに足るだけの特異な才能を持っていたために、彼女は不遇な最期を迎えることとなったのである。

様々な問題が表面化し、余裕をなくしていったリツコとミサト。刺々しい言葉を口にすることも多かった。

銃口を向けるゲンドウの言葉に「嘘つき」と返したリツコ。どんな言葉が向けられたのかは不明である。

碇ユイ

人工進化研究所／ゲヒルン

ゼーレをバックに持ち、E計画に従事した有能な科学者。人類を未来に導く道標という、重要な役割を果たす。

ゼーレをバックに持つと同時に、有能な科学者であった碇ユイ。夫となった碇ゲンドウらとE計画の基礎を作り上げた人物として、彼女の人類に対する功績は非常に大きい。その計画半ばにおいて、EVA初号機の実験が失敗——被験者であるユイが帰らぬ人になるが、それでもE計画はさらに加速していくこととなった。ユイが周囲に与えた影響は、むしろEVA初号機に取り込まれてからの方が大きく、その影響は初号機を通してシンジへと伝わり、人類補完計画という形で具現化した。初号機を依り代とした補完計画遂行の結果、ユイと再会したゲンドウは安らかな最期を遂げ、シンジは未来を選択する勇気を見出した。ユイはひとりの妻であり母であるとともに、人類を未来へと導く道標という、重要な役割をも果たした人物と言えるだろう。

初号機の被験者になることは、シンジのためでもあると口にしたユイ。彼女は幼いシンジを見つめながら、冬月にE計画に対する気持ちと未来への想いを打ち明けた。

YUI IKARI

PERSONAL DATA
- 名前：碇ユイ
- 年齢：享年27歳
- 国籍：日本
- 生年月日：A.D.1977/?/?
- 血液型：不明
- 所属：人工進化研究所／ゲヒルン

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

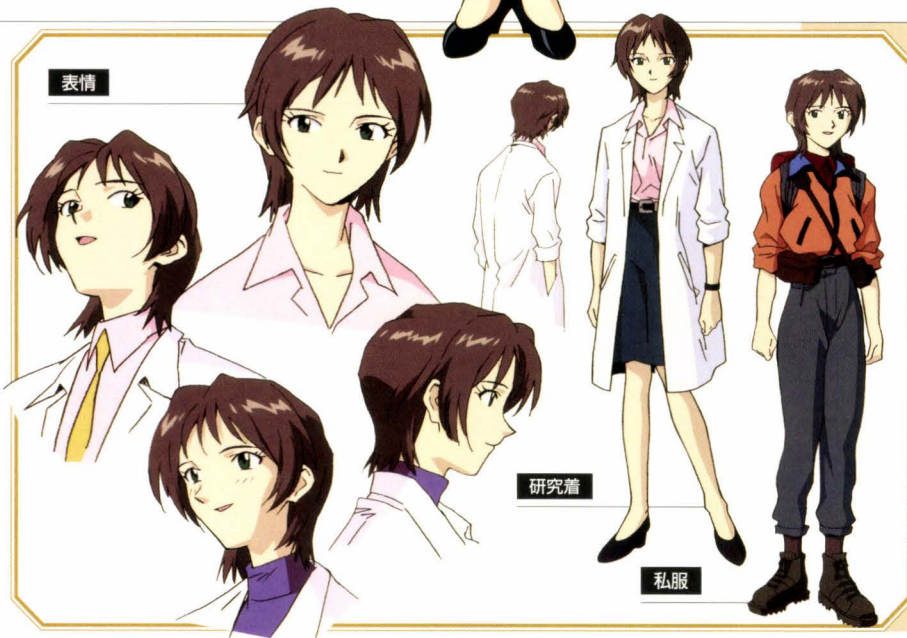
人物 CHARACTER

人間関係

ユイとゲンドウがどのように出会ったのかは定かではないが、夫婦間には確かな愛情が生まれていたようである。それゆえに、ユイを失った際のゲンドウの傷は深く、人類補完計画に執心するきっかけを作った。また、ユイとシンジがともに過ごした時間は非常に短く、シンジは母の記憶をほとんど持たない。無償の愛を注いでくれるはずの母を失ったことはトラウマとなっているようであり、周囲の女性に母性を求めている節がある。なお、シンジは初号機と母との繋がりを感じており、直接顔を合わせることはなくとも、シンジとユイは初号機を通して強く結びついていたようだ。

息子の気持ちを受け止めるように見つめ続けるユイ。シンジは後押しされるようにして、人類の未来を自らの意志で選択した。

赤木ナオコ

所属
人工進化研究所／ゲヒルン

その天才的な頭脳と技術をもってNERV設立に携わった科学者。彼女はMAGIの実働を見届けることなく、謎の死を遂げた。

「MAGI」の基礎理論を構築し、本体の開発をも手がけた人物、それが赤木ナオコである。NERVの創生に携わった重要人物であり、天才科学者として著名であったナオコは、自らの「科学者」、「母親」、「女」としての3つの人格をコンピュータへと移植し、2010年には見事「MAGI」を完成させた。なお、大きな功績を残したナオコは、NERV設立前夜に死亡している。彼女の死の理由は、愛人関係にあった碇ゲンドウが自らを利用しているだけであることを知ったためとも、それをゲンドウの亡き妻、碇ユイの面影が強く見られる幼い綾波レイにより知らされたためとも言われている。真相は定かではないが、結果としてナオコは「女」としての人格を託したカスパーの上に転落し、死亡しており、研究の成果であるMAGIの実働を見届けることもなく最期を遂げた。

ゲヒルンにおける各種計画のための研究、開発において、重要な役割を果たしたナオコ。ゲンドウは、ナオコを科学者として利用するためだけに、特別な関係を結んでいた。

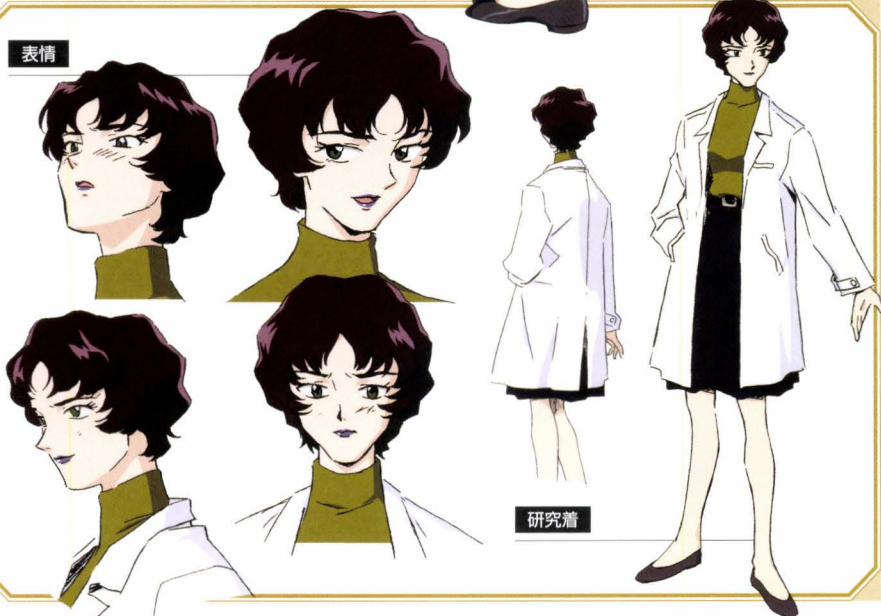
NAOKO AKAGI

PERSONAL DATA
- 名前：赤木ナオコ
- 年齢：不明
- 国籍：日本
- 生年月日：不明
- 血液型：不明
- 所属：人工進化研究所/ゲヒルン

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

人間関係

ゲンドウと男女関係を結んでいたナオコ。ただ、関係を持つに至った経緯や、そういった関係がユイの生前に始まったことかは不明である。ナオコはゲンドウが妻を忘れられないと知りながらも関係を続けたい程に、深い恋慕の情を持っていた。しかし、一方のゲンドウは、ナオコを科学者として利用するためだけに関係を結んでいた。その相違が、結果としてナオコの死へと繋がることとなる。なお、娘であるリツコも同様にゲンドウと特別な男女関係を結び、結果的に似通った最期を迎えた。母娘揃って特異な才能を持っていたがために、不遇な運命を招く結果となったと言えるだろう。

冷めたリツコに「自分の幸せまで逃しちゃうわよ」と忠告するナオコ。ともに不器用な生き方をし、不遇の最期を遂げることとなった。

その他の人々

使徒襲来後、特殊な任務についた人々。彼らは人類補完計画の発動時までそれぞれの場所で戦い続けた。

NERVスタッフ

使徒と呼ばれる謎の生命体の調査、研究、捕獲、殲滅を目的とする国連直属の特務機関であるNERV。その創設の経緯上、超法規的国際武装集団といった感がある国連直属の非公開組織であるが、その存在は一部の人間にはある程度認知されていたようである。使徒殲滅が人類にとっての至上命題であるため、EVA専属操縦者や作戦部の活躍ばかりが際立つが、その裏では特殊な組織の運営を円滑にすべく様々なスタッフが活動している。中央作戦司令室や実験場の管制室、ときには移動指揮車内などで端末操作を行ない、作戦行動や実験といった活動をサポートするオペレーター。使徒の調査や研究の現場、さらにはEVAおよび関連機材の調整や補修作業の現場など、さまざまな場所でその姿が見受けられる作業員。組織内外でさまざまな活動をおこなっている保安諜報部員といった「スーツ組」の面々。彼らの堅実な仕事ぶりは間接的に対使徒戦略をサポートし、人類補完計画が発動されるまでNERVの活動を支え続けた。

初号機強制サルベージ作戦のブリーフィングには、同作戦の遂行に伴い各部署の代表人員が集まった。

NERV内外で職務をこなす保安諜報部員たち。なかにはEVA操縦適格者の行動を監視する役目を担う者もいた。

戦略自衛隊隊員

日本国政府は自衛隊を国連に派遣するなど一応の協調姿勢を見せる一方、旧来の自衛隊とは異なる独自の戦力を有した。それが、政府が独自に設置した戦略自衛隊、通称「戦自」である。n^2兵器を所有するほか、未確認ではあるがBC兵器（生物兵器及び化学兵器）をも所有していたと言われている強大な戦力である戦自。だが、第3使徒襲来時に出動したかは定かではなく、もともと彼らの武装は、使徒との戦闘を想定したものではなかったとも考えられる。なお、NERV本部占拠の指示は政府が出したようだが、実質的にはゼーレの都合によって「動かされた」と考えるのが妥当であろう。

NERV本部の直接占拠に動いた戦自隊員たち。速やかに侵攻し、中央作戦司令室まで攻め込んだ。

エピソードガイド&チェックポイント

THE ESSENTIAL EVANGELION CHRONICLE SIDE B

EPISODE GUIDE & CHECK POINT

※第弐拾壱話～第弐拾四話には複数のバージョンが存在しますが、本書ではビデオグラム化にあわせて修正および新作部分が追加された「ビデオフォーマット版」を扱っております。

第拾参話までの展開

西暦2015年、地球規模の大災厄――セカンドインパクトから復興しつつある世界。日本の新たな首都となるべく建設された第3新東京市に、突如、人類の敵「使徒」が襲来する。様々な形態、能力を持つ使徒に対抗する唯一の手段は、使徒の殲滅を目的とする特務機関NERVが有する汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン（EVA）だった。EVAを操縦できるのは碇シンジをはじめとする選ばれた少年少女達のみ。適格者と呼ばれる彼らは、使徒との戦いを通じて葛藤し、成長していく。人類は第3使徒から第11使徒までの殲滅に成功するも、依然として使徒の脅威は去っていない。使徒の正体とは何なのか、そして人類を救う唯一の手段とされる「人類補完計画」とは――？

様々な謎を残しつつ、人類対使徒の戦いは続いていく。

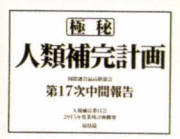
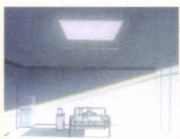
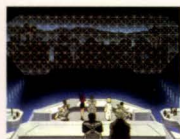
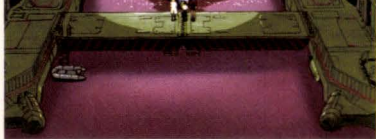
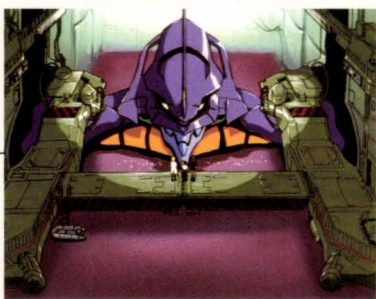
人類の切り札 エヴァンゲリオン

使徒の襲来

極秘
人類補完計画
第17次中間報告

暴走する初号機

初号機専属操縦者 碇シンジの葛藤

父への愛憎と綾波レイの存在

EPISODE: 01-13 DIGEST

第拾四話 ゼーレ、魂の座

SCENE/CHECK POINT

1 人類補完委員会、特別召集会議にて……▸▸ 02 P.039
対使徒戦の総括を行う
▼
2 ゲンドウ、第11使徒襲来の事実を詰問される
▼
3 第1回機体相互互換試験にて ▸▸ 01 P.038
レイと初号機の試験が行われる
▼
4 アスカ、第87回機体連動試験を……▸▸ 01 P.038
行う
▼
5 第1回機体相互互換試験にて、シンジと零号機の試験が行われる
▼
6 第3次接続の際、零号機が制御不能となる
▼
7 ミサト、零号機が制御不能になった原因をリツコに問う
▼
8 シンジ、NERV中央病院で目覚める
▼
9 アスカ、綾波レイについて疑問を覚える
▼
10 冬月、ゼーレに関して……▸▸ 03 P.039
ゲンドウと話す
▼
11 レイ、ロンギヌスの槍を運搬
▼
第拾伍話へ

人類補完委員会特別招集会議の席上に呼ばれたゲンドウ。先日、NERV本部内に使徒が侵入したとの流説により、急遽開かれた会議である。これまでNERVが行ってきた使徒殲滅作戦の記録映像が映し出され、委員会の面々はそれを冷ややかに検証していく。だが、NERV本部へ侵入した第11使徒について、ゲンドウはその事実はないと言い切った。懐疑的な面々を前に、ゲンドウは臆面もなく委員会——ゼーレへの忠誠を口にする。その頃、NERV本部ではパイロットを入れ替えてのEVAの起動実験が行われていた。まずは初号機にレイが搭乗し、安定した結果を残す。続けて零号機にシンジが搭乗するが、第3次接続を開始した零号機は突如暴走。実験施設は損壊したが、救出されたシンジに異常は認められなかった。一方、会議から戻ってきたゲンドウは、冬月と会話を交わしていた。彼らは、人類補完委員会のシナリオとは異なる独自の考えに基づいて動いているらしい。そんなゲンドウの思惑に従い、レイの零号機が本部施設最下層である作業を行っていた。

STAFF LIST

第拾四話（初回放映日：96.1.3）

脚　　本：庵野秀明
絵コンテ：庵野秀明
演　　出：大塚雅彦、安藤健
作画監督：鶴巻和哉

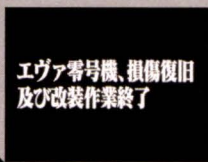
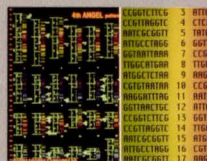
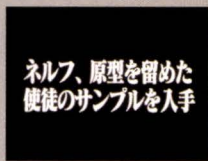
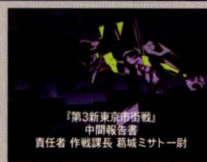
第拾四話 ゼーレ、魂の座

NEON GENESIS EVANGELION EPISODE:14 WEAVING A STORY

COLUMN

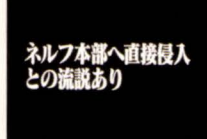
記録映像という形で編集された前半の使徒戦のダイジェストにおいて、初めて各使徒の名称——サキエルやシャムシエルなど——が明らかになる。また、初めて「ゼーレ」なる名称が登場し、使徒の出現や戦闘が彼らのシナリオに基づいているらしいと判る。一方後半のEVAの相互交換試験では、第拾八話に登場する「ダミーシステム」が、マヤのセリフに盛り込まれている点にも注目。零号機が持っていたロンギヌスの槍の行方は、次回判明することになる。

SCENE 1

これまでの使徒戦の記録映像が会議で流され、人類補完委員会とゲンドウがその総括と検証を行う。

ネルフ、原型を留めた使徒のサンプルを入手
エヴァ零号機、損傷復旧及び改装作業終了
SCENE 2

第11使徒のNERV本部侵入の真偽を委員会から問われたゲンドウは、即座に否定し忠誠を示す。

第11の使徒

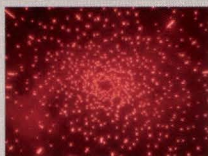
ネルフ本部へ直接侵入との流説あり

全ては、ゼーレのシナリオ通りに

EPISODE 14 WEAVING A STORY

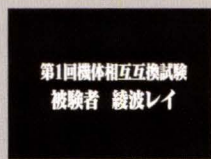
SCENE 3

本部では機体相互互換試験が行われていた。レイは自己を分析、初号機にシンジの匂いを感じる。

心の容れもの。エントリープラグ。
それは魂の座

第1回機体相互互換試験
被験者 綾波レイ

SCENE 4

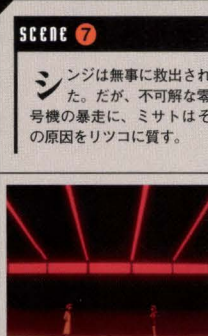
アスカは機体連動試験を行う。弐号機以外との互換性がないが、元より他のEVAに乗るつもりはない。

第87回機体連動試験
被験者 惣流・アスカ・ラングレー

SCENE 5

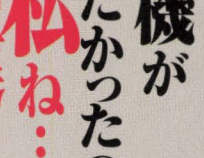
シンジと零号機の試験が開始。結果を見たリツコは、兼ねて進行中の計画が遂行できると結論づけた。

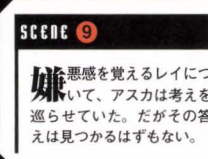
潔癖性はね、つらいわよ。
人の間で生きていくのは。
汚れたと感じたとき分かるわ、それが

SCENE 6

第3次接続後、シンジの心にレイの意識が流れ込み、結果として零号機は制御不能となってしまう。

SCENE 7

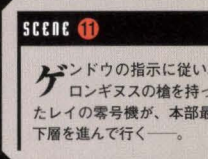
シンジは無事に救出された。だが、不可解な零号機の暴走に、ミサトはその原因をリツコに質す。

零号機が殴りたかったのは、私ね…
間違いなく

SCENE 8

精神汚染もなく、意識を取り戻したシンジ。彼の目には、またいつかの病院の天井が映っていた。

SCENE 9

嫌悪感を覚えるレイについて、アスカは考えを巡らせていた。だがその答えは見つかるはずもない。

SCENE 10

会議から戻ったゲンドウは、冬月と言葉を交わす。ふたりの思惑はゼーレのそれと異なっている。

SCENE 11

ゲンドウの指示に従い、ロンギヌスの槍を持ったレイの零号機が、本部最下層を進んで行く――。

01_ 第1回機体相互互換試験

Illustration by Tomotake Kinoshita

搭乗者とEVAとの互換性のデータ収集及びその検証

シンクロ率という言葉に示されるように、EVA各機とその搭乗者との関係性は極めて密なものがある。故に原則、パイロットが機体を乗り換えることは難しい。だがシンジとレイのパーソナルパターンが酷似している点から、運用の可能性拡大を探るため実行されたのが機体相互互換試験である。

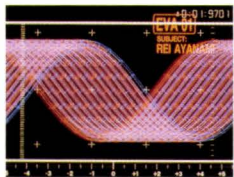
初号機に搭乗したレイ。シンクロ率は零号機の搭乗時とほぼ同じ数値を出し、有益な結果を残して試験を終了した。

シンジが搭乗した零号機は、試験中に精神汚染のため暴走を引き起こし、実験施設を損壊する結果となった。

初号機とレイの試験

初号機

零号機パイロット

第1回機体相互互換試験は、まずレイと初号機のシンクロ具合の検証から開始された。零号機の場合と特に変わらぬシンクロ率を示したが、試験中レイの深層心理には何らかの動きがあり、メンタル面への影響があったようだ。

初号機とレイとのシンクログラフ。零号機と同様の安定したグラフを描いており、互換性に問題は検出されなかった。

▶ 第87回機体連動試験

弐号機

弐号機パイロット

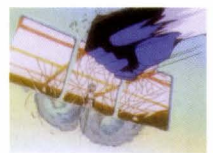
機体相互互換試験時、アスカには通常通りの連動試験が実施された。これは彼女が弐号機以外との相互互換が不能であったためであり、アスカ自身も他の機体に乗る意志はなかった。

弐号機に拘るアスカ。彼女に相互互換試験が行われない理由、互換性の無さは告げられなかった。

零号機とシンジの試験

零号機

初号機パイロット

続いてシンジと零号機との相互互換試験が実行された。初期段階では特に問題はなかったものの、第3次接続時に異常事態が発生し零号機は制御不能となり試験は中断された。

制御不能となり実験施設を破壊する零号機。まるでレイを狙うかのようであったが、リツコは自分が零号機に狙われていたと確信していた様子であった。

1 相互互換試験、開始

赤木博士の指示に従い、シンジと零号機のシンクロ試験が開始。第1次接続は良好に完了し、この段階ではパイロットと零号機、共に正常かつ安定状態を維持していた。

零号機とのシンクロ実験に際し、パイロットには若干の緊張が見られた。第1次接続を開始したとき、シンジはレイの匂いを感じると報告している。

2 セカンドステージに移行

第2次コンタクトを開始。第2次接続に必要な項目をクリアしていく。シンクロ率は初号機に比べれば低いものの、数値自体は安定しており起動には充分なものだった。

セカンドステージへと移行。シンジは零号機に対して、一応良好なシンクロ率を示し、接続プロセスは順調に推移してゆく。

3 第3次接続、開始

セカンドステージでの良好な結果を受け、第2次コンタクト、A^{10}神経接続が開始される。だが、突如神経パルスが逆流。零号機からの精神汚染が確認された。

第3次接続が開始される。その直後、シンジの意識下にレイのイメージが流入していく。それに奇妙な違和感を覚え、頭を抑えるシンジであった。

4 零号機、制御不能

零号機は制御不能となり、拘束具を破壊すると異常な自律運動を開始。外部電源がパージされ、零号機は施設の一部を破壊したあと、内部電源を消耗し沈黙した。

突如制御不能に陥った零号機は、実験施設の制御室に向けて激しい殴打を続けた後、内部電源切れによりようやく活動を停止した。

COLUMN

ダミーシステムの布石

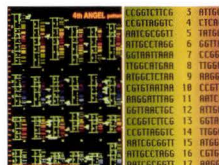
相互互換試験の裏には、ダミーシステムのための検証データ採取の意味合いもあったと思われる。本来の適格者以外のパーソナルパターンにてEVAを起動させるという点では、確かに通底する部分がある。

パーソナルパターンが入力されたダミープラグ。これにより搭乗者無しでEVAの制御が可能となる。

02_ 人類補完委員会特別召集会議

作戦 TACTICS

NERV本部内への使徒侵入との流説に対して、人類補完委員会が碇ゲンドウを召還して急遽開いた特別会議。しかし、単に使徒侵入の事実の追求だけではなく、15年振りに再来した第3使徒以降の各使徒に対するNERVの対応全般についても審議、検証がなされており、委員会の意向をゲンドウに再確認させる意味合いもあったようだ。

会議の席上では、戦闘時の記録映像に加えて第3新東京市在住の民間人の証言や記述等が参考資料として提出された。

第4使徒から採取されたサンプルはドイツ支部にて引き続き分析が行われているが、いまだ正確な回答は得られていない。

第5使徒ラミエル

RAMIEL

日本中を停電させて敢行されたヤシマ作戦により殲滅せしめた使徒。なお委員会はヤシマ作戦への苦言は呈していない。

第9使徒マトリエル

MATRIEL

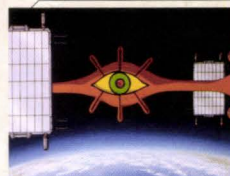
NERV本部停電時に襲来した使徒。人力でEVAを出撃させて撃退したが、委員会は本部停電については追求せず。

第6使徒ガギエル

GAGHIEL

委員会のシナリオとは異なる第6使徒戦では、国連軍の艦船の約1/3が損失。米国の委員から不満の声が上がった。

第10使徒サハクィエル

SAHAQUIEL

成層圏より飛来した巨大な質量爆弾たる使徒。本使徒の迎撃作戦時、碇ゲンドウと冬月はロンギヌスの槍回収任務中だった。

第3使徒サキエル

SACHIEL

15年振りに再来した使徒。第3使徒襲来直後の会議では、委員会はその出現を唐突な災いと評しつつも反応は冷静であった。

第7使徒イスラフェル

ISRAFEL

分離・合体する初の使徒。EVA2体の同時攻撃にて殲滅に成功したが、記録映像では初戦の敗退については言及されていない。

第11使徒（襲来事実は未確認）

YROUL

セントラルドグマ内への侵入との流説に対して、委員会から碇ゲンドウに対し追求の声が上がるが、彼は完全否定した。

第4使徒シャムシエル

SHAMSHEL

第3使徒戦から3週間後に出現した使徒。殲滅後に消滅せず、サンプルの入手に成功。ドイツ支部にて分析が行われている。

第8使徒サンダルフォン

SANDALPHON

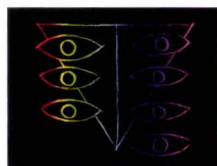
羽化前の状態で発見され、NERV側からの提案を受け委員会は捕獲命令を承認したが、作戦中に覚醒し、結局殲滅に至る。

COLUMN 第1、第2使徒の存在

2015年以前にも使徒は出現している。第1使徒アダムがセカンドインパクトの原因とされるが、第2使徒の詳細は不明。

03_ ゼーレ

組織 ORGANIZATION

セカンドインパクト以前から存在する世界的な秘密結社。その影響力は2015年現在、国連を掌握するほど強大で、裏死海文書の記述に則り人類補完計画の完遂を目的としている。人類補完委員会のメンバーはゼーレの幹部であると考えられ、委員会はある意味でゼーレの表の顔と言えなくもない。ゼーレとして現れるときは匿名性を維持するためか、ホログラムのモノリスが利用される。

ゼーレのエンブレム。その奇怪なデザインは、ターミナルドグマ内のアダムの仮面と奇しくも同じだが、関連性は不明。

「SOUND ONLY」という表示が匿名性を物語るゼーレのホログラムのモノリス。この姿で現れるメンバーの数は定かでない。

■ 主導あるいは関与が認められる出来事

不明	欧州にて誕生
A.D.2000.9.6	死海からロンギヌスの槍を回収、国連南極基地に輸送する
A.D.2000.9.12	葛城調査隊の一部の人間が帰国（ゲンドウ他数名）
A.D.2000.9.13	セカンドインパクト発生
A.D.2002	南極に第一次国連調査団が派遣（碇ゲンドウ、冬月コウゾウが同行）
	南極の第二次調査終了後、国連直属調査機関「セカンドインパクト調査委員会」が公式見解を表明（表明の場においてゲンドウ、キールの姿が認められる）
	箱根山麓に人工進化研究所を設立
A.D.2004	碇ゲンドウ、1週間消息を絶ったのち人類補完計画を提唱
A.D.2005	第二次遷都計画承認
A.D.2010	特務機関 NERV 発足

▶ 裏死海文書とシナリオ

ゼーレは、セカンドインパクト以前に解読したと思われる"何か"を「裏死海文書」と称しており、そこから得た情報より作られたシナリオに基づき人類補完計画を実行しているとされる。

サキエル、襲来

各使徒の名称も、裏死海文書に記されていたと思われるが、NERV内でも知るものはごく僅かである。

ゲンドウもゼーレの一員だが、彼らのシナリオではなく、独自のロードマップに従っている模様。

第拾伍話 嘘と沈黙

SCENE/CHECK POINT

1冬月、キール議長からの意見をゲンドウに報告
▼
2加持、京都でマルドゥック機関を探る
▼
3アスカ、ヒカリからデートを頼まれる
▼
4シンジ、無意識にレイを見つめる
▼
5シンジら、EVAのテストに参加
▼
6シンジ、父のことをレイに尋ねる
▼
7シンジ、父と会うことに悩む
▼
8ミサトとリツコ、遅れてきた加持と友人の結婚式に参加
▼
9シンジとゲンドウ、ユイの墓参りをする
▼
10帰宅したアスカ、シンジの演奏を聴く
▼
11ミサト、リツコと加持と一緒に二次会へ
▼
12酔ったミサト、加持に胸の内を吐露
▼
13アスカ、シンジとキスをする
▼
14ミサト、加持に連れられて帰宅
▼
15シンジ、欠席の綾波を気にする
▼
16ゲンドウ、セントラルドグマのレイを見守る ▸▸ 01 P.042
▼
17加持、ターミナルドグマ侵入がミサトに見つかる ▸▸ 02 P.042
▼
18ミサト、アダムと邂逅 ▸▸ 03 P.043
▼
第拾六話へ

　マルドゥック機関を独断で探っていた加持は、京都で日本政府の諜報員と接触、NERV本部以外の内偵をたしなめられる。同じ頃、シンジは憂鬱になっていた。母親の命日である明日、ゲンドウと会うためである。どう接して良いか分からないシンジは、父親のことをレイに尋ねる。だが彼女も分からないと答えた。結局気持ちの整理がつかないまま、ゲンドウと共に母の墓前に立つシンジ。彼は勇気を出し、話せて嬉しかったことを告げる。墓参りから戻ったシンジは、ひとりチェロを弾く。そこへヒカリに頼まれデートに出かけていたアスカが帰宅、シンジの意外な腕前に驚くのだった。一方ミサトとリツコは友人の結婚披露宴に出席。遅れて来た加持と共に3人でグラスを傾け合う。その夜、深酒したミサトは加持に思いの丈を吐露するのだった。翌日、学校を休んだレイはゲンドウとセントラルドグマ内にいた。一方、ターミナルドグマ内に潜入した加持に銃を突きつけるミサト。加持はゲンドウが隠している真実を彼女に見せる。そこには第1使徒アダムらしき巨体があった。

STAFF LIST

第拾伍話（初回放映日：96.1.10）

脚　　本：薩川昭夫、庵野秀明
絵コンテ：甚目喜一
演　　出：羽生尚靖
作画監督：鈴木俊二

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE: 15
Those women longed for the touch of others' lips, and thus invited their kisses.

COLUMN

　アダムが姿を見せる第拾伍話は、第拾話や第拾参話でもチラリと登場した加持のもうひとつの顔——日本政府のスパイとしての活動が明かされる。また今回と次回でリツコが肩書き以上に"ゲンドウ側"の人間であることが明確に。一方、雑巾を絞る姿が「お母さんみたいだ」とシンジに言われたレイは彼に対して特別な意識が芽生え、これが第弐拾参話での自爆へと繋がってゆく。そのレイが入っていたセントラルドグマ内の施設の正体は、第弐拾参話で判明する。

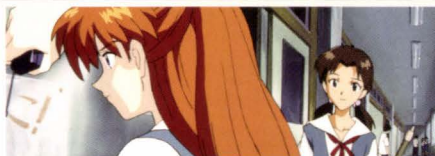
SCENE 1

使徒戦でできた湖を飛ぶヘリの中、ゼーレから突上げがきたと言う冬月。ゲンドウは気にもかけない。

SCENE 2

加持はNERVの関連組織マルドゥック機関を探るため京都を訪れた。そこで政府の連絡員と接触する。

SCENE 3

加持と連絡が取れず残念がるアスカ。そこへ、ヒカリから姉の友人とデートして欲しいと頼まれる。

SCENE 4

放課後の掃除の時間。雑巾を絞るレイの姿に、シンジはどことなく母親を感じ見つめてしまう。

SCENE 5

EVAの定期テスト中、ミサトとリツコは明日の友人の結婚式の相談。一方シンジはレイが気にかかる。

EPISODE 15 Those women longed for the touch of others' lips, and thus invited their kisses.

SCENE 6

テスト終了後、レイにゲンドウのことを尋ねたシンジは、雑巾を絞る姿が母親っぽいと告げた。

SCENE 7

母親の命日に、ゲンドウとふたりだけで会うことになるシンジ。複雑な思いを抱き、ふさぎ込む。

SCENE 8

翌日。加持は友人の結婚披露宴の席に遅れてくる。そのだらしない恰好を甲斐甲斐しく直すミサト。

SCENE 9

3年振りに母親の墓標の前に立ったシンジとゲンドウ。だが、ふたりの間には見えない壁が厳然とあった。

今日は、うれしかった。父さんと話せて

SCENE 10

久しぶりにチェロを弾くシンジ。デートから帰ってきたアスカは、その音色に耳を傾ける。

SCENE 11

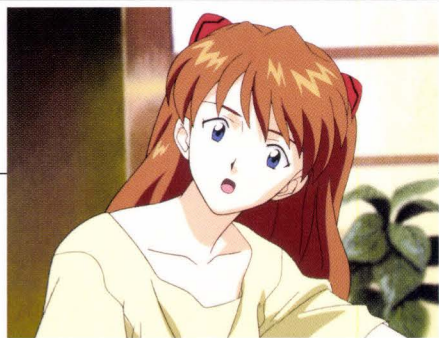
バーへと繰り出したミサトたち。友人と元恋人、昔に戻った3人は他愛ない話題を楽しむのだった。

ホメオスタシスとトランジスタシスね

SCENE 12

酔いつぶれたミサトを連れて帰る加持。彼にミサトは自分の想いを吐き出し、ふたりの心が接近する。

SCENE 13

退屈半分イタズラ心半分を装いシンジにキスを迫るアスカ。その無神経な好奇心にシンジは戸惑う。

SCENE 14

ミサトを送り届けた加持。その服にミサトの香水の匂いをかいだアスカは、ふたりの関係を悟った。

SCENE 15

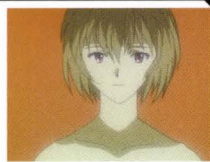
翌日。登校したシンジはレイが欠席であると知り、何とはなく主のいないレイの机を見つめる。

SCENE 16

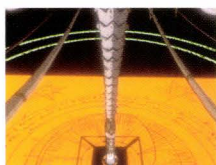
欠席したレイはセントラルドグマの謎めいた施設内にいた。その姿を見つめるゲンドウに微笑むレイ。

SCENE 17 18

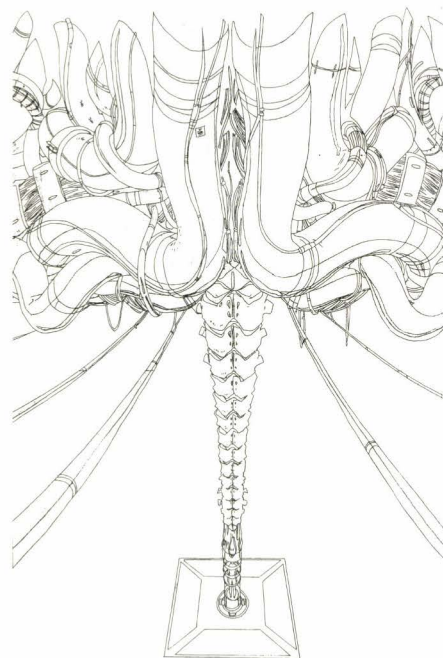
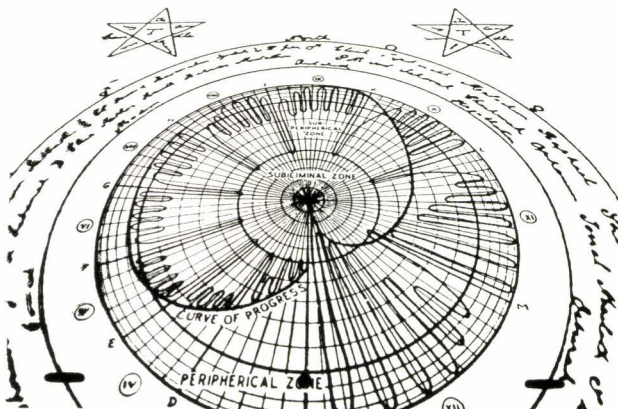
日本政府のスパイであるとミサトに知られた加持は、本部最下層に隠蔽されている巨人を見せる。

アダム、あの第1使徒がここに

01_ NERV：セントラルドグマ

NERV本部の大深度地下に位置する施設で、ジオフロント部とターミナルドグマを繋ぐメインシャフトとその周辺施設全体を指す。最下層部はごく一部の人間以外立ち入りを厳禁された極秘エリアとなっており、ダミープラグの生産設備やL.C.L.プラントもそういった区画の一部である。

碇司令自らレイに対して何らかの処置ないしは実験を行っていると目されるセントラルドグマの特殊施設。

床面には不可思議な紋様が描かれており、中央のシリンダー上部には大脳を思わせる外観の装置が設置されている。

▶ セントラルドグマ内の施設

▲レイの入ったカプセル

▲上部から見たカプセル周辺

▲カプセルを中心に描かれた魔法陣のような文様

02_ NERV：ターミナルドグマ 施設

INSTALLATION

セントラルドグマ最下層に位置するメインシャフトと直結した巨大な施設。ここに設けられた巨大なホール状の区画がL.C.L.プラントであるが、一般職員の立ち入りは厳禁されている。

EVAサイズの物体が充分に昇降可能な広さを持つメインシャフトの最下層部分に、ターミナルドグマは存在する。

L.C.L.プラント

ターミナルドグマの最重要区画。L.C.L.の生産施設とされるが、実態はアダムとされる白い巨人の保管区画。床一面に巨人から流れ出た液体が溜まり、湖と化している。

L.C.L.プラントは極秘施設のため、無断侵入に対しては禁固刑や罰金など重い実刑が科せられるようになっている。

プラント内部にはアダムが秘匿されている。なお、L.C.L.が実際に巨人の体液かどうかは不明。

COLUMN 加持リョウジと各組織の関係

加持はNERVの監査部員だが、日本政府内務省調査部にも籍を置いており、いわば二重スパイの立場にある。その上ゼーレからゲンドウの監視任務も与えられてもいる。

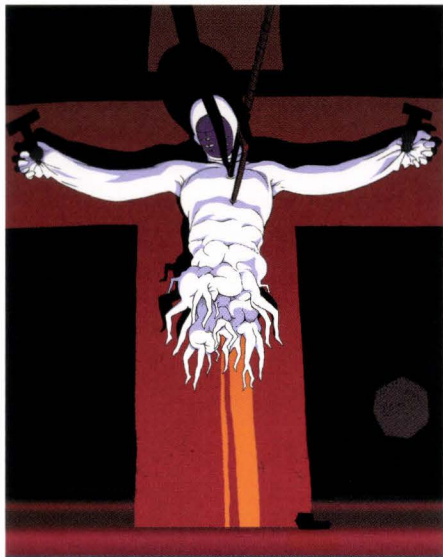
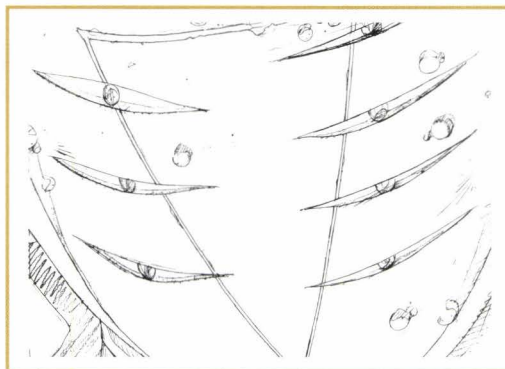
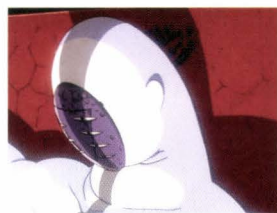
加持は定期的に政府の連絡員とコンタクトしていた。

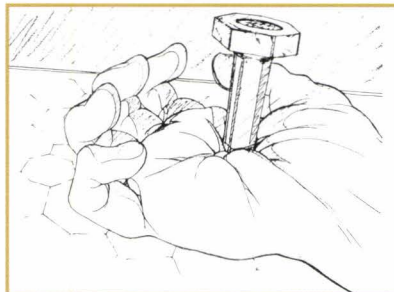
03_ アダム②

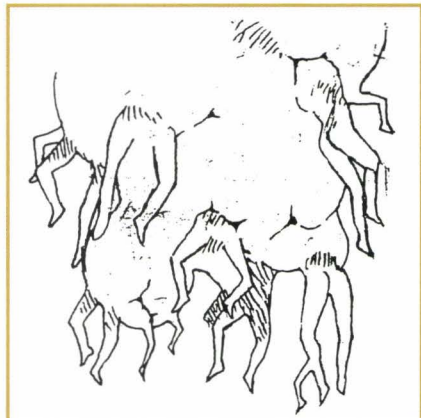
使徒 ANGEL

ターミナルドグマ内に厳重に保管されている白い巨人。第1使徒アダムとされており（後にそれが欺瞞であったと発覚）、使徒がこれと接触するとサードインパクトが発生すると考えられている。

白い巨人の胴体にはロンギヌスの槍が突き立てられているが、後に槍が引き抜かれた際、巨人の下半身が再生したことから、固定を目的としたものではなく、成長抑制のためとする説もある。

▼磔の白い巨人

▼頭部の仮面

白い巨人の頭部には、ゼーレのエンブレムそっくりの形状をした仮面らしきものが被せられている。

後頭部からは外科処置が施されたかのようにチューブが背後に伸びている。

▼磔の掌

掌は巨大な釘のようなもので打ち付けられているが、いついかなる手段でここに巨人を磔たのか明らかではない。

▼下腹部

巨人には下半身がなく、その下腹部から人間に似た小さな下半身が多数発生している。

COLUMN

第拾伍話での私服

結婚披露宴に出席したミサト、リツコ、加持はそれぞれフォーマルなスタイルを披露。デートに出かけたアスカはキュートなアンサンブルを着用。シンジのポロシャツ姿は部屋着代わりのようだ。

ミサトは、体型的な事情で、披露宴のためにioioなる店で服を新調した。

第拾六話 死に至る病、そして

SCENE/CHECK POINT

1 シンジ、朝食の際アスカに責められる
▼
2 シンジら、ハーモニクステストを受ける
▼
3 アスカ、シンジに対抗意識を持つ
▼
4 シンジ、帰りのバスでテスト結果を反芻
▼
5 第3新東京市上空に**使徒**、襲来 ▶▶ 02 P.047
▼
6 アスカ、**対使徒戦**の先鋒にシンジを推す ▶▶ 01 P.046
▼
7 シンジ、独断専行で使徒に先制
▼
8 初号機、使徒に飲み込まれる
▼
9 ミサト、初号機の行方を調査
▼
10 シンジ、使徒の内部空間を再確認
▼
11 リツコ、**サルベージ計画**を立案 ▶▶ 01 P.046
▼
12 シンジ、パニックに陥る
▼
13 ミサト、シンジの生死を問わないリツコと衝突
▼
14 シンジ、内的空間にてもうひとりの自分と対話
▼
15 シンジ、母の面影を見る
▼
16 初号機、使徒の内部から自力で脱出
▼
17 リツコとゲンドウ、初号機の洗浄に立ち会う
▼
18 シンジ、病院で目覚める
▼
第拾七話へ

相変わらず口げんかの絶えないシンジとアスカ。ハーモニクス試験でトップを取ったシンジは気をよくし、反面アスカは苛立ちを隠せない。その翌日、12番目の使徒が襲来する。慢心したシンジは独断で使徒を攻撃するも効果はなく、逆に初号機はシンジを乗せたまま地面の黒い影の中へと呑み込まれてしまう。調査の結果、上空の球体は使徒の影にすぎず、地面の影こそが本体と判明する。その内部、ディラックの海に初号機は捕らわれているとリツコは推察。初号機の機体回収を最優先とした救出作戦がリツコ主導で開始される。一方、使徒内部では、初号機の内蔵電源が尽き、閉じこめられたシンジがパニックに陥っていた。朦朧とした意識の中、自身と対話し、さらに記憶にないはずの母のイメージを見るシンジ。そして初号機救出計画が実行に移されようとした瞬間、地面の使徒が地割れのようにひび割れる。直後、上空の使徒の影を内部から引き裂き、自力で脱出する初号機。救出されたシンジは病院のベッドで目を覚ます。その体には血の臭いが染みついていた。

STAFF LIST

第拾六話（初回放映日：96.1.17）

脚　本：山口宏、庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉
演　出：鶴巻和哉
作画監督：長谷川眞也

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:16
Splitting of the Breast

COLUMN

シンジ自身との対話による心理描写は、使徒との精神的な接触と考えられる。シンジが死を意識する瞬間にフラッシュバック的に流れる新聞記事は、シンジの母ユイの死に関するものが中心だ。また第拾四話での機体相互互換試験でのアスカのシンジへの「お母さんのお腹の中かな？」という揶揄や、前回の綾波に母性を感じるシンジなどの母親というキーワードは、シンジが失神直前に見るユイのイメージとリンクしており、重大な意味を持っていることを示唆している。

SCENE 1

シンジに対し、いつも以上に食ってかかるアスカ。加持とミサトがよりを戻したため機嫌も斜めだ。

SCENE 2

You are No.1!――ハーモニクス試験の結果を見たミサトはシンジを誉めた。それを聞き喜ぶシンジ。

SCENE 3

ハーモニクス試験でシンジが自分よりも良い結果を出したことに、アスカは焦りと対抗心を覚える。

SCENE 4

本部から帰宅するシンジは、テスト結果に手応えを感じていた。だがそれが己を増長させることに。

SCENE 5

その翌日。第3新東京市上空に、球体状の使徒が出現。直ちに、EVAチームに出撃命令が下った。

SCENE 6

戦闘フォーメーションについて、シンジは珍しくアスカの挑発を受けて立ち、自ら先鋒を買って出る。

EPISODE 16 Splitting of the Breast

SCENE 7 8

独断で攻撃を開始するシンジだが、その瞬間使徒は消え、初号機は地面の黒い影に呑み込まれた。

SCENE 9

シンジ救出に心を砕くミサトは、初号機の行方を調査。だが、アスカは自業自得とシンジを責める。

SCENE 10

使徒内部に捕らわれたシンジは生きていた。冷静に現状を確認するが、生命維持は長くは持たない。

SCENE 11

地面の影が使徒の本体と分析したリツコは、N^2爆雷の投入で初号機を回収する作戦を提案。

SCENE 12

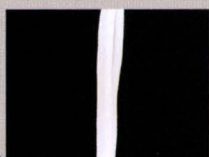
内蔵電源がゼロになり、生命維持は限界に達した。迫る死の恐怖におののきパニックを起こすシンジ。

SCENE 13

シンジの生死は問わないというリツコに、怒りを露わにするミサト。だが他に代案はなく、計画は進む。

SCENE 14

夢とも現実ともつかぬ世界で、シンジは自分自身と対話をしていた。それは心の声なのか、それとも？

自分から逃げ出したくせに

SCENE 15

死の淵に立ったシンジが、朦朧とした意識の中で見たイメージ――それは、幼い頃に失った母親だった。

SCENE 16

計画実行直前、初号機は使徒を突き破り脱出。リツコは驚嘆し、ミサトはシンジの無事な姿に涙する。

あり得ないわ！初号機のエネルギーはゼロなのよっ！

SCENE 17

初号機の洗浄作業を見つめながら、不可解な言葉をゲンドウに漏らすリツコ。初号機の秘密とは？

レイやシンジ君がEVAの秘密を知ったら、許してもらえないでしょうね

SCENE 18

看病するレイや様子をうかがうアスカに、温かい気持ちを覚えるシンジ。だが、血の臭いが取れない。

01 第12使徒レリエル戦

作戦 TACTICS

Illustration by K2 Shoukai

ディラックの海を内に持つ、極めて特異な使徒との戦い

第3新東京市市街地上空に出現した第12使徒。球状の物体が本体と考え独断専行した初号機だったが、地面の使徒本体に捕われてしまい、作戦は初号機救出に変更された。活動停止した初号機だったが不可解にも再起動し自力で脱出を果した。

使徒の影にすぎないとは知らず、初号機は上空に浮遊する球状物体へと接近し、独断専行で攻撃を仕掛けてしまう。

使徒の内部に捕らえられた初号機であったが、電力が尽きているにもかかわらず最終的には独力で脱出した。

レリエル迎撃作戦

1 戦闘配置、目標へ接近

市街地上空に出現した目標に対し、EVA各機は3方向より包囲する形でフォーメーションを取り目標へと接近する。

2 初号機、独断で先制攻撃

最も早く目標へ接近した初号機であったが、他2機が攻撃態勢を整える前に、独断で牽制攻撃を開始。

3 足下の影に初号機が沈下

攻撃した直後、球状物体は消滅。同時に初号機の足下に漆黒の影が出現し、初号機はその影の中へと沈降した。

4 使徒、弐号機へ接近

周辺の建物ごと初号機を呑み込んだ影は、弐号機へと接近。弐号機は影を避けるため手近なビルをよじ登る。

5 作戦中止、撤退命令

この危機的事態に、葛城三佐は弐号機と零号機の即時撤退を厳命。作戦は目標殲滅から初号機救出へと変更された。

■ 対レリエル戦概念図

A アタッカー▶▶▶初号機
装備：ハンドガン

B バックアップ▶▶▶零号機
装備：スナイパーライフル

C バックアップ▶▶▶弐号機
装備：スマッシュ・ホーク

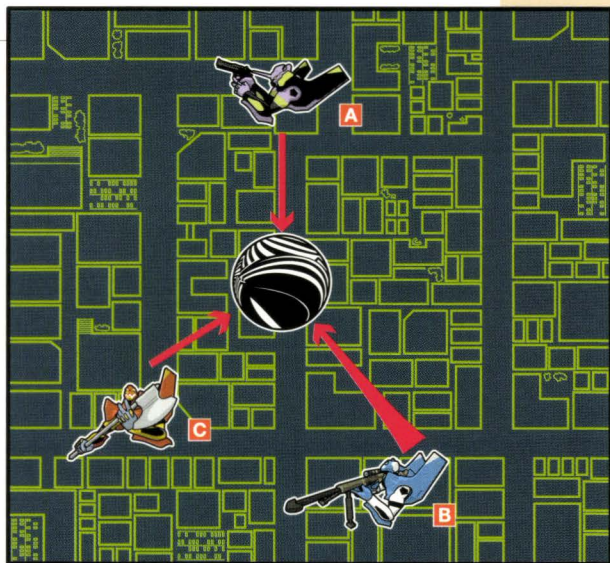
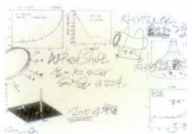



Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

強制サルベージ作戦

調査の結果、影に見えたものが使徒の本体と判明。内部はディラックの海に繋がっていると赤木博士は推察。使徒のA.T.フィールドに干渉して初号機を救出する計画を立案。

赤木博士が作戦現場でオペレーターたちに示した第12使徒内部の概念図。紐宇宙理論などの文字が読める。

▶ ディラックの海

極薄のレリエル本体内部は、ディラックの海とも呼ばれる虚数空間と接続されている。別次元に繋がる一種のワームホールのような空間である。

■ 強制サルベージ概念図

1 n^2爆雷の投下

莫大なエネルギーを使徒内部へ送り込むため、現存する992個のn^2爆雷を使徒の中心部へ投下。

2 EVAによるA.T.フィールド展開

EVA2機のA.T.フィールドにより、使徒の内部を支えるA.T.フィールドに1/1000秒間だけ干渉。

3 初号機を回収

使徒のA.T.フィールドが弱まった瞬間を狙い、n^2爆雷の爆発力で虚数空間ごと破壊し初号機を回収。

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

02_ 第12使徒レリエル

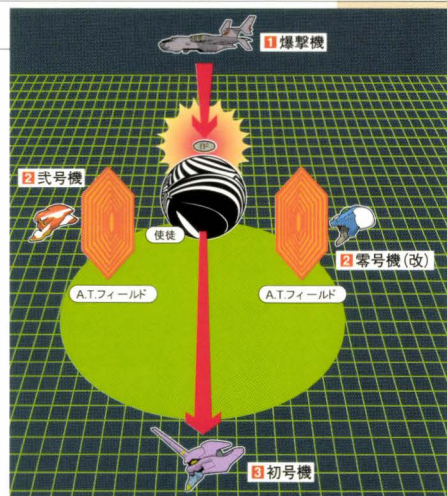
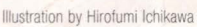
使徒 ANGEL

DATA
- 呼称：第12使徒
- 天使名：レリエル
- 象徴：夜
- 能力：虚数空間の形成

Illustration by Hirofumi Ichikawa

初号機を内部に呑み込んだ使徒。浮遊する球状の物体は影であり、影のように見える平面状の物体が本体である。その極薄の内部はディラックの海と接続されており、A.T.フィールドで内側から支えているという特異な構造を持っている。

地面に現れる第12使徒の本体。接触したものを、使徒内部に広がるディラックの海へと沈降させてしまう。

影

本体

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

▶ レリエル戦で用いられたEVAの武器

第12使徒戦ではEVA各機はそれぞれ異なる武器を装備。初号機はハンドガン、弐号機は格闘戦に適したスマッシュ・ホーク、零号機はスナイパーライフルを携帯し戦闘に臨んだ。

■ スマッシュ・ホーク

本来アタッカーを務めるはずだったと思われる弐号機は、格闘戦用に威力のある片刃の斧を装備。

■ ハンドガン

先鋒を務めることとなった初号機は、近接戦にも対応できるハンドガンを構えて目標に接近した。

■ スナイパーライフル

バックアップを担当する零号機は、牽制及び援護のために、遠距離用のスナイパーライフルを所持。

COLUMN

内的空間とシンジが断片的に見た記事類

使徒内部に捕らわれ意識が混濁したシンジは、"心の世界"でEVA開発中の事故の記事と思われる映像を知覚した。それがシンジの記憶なのか他者のものかは不明

自身の"心の世界"で、シンジはもうひとりの自分と対話をした。これが使徒からの精神的な接触だとする説もある。

もうひとりの自分から、心の奥底に秘めていた不安を突きつけられシンジは苦悶する。まさに悪夢のような世界だ。

■ 記事と思われる映像

第拾七話 四人目の適格者

SCENE/CHECK POINT

1 ミサト、シンジの代理として人類補完委員会の査問を受ける
2 トウジ、妹を見舞う
3 ゲンドウ、学校生活をレイに問う
4 シンジ、ホームルームでトウジと話す
5 米国NERV第2支部、……▸▸ 02 P.050
S²機関搭載実験中に消滅 ……▸▸ 01 P.050
6 リツコ、ダミープラグ完成を ……▸▸ 03 P.050
ゲンドウに報告
7 トウジ、昼休みにシンジとアスカをからかう
8 リツコ、フォースチルドレンの選出をミサトに告げる
9 ヒカリ、トウジに週番の仕事を伝える
10 シンジとトウジ、プリントを届けにレイの部屋を訪れる
11 冬月とゲンドウ、リニアレールで本部へ向かう
12 ミサト、加持を問いつめる
13 シンジ、加持からスイカ畑の場所を教わる
14 シンジら、シンクロテストを行う
15 トウジ、昼休みに校長室へ呼ばれる
16 ヒカリ、トウジにお弁当を作ることを約束
17 アスカ、フォースチルドレンが誰かを知る
18 3号機、米国NERV第1支部から、……▸▸ 02 P.050
日本へ出発

第拾八話へ

第12使徒戦において、シンジと使徒がコンタクトを持ったのではないかとの疑問を持つ人類補完委員会。一方、かねてより研究開発が行われていたダミープラグが完成し、ゲンドウは初号機と弐号機に搭載を命じた。そんな時、EVA4号機にS²機関の搭載実験を行っていた米国第2支部が実験中の事故により消滅。併行して建造されていた3号機を急遽NERV本部が引き継ぐこととなった。その適格者として選出されたのは――。名前を見て驚くミサト。そうした事実をまったく知らされることなく、シンジは平穏な日常を送る。欠席が続くレイの自宅へトウジとともにプリントを持って訪れたシンジは、散らかり放題の部屋を片づける。それを見たレイは、思わず「ありがとう」と応えるのだった。そんな折、本部内で加持と会い、彼が育てているスイカ畑へと案内されるシンジ。翌日、校長室へ呼ばれたトウジを待っていたのはリツコだった。そして、夕暮れの教室でぼんやりしていたトウジに、彼に想いをよせるヒカリは、お弁当を作ってあげると約束するのだった。

STAFF LIST

第拾七話（初回放映日：96.1.24）

脚　本：樋口真嗣、庵野秀明
絵コンテ：オグロアキラ
演　出：大原実
作画監督：花畑まう

第拾七話 四人目の適格者

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:17 FOURTH CHILDREN

COLUMN

今回登場のダミープラグは、第拾四話の機体相互互換試験中にリツコが口にした「例の計画」の産物である。「レイのパーソナルが移植されている」とリツコは語るが、その実体は今回明かされない。セントラルドグマの施設内でレイを見つめるゲンドウに対して、リツコが冷ややかな視線を送っている点もポイントで、その意味はダミープラグの正体と併せて第弐拾参話で明かされる。またレイが、シンジに対しゲンドウには持たない感情を持ち始めている点も見逃せない。

SCENE 1
シンジの代わりとして査問されるミサト。ゲンドウは、使徒が知恵を身につけ始めていると考える。

使徒は知恵を身に付けはじめています。残された時間は……

SCENE 2
第3使徒戦で重傷を負った妹のお見舞い。それは妹想いのトウジにとって重要な日課となっていた。

SCENE 3
レイに学校生活のことを訊くゲンドウ。実の息子以上に、ゲンドウはレイに気をかけているようだ。

SCENE 4
レイは欠席が続いていた。その日はケンスケも来ておらず、その理由をトウジに尋ねるシンジ。

SCENE 5
米国NERV第2支部が、S²機関搭載実験中の事故で消滅する大惨事が発生。本部は対応に追われる。

SCENE 6
EVAを無人で起動できるダミープラグが完成。リツコはあくまで擬似的なフェイクに過ぎないという。

4人目を選ぶか……

EPISODE 17 FOURTH CHILDREN

SCENE 7

シンジとアスカの口げんか。そんなおなじみの風景を見て、夫婦ゲンカとからかうトウジだった。

SCENE 8

米国で建造された3号機を引き取ることになった本部。そのため4人目の適格者が選出されることに。

SCENE 9

週番としてレイへプリントを届けるようトウジに告げるヒカリ。彼女の心はトウジに向いていた。

SCENE 10

シンジとトウジはレイの部屋を訪れる。部屋を掃除してくれたシンジに、レイは感謝の言葉を口にした。

ありがとう。
感謝の言葉……はじめての言葉。
あの人にも言ったことなかったのに

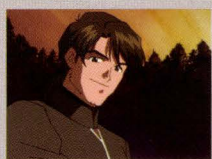
SCENE 11

本部へのリニアレールの車中、ゲンドウと冬月はゼーレと死海文書のシナリオについて語る。

SCENE 12

相変わらず軽い加持。だが真実に近い男であり、ミサトは都合良く適格者が現れた理由を彼に問う。

SCENE 13

シンジと出会った加持は、ジオフロント内の畑へ案内する。加持はここでスイカを育てているという。

SCENE 14

定期的なシンクロテスト。だが第12使徒戦の影響か、シンジのシンクロ率は微妙に低下気味だった。

SCENE 15

校長室に呼ばれたトウジ。一方シンジは、ケンスケから第2支部消滅や4号機の噂を聞かされる。

SCENE 16

教室に残っていたトウジに、お弁当を作ってあげると申し出るヒカリ。彼の返事にヒカリの心は弾む。

残飯処理なら
いくらでも
手伝うで

SCENE 17

アスカは4人目の適格者の名前を知る。EVAにプライドをかける彼女にとって許せない人物だった。

SCENE 18

日本へ出発するEVA3号機。思い詰めたようなトウジ。お弁当を作るヒカリ。それぞれの時が過ぎる。

01 EVA4号機S²機関搭載実験

Illustration by Takuya Io

無限のエネルギーを生み出す永久機関を搭載したEVAの開発

使徒と同等の力を持つEVAの唯一の欠点が活動限界である。この解決策となりうるのが、葛城博士が提唱したS²(スーパーソレノイド）理論に基づく永久機関である。使徒の動力源はS²機関と推察されていたが、第4使徒から回収されたサンプルにより研究は大きく前進。EVA4号機での搭載実験が行われたが、結果は大惨事を招くこととなった。

事故の瞬間を捕らえた衛星からの画像。EVA4号機に搭載されたS²機関の暴走は、衛星軌道上からでも確認できるほど大規模であった。

米国第2支部消失を受けて、NERV本部ではスタッフによる緊急会議が行われたが、事故原因の特定は不可能に近かった。

■ S²機関研究の経緯

1 S²理論の提唱とS²機関の実在

葛城博士が提唱したS²機関は当初空想の産物と思われたが、2000年、南極にてその実在モデルとも言うべき巨人を発見。国連の支援を受けて調査隊が結成され研究が行われた。だがセカンドインパクトにより調査隊は全滅した。

葛城調査隊が駐留していた当時の国連南極基地の様子を捉えた、最高機密扱いの記録映像。この映像の1ヶ月後にセカンドインパクトが発生した。

2 S²機関の回収と復元

2015年、初号機に殲滅された第4使徒は、その原型をほぼそのままとどめた形でNERV本部が回収に成功。使徒のサンプルとしてドイツ支部にて研究解析の結果、使徒の動力源=S²機関と考えられるものの修復に成功した。

碇司令、冬月副司令が揃って現場を訪れ、回収された第4使徒の視察を行っている。サンプルの入手はそれほど重要な出来事であった。

3 S²機関の搭載実験と第2支部の消滅

ドイツにて修復されたS²機関を、アメリカで建造中であったEVA4号機に搭載する実験が行われた。しかし、結果的にS²機関は原因不明の暴走を起こし、第2支部周辺89km以内の物体はすべて消滅してしまった。

S²機関搭載実験の事故でEVA4号機もろとも爆発ではなく消失したアメリカ第2支部は、ディラックの海に呑み込まれてしまったと推察される。

4 S²機関搭載型EVAの実用化

修復したS²機関は失われたが充分な研究データは残っていたと思われ、その後完全な実用型S²機関を開発。ロールアウトした9機の量産型EVAの動力源として採用された。結果量産機は無限の活動力と強力な修復能力を手に入れた。

実用型のS²機関を搭載した量産型EVA。アンビリカルケーブルの助け無しでも、長時間自在に活動することができる無敵の機体といえる。

▶ S²機関

使徒の動力源となる永久機関。使徒が無限に活動出来るのも、強靱な修復能力や驚異的な変態能力もS²機関の賜物であると推察されている。

他の生物を超越する使徒。その力の源がS²機関だ。

量産機の飛行能力も一種の変態能力と思われる。

02 NERV：米国支部

組織 ORGANIZATION

アメリカに設置されているNERVの支部。第1支部と第2支部の2箇所が存在し、それぞれがEVA3号機、4号機の建造を行っていた。だがS²機関搭載実験の事故で第2支部は消滅してしまう。

第2支部の事故を受け、第1支部は急遽3号機のNERV本部への引き渡しを決定。日本へ3号機を空輸するのであった。

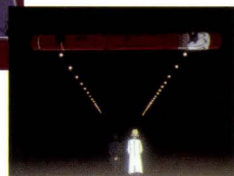
ネバダ州にある第2支部の衛星写真。その主要施設は地下にあるのか、上空からはそれらしい建造物は見あたらない。

03 ダミープラグ

技術 TECHNOLOGY

第2支部消滅事件と前後して、赤木博士が開発していたダミープラグが完成。あくまでフェイクであるとする赤木博士に対して、碇司令は構わず初号機と弐号機への搭載を命じている。

精神的に一番安定しているためか、ダミープラグのパーソナルパターンは綾波レイのものが使われている。

ダミープラグを碇司令に披露する赤木博士。だが魂の宿らぬダミープラグは擬似的なものと赤木博士は主張する。

COLUMN コード707とマルドゥック機関

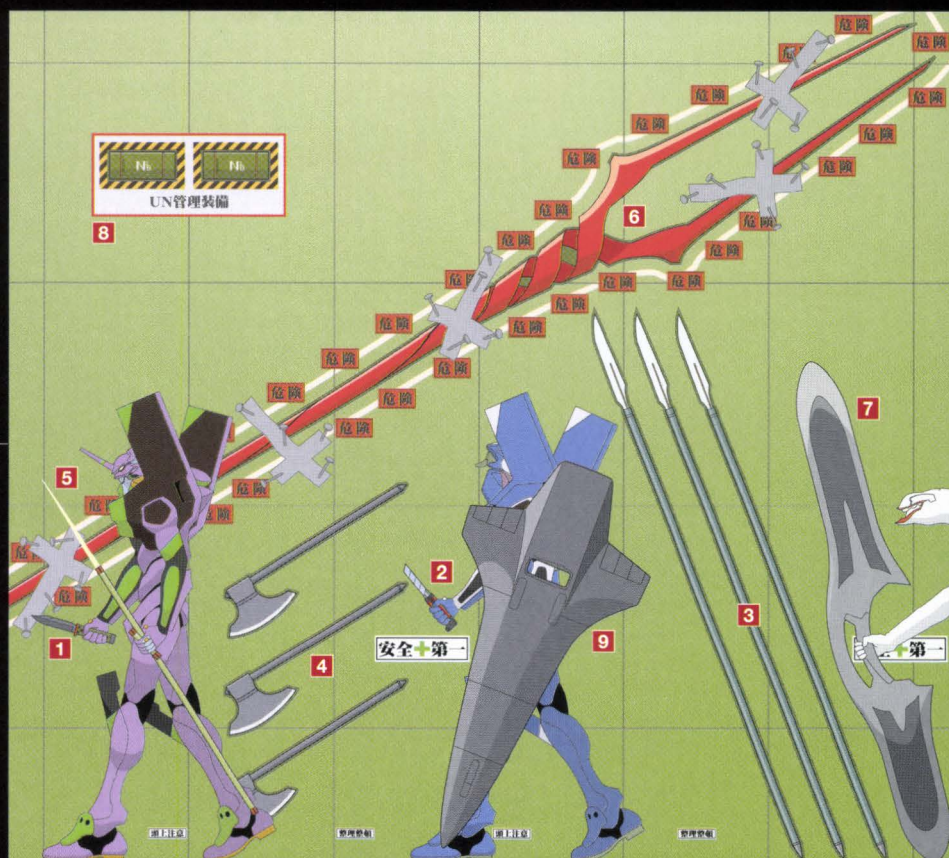
適格者を選出するための関連組織マルドゥック機関。だがその実体はNERV本部そのもので、候補者はすべてコード707、即ちシンジの通う中学校に秘密裏に集められ保護されていた。

適格者と呼ばれるEVAパイロットの選出基準は非公開だが、14歳の母親のいない少年少女という共通点がある。

適格者の選出方法を不審に思うミサトに、マルドゥック機関の事実を掴んだ加持はコード707を探れと告げる。

エヴァンゲリオンの装備❶
格闘装備

EVANGELION equipment-1

Illustration by Akio Unuma

1 プログレッシブ・ナイフ（PK-01）

EVAの基本装備とされるハンドタイプの高周波振動ナイフ。PK-01は通常のナイフ型をしている。使徒とは格闘戦となる場合が多いため戦闘時に用いられるケースはかなり多い。

肩パイロンに収納されており、使用時にポップアップする。

2 プログレッシブ・ナイフ改（PK-02）

弐号機に装備されているプログレッシブ・ナイフ。PK-01の改良型であるPK-02はカッターナイフ型となっており、刃こぼれした場合は、刃を折ることで切れ味を維持できる。

刃が折れても瞬間的に替え刃を入れ替えることが可能。

3 ソニックグレイブ

プログ・ナイフ同様に高周波振動型の刃を持つランス。対第7使徒初戦にて、弐号機がこれを用いて目標を一刀両断するが、使徒は分離したため結果としてダメージは与えられなかった

長槍型の武器であるが、長刀の要領で扱っていた。

4 スマッシュ・ホーク

EVAの近接戦闘用武装の一つ。斧型であるため取り回しも良好な上、破壊力も高い。第12使徒戦では弐号機が使徒からの攻撃を避けるために、ビルをよじ登るための足場に利用した。

スマッシュ・ホークをビルに突き立て足場にする弐号機。

5 槍（スクリーン展開式）

対第7使徒の二点同時過重攻撃作戦時に使用された武装。柄の部分にフィールドジェネレーターが内蔵されており、2本同時使用で発生したフィールドにより使徒を分断したと推測される。

2本の槍の間に発生したフィールドスクリーンで目標を分断。

6 ロンギヌスの槍（オリジナル）

第15使徒戦に使用された巨大な槍型物体。南極でサルベージされた後、アダムに突き刺されていた。一瞬で衛星軌道上の目標を撃破し最終的に月軌道へまで達する驚異的な能力を発揮する。

ロンギヌスの槍の投擲体勢を取る零号機。

7 ロンギヌスの槍（レプリカ）

量産型EVA各機が装備していた格闘戦用の大型武器。通常は剣のように振り回して敵を粉砕する。またサードインパクト発動の儀式時には、オリジナルのロンギヌスの槍と同一形状になる。

いわゆる青竜刀のような要領で敵を切り裂く。

8 n^2爆弾

第14使徒戦時に、修復未完了の零号機が捨て身の自爆攻撃を敢行した時に用いたn^2兵器。第14使徒のコアをn^2爆弾で直接破壊しようとしたが、予想外にもコアを保護されたため失敗する。

第14使徒のコアを直接n^2爆弾で攻撃するが、失敗した。

9 EVA専用耐熱光波防御兵器（急造仕様）

ヤシマ作戦に於いて、狙撃手を担当する初号機から第6使徒の反撃を防ぐ目的で、超電磁コーティングされたSSTOの底部をEVA用の盾として赤木リツコ博士らが急改造したものである。

第6使徒の加粒子砲を短時間ながら見事に防ぎきっている。

第拾八話 命の選択を

SCENE/CHECK POINT

EVA3号機起動実験のため、ミサトはリツコとともに松代の試験場へと向かう。だが、彼女はシンジにフォースチルドレンの名前を明かせずにいた。ここ数日、トウジはどこか上の空。その理由はアスカもレイも知っていた。昼休みに屋上で珍しくトウジに話しかけるレイ。それに対してトウジは、レイはシンジが心配なのだろうと返す。そして3号機起動実験の日。未だ約束したお弁当をトウジに渡すことができず、ガッカリするヒカリ。一方、松代ではパイロットも到着し、起動実験が開始される。しかし、起動した際に実験場は大爆発を起こす。そこから歩みだした3号機は、使徒に乗っ取られていた。ゲンドウ指揮の下で迎撃する3機のEVAだが、目標を見てシンジは愕然とする。使徒と化した3号機は、アスカ、レイと次々に倒していく。残るはシンジの初号機だけだが、彼は攻撃をためらう。それを見たゲンドウは初号機のコントロールをダミープラグへと移行、使徒を無惨なまでに破壊し尽くす。そして大破したエントリープラグにトウジの姿を見たシンジは絶叫する。

STAFF LIST

第拾八話（初回放映日：96.1.31）

脚　本：樋口真嗣、庵野秀明
絵コンテ：岡村天斎
演　出：岡村天斎
作画監督：黄瀬和哉

第拾八話 命の選択を

NEON GENESIS EVANGELION EPISODE:18 AMBIVALENCE

COLUMN

屋上でトウジに声をかけたレイは、「お前が心配しとんのはシンジや」と指摘され、肯定的な返事をする。前回、ゲンドウにも言ったことがなかった「ありがとう」という言葉をシンジに顔を赤らめて答えたことで、レイ自身、シンジに対して特別な感情を抱いていることを、それなりに自覚しつつあるということだろう。3号機に搭乗したトウジは命は取り留めるが、次回を最後に本編からは姿を消す(以後登場するのは、シンジの内面世界でだけとなる)。

SCENE 1

巨大な積乱雲内を通過してゆく、3号機を搬送中の大型輸送機。その雲の中に不穏な放電が走る。

SCENE 2

朝、ミサトの前に現れたケンスケは、自分をEVA3号機のパイロットにして欲しいと頭を下げる。

SCENE 3

リツコと共に松代へ向かうミサト。彼女は結局シンジにフォースチルドレンの名を明かせなかった。

SCENE 4

フォースチルドレンの名前を知ったアスカは、プライドを汚されたようで不機嫌極まりない様子。

SCENE 5

トウジに声をかけたレイは、本当はシンジが心配なのだろうと言われ、そうかもしれないと認識する。

おまえが心配しとんのはシンジや

SCENE 6

3号機は2時間遅れで松代に到着した。落ち着いたリツコとは反対に、待たされてイラつくミサト。

SCENE 7

授業をサボったトウジは、EVAの操縦者というだけの理由でシンジを殴ったことを思い出していた。

EPISODE 18 AMBIVALENCE

SCENE 8

放課後、ヒカリからトウジへの想いを打ち明けられるアスカ。そのノロケぶりにアスカは唖然。

SCENE 9

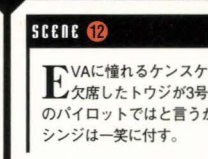
ミサトに代わってシンジとアスカの面倒を見る加持。シンジは加持に父のことを尋ねるのだった。

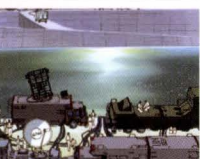
人は他人を完全には理解できない。
自分自身だってあやしいものさ。
100%理解しあうのは、
不可能なんだよ

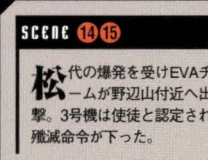
SCENE 10

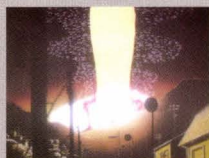
パイロットが松代に到着し、3号機の起動実験の準備が始まる。だがミサトは気乗りがしない。

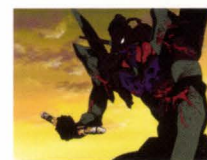
SCENE 11

トウジが欠席と知りヒカリは落胆。トウジのためのお弁当をアスカにあげるヒカリの瞳は寂しげだ。

SCENE 12

EVAに憧れるケンスケは欠席したトウジが3号機のパイロットではと言うが、シンジは一笑に付す。

SCENE 13

3号機の起動実験が開始。そのとき機体に潜んでいた使徒が活動をはじめ、巨大な爆発が起こる。

SCENE 14 15

松代の爆発を受けEVAチームが野辺山付近へ出撃。3号機は使徒と認定され、殲滅命令が下った。

SCENE 16 17

使徒となった3号機への攻撃を拒むシンジ。ゲンドウはダミーシステムを使い、強引に使徒を倒す。

やめろオオオオオオオオオ!!

SCENE 18

松代の爆発現場では、ミサトが意識を取り戻す。駆けつけた加持は、リツコも無事だと告げた。

SCENE 19

3号機パイロットが救出され、安堵するシンジ。だが、モニタに映った搭乗者は彼の親友だった……。

01 EVA3号機起動実験

作戦 TACTICS

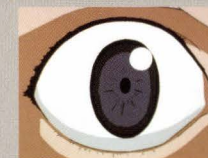



Illustration by Takayuki Yanase

米国第1支部から押しつけられた4機目のEVA

米国第2支部の消滅事故の結果、第1支部で建造された3号機は事故の可能性を危惧され、日本のNERV本部へと移譲が決まる。空輸されてきた3号機は、松代の地下第2実験場においてテストされることとなり、NERV本部側からはEVAチームの責任者である葛城三佐と、EVA開発担当である赤木リツコ博士の両名が松代へと出向。米国スタッフと一緒に起動実験に立ち会うことになる。

空輸中のEVA専用大型輸送機エクタ64。管制塔ネオパン400の指示通り積乱雲を通過したことが運命の分かれ道であった。

3号機の起動実験の準備を進めるスタッフたちは、基本的には米国支部の人間である。赤木博士と葛城三佐はオブザーバーに近い。

■ 3号機の輸送コース

1 第1支部より3号機出発

2 航路上に積乱雲を確認

3 松代に到着

米国第1支部から、無補給で太平洋上を横断するルートで空輸されてきた3号機。スケジュールの遅延を避けるため積乱雲を迂回せず日本へ直行するも、2時間遅れで新松代空港へ到着する。

02 EVA3号機

EVA EVANGELION

米国が強引に建造権を主張して建造していた機体であり、第1支部で建造を進めていた。弐号機同様のプロダクションモデルだが、頭部の形状はむしろ初号機の流れを汲む。

03 フォースチルドレン

人物 CHARACTER

3号機の起動実験とタイミングを合わせたかのように選出された4人目の適格者。選出されたトウジは、重傷の妹をNERV本部にある病院へ転院させることを条件に承諾した。

フォースチルドレンは以前EVAを憎んでいたと個人記録にある。

起動実験の経緯

1 3号機、日本に向けて出発

米国NERV第1支部から発進した3号機を積載する輸送機は、管制の指示を遵守してルート上の雲海内を通過するプランを選択した。その際、通過した積乱雲に奇妙な放電現象が発生。このタイミングで使徒が寄生したものと推測される。

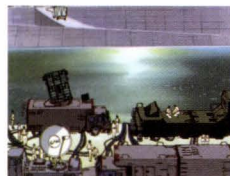
輸送機にスリングされ搬送される3号機。拘束具の特殊な形状から、十字架に貼り付けられているかのようにも見えなくもない。

2 3号機、新松代空港に到着

スケジュール遅延を避けるためのプランを選択したにも拘わらず、結果的には到着予定時間から2時間ほど遅れて輸送機は新松代空港へ到着している。松代に先乗りしていた赤木博士と葛城三佐が、これを出迎えた。

新松代空港に着陸する輸送機。あまりの遅れに待ちくたびれたのか、葛城三佐は必要以上にヒステリックであったとも言われている。

3 起動実験の準備が進行

到着した3号機は松代第2実験場へと運び込まれ、パイロットとなるフォースチルドレンのためのコアの書き換えをはじめ、各種の調整や準備作業が行われる。作業は順調で、フォースチルドレンの到着を待つだけとなった。

3号機起動に関する各種のオペレートは、無人である地下実験場施設の外部=地上に配置された多数の車両群によって行われた。

4 3号機、起動実験開始

フォースチルドレンが現着。3号機へエントリーし、起動シークエンスを開始した。スムーズに絶対境界線へと到達。問題なく起動を果たすかと思われた瞬間、パルスが逆流。3号機内部に高エネルギー反応を検知。実験場は爆発した。

絶対境界線突破後、3号機の眼が異様に発光。赤木博士は異常事態に実験中止を宣言するが、3号機は既に制御不可能な状態となっていた。

04 第13使徒バルディエル戦

作戦 TACTICS

Illustration by K2 Shoukai

EVA対EVAという未曾有の戦闘

爆発した松代第2実験場から出現した未確認物体は3号機であった。しかし使徒に寄生されており、EVAチームには殲滅命令が下される。だが初号機パイロットはこれを拒否。作戦指揮を執っていた碇司令はダミーシステムの使用を決断した。

戦闘を放棄した初号機は、第13使徒から一方的な攻撃を受け続け、パイロットも生命の危機にさらされる。

▶ ダミーシステムの投入

ダミーシステムを起動した初号機は、暴走を思わせるような攻撃性を発揮。勝負がついてからも解体さながらの凶暴さで使徒を殲滅している。

野辺山での迎撃作戦

1 未確認移動物体の確認

松代より自律的に移動する物体を肉眼で確認。それは使徒に寄生された3号機であった。

2 弐号機の待機地点

目標が最初に接近する位置に弐号機が待機。だが不意をつかれ弐号機は瞬時に撃破された。

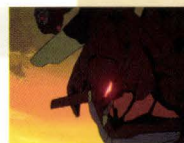
3 零号機の待機地点

目標の通過地点に待機していた零号機だが、組倒され左腕へ侵食攻撃を受け中破している。

4 初号機の待機地点

後陣に位置していた初号機に目標が接近。だが初号機パイロットは戦闘を拒否した。

5 ダミーシステムの起動

碇司令はダミーシステムの使用を決断。初号機はシンジの意志を無視して反撃を開始する。

6 使徒、活動停止

ダミーシステムの戦闘は目覚ましく、苦もなく目標を撃破。だがそれは猟奇的でもあった。

■ 使徒侵攻ルート概念図

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

05 第13使徒バルディエル

使徒 ANGEL

DATA
- 呼称：第13使徒
- 天使名：バルディエル
- 象徴：霰
- 能力：寄生

Illustration by Hirofumi Ichikawa

EVA3号機内部に寄生し、機体をパイロットごと乗っ取った使徒。そのため外見上は3号機そのものとなっているが、完全な自律運動や粘液状の物質による侵食攻撃など、紛れもなく使徒の能力を有す。使徒の本体は粘菌状の存在と考えられる。

使徒に寄生された3号機は、腕部をゴムのように柔軟に伸長可能。その手で無抵抗の初号機に絞首攻撃を行う。

使徒に乗っ取られた3号機の頭部

第拾九話 男の戦い

SCENE/CHECK POINT

トウジは一命を取り留めたが、図らずも親友を自分の手で殺しかけたシンジは、初号機で本部を破壊するとゲンドウを脅迫。だが呆気なく阻止されてしまう。ゲンドウと対面したシンジは、もうEVAには乗らないと言い放ち、ゲンドウはNERVから去るよう彼に命じる。見送るミサトと冷たい会話を交わした後、シンジは列車が来るのを待つ。そのとき使徒が襲来。その力は凄まじく、ジオフロントで迎撃戦を展開する弐号機を瞬時に撃破。n^2爆雷を抱え特攻した零号機をも退ける。避難していたシンジは、畑で水をまく加持と遭遇。彼の助言を受けたシンジは本部へ走り、EVAに乗せて欲しいとゲンドウに懇願するのだった。一方、使徒は発令所へと到達。ミサトらの危機にシンジの操る初号機が現れ猛反撃を開始した。だが初号機の電源が切れ、焦るシンジ。それに応えるかのように突如初号機は再起動。驚異的なパワーで使徒を圧倒すると、初号機は使徒の肉体を喰らい始めた。あまりの凄惨さに呆然とするミサトたち。そして初号機の咆哮がジオフロントに響き渡る。

STAFF LIST

第拾九話 (初回放映日：96.2.7)

脚　　本：薩川昭夫、庵野秀明
絵コンテ：摩砂雪
演　　出：摩砂雪
作画監督：本田雄

第拾九話 男の戦い

NEON GENESIS EVANGELION EPISODE:19 INTROJECTION

COLUMN

前回に続き加持のスイカ畑が再び登場。日頃はあまり本音を見せず食えない男の雰囲気が強い加持だが、この畑でのシンジへの言葉は前回も今回も、極めて真摯なものだ。その言葉に促されるように、再びEVAに乗る決意を固めたシンジがゲンドウと向き合うシーンは、第壱話でゲンドウがシンジに初号機に乗るよう命じる場面と意図的に同じ構図となっている。なお、シンジがプラグスーツを着用しないでEVAに乗るのは、今回以外は第壱話と劇場版だけである。

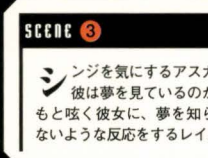
SCENE 1

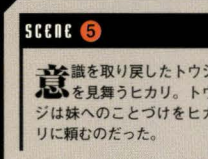
シンジは初号機での本部破壊を告げるが、ゲンドウの機転で意識を奪われ、初号機から排除される。

SCENE 2

第13使徒戦後の処理を視察するミサト。まだ怪我は完治していないが、状況は休息を許さない。

SCENE 3

シンジを気にするアスカ。彼は夢を見ているのかもと呟く彼女に、夢を知らないような反応をするレイ。

SCENE 4

一命は取り留めたトウジ。昏睡する彼は、夢の中でシンジとレイが向き合い、口論する姿を見る。

SCENE 5

意識を取り戻したトウジを見舞うヒカリ。トウジは妹へのことづけをヒカリに頼むのだった。

SCENE 6

独房に監禁されていたシンジはゲンドウと面会。シンジは二度とEVAには乗らないと宣言する。

SCENE 7

NERVを去る決意をしたシンジ。ケンスケやミサトの言葉も彼の決意を変えることはなかった。

SCENE 8

ミサトに別れを告げたシンジ。だがそのとき、第3新東京市に14番目の使徒が接近してくる。

EPISODE 19 INTRODUCTION

SCENE 9

初号機にレイが搭乗するも起動しない。レイはゲンドウの命ずるままに、零号機での出撃を承諾。

私が死んでも、代わりはいるもの

SCENE 10 11

使徒を迎え撃つアスカだが、弐号機は腕と頭を切断される。その首はシンジのシェルターを直撃した。

こんちくしょぉおおおおお!!

SCENE 12

本部ではダミープラグでの初号機起動が続けられていた。だが、拒絶するかのように起動しない。

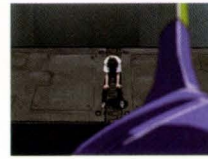
SCENE 13

大破したシェルターを出たシンジは加持と出会う。なすべき事を自分で決めろと加持は言う。

SCENE 14

損傷した零号機を駆り、N²爆雷で使徒に特攻するレイ。だが、使徒はその爆発にすら無傷で耐え抜く。

SCENE 15

加持の言葉に、シンジは今自分がなすべき事を悟り、本部へと走る。そして彼はEVA搭乗を志願する。

僕は、僕は、エヴァンゲリオン初号機のパイロット、碇シンジです!

SCENE 16 17

ついに使徒が発令所へと侵攻するも、間一髪で初号機が現れ、使徒をジオフロントへと押し返す。

SCENE 18 19

活動限界に達し危機に陥るも再起動した初号機。使徒を倒すだけではなく、その肉体を喰らう。

使徒を……喰ってる!?

01 第二次ジオフロント攻防戦

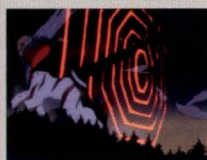
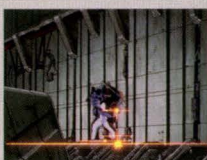
作戦 TACTICS

Illustration by Takuya Io

NERV本部へ侵攻した最強の使徒との、熾烈を極めた大攻防戦

本部施設の半壊、弐号機と零号機の大破という激戦だった第14使徒戦。初号機の猛反撃で使徒を追いつめるが、内部電源が切れ形勢は逆転する。しかし初号機は再起動後に使徒を圧倒、その体を捕食してS^2機関を取り入れるという結末を迎えた。

圧倒的な戦闘能力を持つ第14使徒。その侵攻は止められず、セントラルドグマのメインシャフトへ到達。侵入を許す。

またも電源の切れた状態からの再起動を果たした初号機。四つん這いという獣のごとき挙動で使徒に近づき捕食をはじめる。

使徒によるセントラルドグマ侵攻

1 使徒、ジオフロントへ侵入

駒ヶ岳防衛戦を容易く突破し、第3新東京市の対空砲火をものともせずに侵攻する第14使徒。その侵攻速度に地上での迎撃は間に合わず、葛城三佐は目標がジオフロント内へと降下したところを狙い撃つように弐号機を配置する。

第14使徒はあっという間に特殊装甲を全て破壊し、ジオフロント内部へと侵入を果たす。

2 弐号機、使徒と交戦

ジオフロントへ侵入した目標に対し、パレットライフル、ハンドバズーカを二丁持ちで火力を集中させるも、ダメージを与えられず。使徒は、反撃で腕部を伸長させると弐号機の両腕部と頭部を瞬時に切断。弐号機は沈黙する。

第14使徒に対し、A.T.フィールドを中和しつつ火器による連射を試みた弐号機であったが、逆に使徒の攻撃で大破してしまう。

3 零号機、使徒へ特攻

初号機パイロットの不在から、当初初号機で出撃準備を行っていたファーストチルドレンであったが、結局損傷したままの零号機にて出撃。独自の判断でn^2爆弾を抱えて特攻するも、目標はコアを防御し爆発を回避。零号機も沈黙する。

零号機は左腕の修復を待たず出撃。n^2爆弾を使徒に直撃させるという自爆覚悟の特攻を試みるが、使徒は全くの無傷であった。

4 使徒、第1発令所へ到達

本部施設へと到達した第14使徒の攻撃により、セントラルドグマのメインシャフトが完全に露呈。使徒はそのままシャフト内を降下し、第1発令所内部へと入り込む。反撃の手だてはなく、これまでかと思われたが——。

発令所スタッフの眼前に、その巨体を見せる第14使徒。NERV本部はこれまでにない絶体絶命の危機を迎えることに。

初号機による使徒の迎撃

戦線を離れていたサードチルドレンが初号機パイロットに復帰。発令所に侵入した第14使徒へ反撃し、施設外へ排除する。しかし、殲滅まであと一歩のところで活動限界を迎え、初号機は無抵抗のまま攻撃にさらされた。なお、その際に胸部装甲が破損。内部には使徒のコアに酷似したものが確認されている。その後再起動した初号機は400％を越えるシンクロ率を記録。A.T.フィールドごと使徒を切り裂き、瀕死に追い込む。更に使徒を喰らうという奇行を見せた。

再起動後の初号機は、引きちぎった第14使徒の腕部を自らの肩部につなげ、切断された左腕を再生。その力は第3使徒戦で見せた再生能力をも上回るものだった。

間一髪で目標の迎撃に出た初号機は、一気呵成に第14使徒をEVA射出口に押し込み、本部施設外部へと排除することに成功した。

■ 使徒侵攻ルート概念図

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

COLUMN S^2機関の取り入れ

シンクロ率400％の初号機。その能力は最強の使徒とされる第14使徒さえも一蹴するほどである。さらにその行動は野生的であり、四つん這いで移動し、使徒を捕食するという行為を見せた。これは使徒の肉体から直接S^2機関を取り込むための行動であったようだ。

02_ 第14使徒ゼルエル
使徒 ANGEL

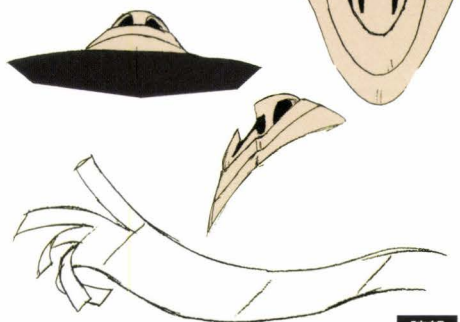
ZERUEL

DATA
- 呼称：第14使徒
- 天使名：ゼルエル
- 象徴：力
- 能力：伸縮自在腕、怪光線

Illustration by Hirofumi Ichikawa

最強の使徒と呼ばれる第14使徒ゼルエル。人型の形状だが、脚部は短く移動は空中浮遊によって行われる。帯状の腕部は展開し、敵に巻きつけることや切り刻むことが可能。怪光線の威力は、ジオフロントの特殊装甲を一撃で18層貫くほど。

胸部にあるコア部分は、これまでの使徒と異なり危機的状況においてはシャッターのような殻で防護する機能がついている。

頭部と思しき部位

腕部

▶ 第14使徒戦で用いたEVAの武器

迎撃に出た弐号機は、中長距離火器を多数携帯して使徒侵攻の絶対阻止に挑む。いわゆる二丁拳銃で、目標に連射攻撃を仕掛けた。

二丁のパレットライフルによる同時フルオート連射で、目標を攻撃。しかし全弾消費するが効果無し。

■ ハンドバズーカ

EVA用の中距離用火器。連射も可能なロケット弾で破壊力も高い。だが第14使徒は無傷であった。

■ n²爆弾

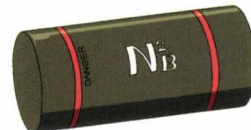
左腕を損壊した零号機が自爆覚悟での特攻に用いたn²爆弾。コアを守る装甲により、A.T.フィールド抜きの純粋な防御力によって防がれた。

03_ サードチルドレン初号機占拠事件
作戦 TACTICS

Illustration by Takuya Io

感情にまかせたサードチルドレンの稚拙な造反行為

第13使徒戦後、サードチルドレンはエントリープラグに立てこもり、初号機で本部を破壊すると脅迫。フォースチルドレンに関する一連の出来事が原因であるが、碇司令は取り合わず、プラグ内のL.C.L.濃度を上げて搭乗者を失神させ解決した。

稚拙な恫喝と初号機の不当占拠により、サードチルドレンは独房に入れられた。

ハッチをレーザーカッターでこじ開け、失神状態のサードチルドレンは機外へ運び出された。

COLUMN
EVAのコアと拘束具

EVAの心臓部ともいえるコア。意外にもその形状は使徒のそれと酷似していた。また外部装甲は、EVA本来の力を制御するための拘束具であると、赤木リツコ博士の口から明かされた。

EVAの胸部に存在する球形状のコア。これが露呈したのは第14使徒戦が初であった。

使徒の補食後、外部装甲を自力で排除した初号機を見て、赤木博士は"覚醒"を確信。

COLUMN
フォースチルドレンの容態

第13使徒戦後、救出されたフォースチルドレンはNERV本部の病院に収容。3日間の昏睡状態ののち、無事に意識を取り戻した。

一命を取り留めたフォースチルドレンであったが、左足を切断するという重傷を負う。

第弐拾話 心のかたち 人のかたち

SCENE/CHECK POINT

1 ゼーレ、初号機の覚醒を知る
2 第1日 NERV本部とEVA各機の復旧に着手
3 ミサトと日向、初号機を視察
4 ゼーレ、ゲンドウに不信を抱く
5 加持、初号機の処置をゲンドウと冬月に問う
6 初号機エントリープラグ内の探査が開始
7 第2日 レイ、病院で目を覚ます
8 第3日 リツコ、シンジのサルベージ計画を立案 ▸▸ 01 P.062
9 第4日 シンジ、内的世界にひたる
10 第30日 サルベージ計画の準備が進む
11 第31日 シンジ、内的世界で自分の存在意義を模索
12 サルベージ計画開始
13 ミサト、サルベージの失敗に号泣
14 シンジ、内的世界で母の記憶を見る
15 シンジ、初号機から解放される
16 第33日 ミサト、リツコの誘いを断る
17 ミサト、加持と密会

第弐拾壱話へ

初号機のS²機関の取り込みと覚醒。使徒戦による本部の半壊。この事態を鑑み、ゼーレはゲンドウの処遇について検討していた。ゲンドウは初号機の凍結を決定するが、シンジの心と肉体は、エントリープラグ内のL.C.L.に融解していた。これこそ前の戦闘で記録したシンクロ率400%の正体である。リツコは第2発令所にて、本部の復旧作業を開始。併行してシンジのサルベージ作業を提案する。一方、初号機の中では、シンジが内面世界で自問自答を繰り返していた。EVAに乗る理由、敵と戦う理由……敵が使徒から父親へとすり替わり、思考がループを始める——。リツコは約1ヶ月かけて、サルベージ計画を立案。作業が開始されるも失敗し、エントリープラグは機体から排出されてしまった。泣き崩れるミサト。その泣き声に、いや母親の声に導かれるように“外の世界”へと進むシンジ——ミサトの目の前には元通りのシンジが横たわっていた。それから2日後。加持の胸の中で、平穏な一夜を過ごすミサト。そして加持は、小さなカプセルをミサトに渡す……。

STAFF LIST

第弐拾話（初回放映日：96.2.14）

脚　本：庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明
演　出：大塚雅彦
作画監督：鶴巻和哉

心のかたち 人のかたち 第弐拾話

NEON GENESIS EVANGELION EPISODE:20 WEAVING A STORY 2 : oral stage

COLUMN

初号機と融合してしまったシンジの、サルベージ計画要項のベースとなった10年前の計画書とは、次回で語られる碇ユイ消失事件（ユイが初号機に取り込まれる事故）にて、リツコの母であるナオコが立案し実行したものである。ちなみに、第拾四話の機体相互互換実験で、シンジを乗せた零号機が暴走した際の「あの時と同じなの? シンジ君を零号機が取り込もうとしている!?」というリツコのセリフは、このユイ消失の事例を踏まえてのことども考えられる。

SCENE 1

初号機に生まれるはずのないS²機関の獲得と覚醒。それはゼーレにとって想定外のシナリオであった。

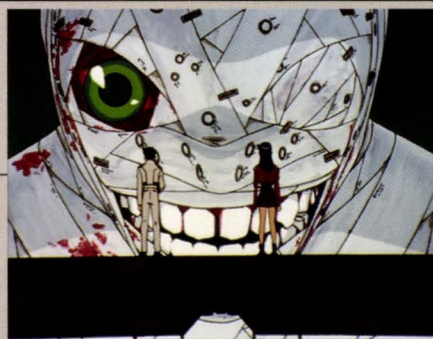
碇、何を考えている

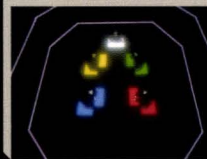
SCENE 2

第14使徒によって甚大な被害を被ったNERV本部とEVA。リツコは第2発令所を使い復旧に取りかかる。

第1日 THE FIRST DAY

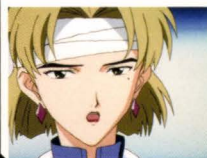
SCENE 3

ケイジに固定された初号機は沈黙を保つ。だが、電源無しで何度も起動した初号機をいぶかるミサト。

SCENE 4

人類補完委員会はゲンドウに不審感を強めていた。キールは加持を動かし、ゲンドウへの牽制を図ることに。

SCENE 5

初号機の覚醒を質す加持に、ゲンドウと冬月はあくまでも不測の事態とし、初号機の凍結を決定する。

SCENE 6

シンジは初号機に取り込まれ消滅していた。EVAの疑念をぶつけるミサトはリツコの態度に激昂する。

EPISODE 20 WEAVING A STORY 2 :oral stage

SCENE 7

レイが無事だという連絡をヒステリックに受け答えるアスカ。彼女はシンジに負けたことを悔やむ。

SCENE 8

リツコはシンジの救出計画を提案。第12使徒戦とは打って変わっての救出案にミサトは嫌味を漏らす。

シンジは自分の"心の世界"の中にいた。そこで自分は、以前からEVAを知っていたことを思い出す。

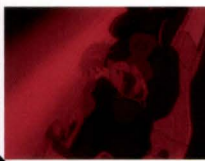
自分から逃げ出したくせに

SCENE 10

リツコはシンジのサルベージ計画を1ヶ月で完成させた。それは10年前のプランをベースにしたもの。

SCENE 11

心の世界で自分の存在理由を問い続けるシンジ。自分は人に褒めてもらうためにEVAに乗っているのか。

シンジの魂を初号機から分離し、肉体へと再定着させるためのサルベージ計画が実行される。

SCENE 13

危険な状態に作業中断するリツコだが、プラグからはL.C.L.が排出され計画は失敗。ミサトは号泣する。

SCENE 14 15

初号機内のシンジの魂は、母の記憶と声に導かれるように"外の世界"へ。そしてシンジは生還した。

SCENE 16

リツコはミサトを飲みに誘う。断られたリツコは加持との密会と察するも自嘲の笑みを浮かべる。

SCENE 17

リツコの誘いを断ったミサトは、加持とベッドにいた。情事の中、彼はミサトにカプセルを渡す。

01 サードチルドレン サルベージ計画

Illustration by Naochika Morishita

初号機と融合してしまった サードチルドレンの救出計画

第14使徒戦時、シンクロ率400%をマークした初号機であったが、その代償としてサードチルドレンが初号機と融合、肉体がエントリープラグ内のL.C.L.に融解するという事態を招いてしまった。赤木リツコ博士は、サードチルドレンの魂を肉体に再定着させ、初号機と分離する計画を立案する。

第14使徒戦で大きなダメージを負った初号機に、パイロットのサードチルドレンは融合してしまった。

サルベージ計画自体は失敗したが、幸運にもサードチルドレンは初号機との分離を果し、元の姿に戻る。

サルベージ計画実行までの経過

1日目 シンクロ率400%の結果

400%という驚異的なシンクロ率は、初号機パイロットがEVAと一体化した故の数値である。その結果、取り込まれた肉体はL.C.L.に融解してしまっている。

エントリープラグ内はもぬけの殻であった。だが、着用していなかったはずのプラグスーツが漂っており、これが自我の顕れと考えられた。

3日目 サルベージ計画の発動

赤木博士はまだサードチルドレンの魂はエントリープラグ内に存在すると推論し、パイロットの肉体を初号機からサルベージする計画を提案する。

辛うじて自我が残っていることから、サードチルドレンの魂と肉体を再構成し、初号機から分離させることが理論上可能だと、赤木博士は推察。

30日目 サルベージ作業手順要綱の完成

赤木博士は、10年前のEVA開発中に起こった事故事例において作成されたプランニングを元に、約1ヶ月でサルベージ作業手順要項を完成させた。

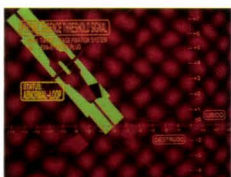
赤木博士はサルベージ作業手順要項を作成。オペレーターの伊吹マヤはその仕事ぶりに感心するが、プランは10年前のものを基にしていた。

31日目 サルベージ計画の実行

サルベージ作業が開始されるも、異常が発生。肉体の復元を前にプラグは排出され、作業は失敗に終わる。だが奇跡的にもサードチルドレンは初号機から分離、生還した。

作業途中で事態は急変。プラグが排出され、ハッチからパイロットの肉体の融解したL.C.L.が流出してしまう。作業は失敗と思われたが……。

サルベージの概念

サルベージ計画とは、プラグ内のL.C.L.に干渉波を送り込み、失われている自我境界線を再生することにより、L.C.L.内に精神とともに融解した肉体を再生させるという、心理学と生物学を併せたような概念に基づいている。

魂を肉体に定着させる作業ともいえるサルベージ計画。モニタの表示には心理学用語が散見される。

■ サルベージのプロセス

- 01 自我境界パルス接続
- 02 第1信号送信
- 03 EVA信号を受信、拒絶反応なし
- 04 第2、第3信号送信
- 05 対象カテクシス異常なし、デストルドー認められず
- 06 対象をステージ2へ移行
- 07 自我境界がループ状に固定
- 08 リツコ、全波形域を全方位で照射を指示
- 09 発信信号がクライン空間に捕らわれる
- 10 リツコ、干渉中止を決定
- 11 リツコ、タンジェントグラフの逆転、加算数値をゼロに戻すことを指示
- 12 旧エリアにデストルドー反応 パターンセピア
- 13 コアパルスに変化 プラス0.3を確認
- 14 リツコ、現状維持の最優先と、逆流を防ぐことを指示
- 15 逆流せき止められず
- 16 EVA、信号を拒絶
- 17 L.C.L.自己フォーメーションが分解
- 18 プラグ内圧力上昇
- 19 リツコ、全作業中止を指示
- 20 プラグはイグジット、L.C.L.流出
- 21 シンジ、初号機から生還

シンジの内的世界

初号機と完全に融合してしまったシンジは、自己の肉体を失い、いうなれば魂だけの存在となっていた。その状態でのシンジは、自分の内的世界=心の世界の中にいた。その世界では、自身の思考が具体的なイメージとなって知覚されていたようだ。なお、シンジは第12使徒の虚数空間に捕らえられたときも同じような感覚を体験している。

自己の内的世界にて見るイメージには、シンジが感じたもののほか、無意識下や本人が忘れていたものまでも含まれている。

第12使徒内部に捕われたときも、今回の事例同様に母親のイメージがシンジの"心の世界"に現れている。

▶ 内的世界で見られる言葉

シンジは自身の内的世界において、肉親の名前や(加えて綾波レイの名前も見られるところが興味深い)、心理学用語がいわゆるタイポグラフィー風のイメージとして現出している。「劣等感」「恐怖」といったネガティブなワードと「父」「碇ゲンドウ」が同じ雰囲気となっているところに、シンジの深層心理が垣間見られる。

母

偽善

乳
房

現
実

価
値

▶ 心理学、精神分析学の用語

■ 口唇期

「oral stage」。口唇期とはリビドー発達におけるもっとも初期の段階であり、フロイトが定義した性器性欲の前段階たる幼児性欲の第一段階。誕生から生後1年半頃までの、口唇を介した刺激により性的快感を得ている時期を指す。その後は、肛門期、男根期と展開していく。

■ 同一化

精神分析学における防衛機制のひとつ。憧れの存在や優れている人と同じ行動をすることで、満足感を得たり劣等感を振り払うこと。

■ 内在化

心理学用語で、外にあるものを自分の内に取り込み、身に付けて変化する過程を指す。例えば、外的なものである世の中の規範などの社会性を身に付けること。

■ 補償

心理学では、人間の心に存在する意識と無意識のバランスをとろうとする自然な働きのことを「補償」と呼ぶ。意識がある一方向に偏って心のバランスを一時的に失った場合、夢の中などの無意識においてその偏りに相反する意識を生み出し、それによって自我を均衡に保つ。しかし、一般に意識が偏る時とは当人の主張が強く表れているときであり、ゆえに無意識はその主張に反する「当人が強く拒絶する不愉快なもの」を生み出すことになるため、受け入れ難いものを強制的に受け入れなければならない状態になった場合、神経症など精神疾患の原因になる可能性もある。また、精神分析学における防衛機制（自我を守る作用）のひとつでもあり、自らが劣等感を抱く分野とは別分野で成功し、劣等感を補おうとすることを指す。

■ 抑圧

精神分析学の用語で、防衛機制のひとつ。自分を脅かすことになる記憶や感情、観念などと、それに付随する衝動や情動を無意識下へと追いやる作用のこと。

第弐拾壱話 ネルフ、誕生

SCENE/CHECK POINT

1 葛城調査隊の映像記録を見てゲンドウとキールが会話 ▸▸ 01 P.066
2 加持、ミサトの留守番電話に伝言
3 ミサト、冬月が拉致されたことを知る
4 1999年 冬月、ユイと出会う ▸▸ 05 P.068
5 2015年 冬月、ゼーレに詰問を受ける
6 1999年 冬月、ゲンドウと出会う ▸▸ 06 P.068
7 2002年 冬月、セカンドインパクト後に医者を開業 ▸▸ 02 P.066
8 冬月、セカンドインパクト調査団に参加 ▸▸ 01 P.066
9 2003年 人工進化研究所を訪れた冬月、E計画を知る ▸▸ 03 P.067
10 2005年 リツコ、ミサトと出会う
11 2003年 冬月、ユイの意志を知る
12 2004年 ユイ、EVAの実験により消失 ▸▸ 04 P.068
13 ゲンドウ アダム計画と人類補完計画を立案
14 2008年 リツコ、ゲヒルンに入所 ▸▸ 08 P.069
15 2010年 ゲンドウ、ナオコとリツコにレイを紹介 ▸▸ 07 P.068 ▸▸ 09 P.069
16 MAGIシステム完成
17 2015年 加持、冬月を解放
18 加持、何者かと待ち合わせ
19 ミサト、加持の伝言を聞く

第弐拾弐話へ

ゲンドウに疑念を抱くゼーレは冬月を拉致して尋問する。同じ頃、NERV諜報部は、加持を冬月拉致の首謀者と見てミサトを事件解決まで独房入りとした。一方、冬月はゼーレから「冬月先生」と呼ばれ、研究生だった碇ユイ、六分儀ゲンドウとの出会いを思い出す。それは1999年のことだ。翌年セカンドインパクトが発生。2002年、国連の南極調査隊に同行した冬月は、謎の巨人のことを知る。だが国連は真実を隠蔽。冬月は真相を暴くためゲンドウやユイが所属する人工進化研究所を訪れる。そこには冬月と旧知の科学者である赤木ナオコもおり、E計画の話を聞かされた彼は、ゲンドウに誘われるままゲヒルンに加わった。その後、実験事故でユイは消失。ゲンドウは人類補完計画に着手すると冬月に告げる。2010年、ナオコが開発するMAGIが完成するも、彼女は謎の死を遂げてしまう。そしてゲヒルンは解体、特務機関NERVが組織される。再び現在。加持が冬月を救い出しミサトは解放される。帰宅した彼女を待っていたのは、加持の残した留守電メッセージだった。

STAFF LIST

第弐拾壱話（初回放映日：96.2.21）

脚　本：薩川昭夫、庵野秀明
絵コンテ：甚目喜一
演　出：石堂宏之
作画監督：重田　智

ネルフ、誕生
第弐拾壱話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:21
He was aware that he was still a child.

COLUMN

セカンドインパクトからNERVの誕生までが明らかにされる。第拾伍話で加持が京都へ出向いていたのは、冬月とゲンドウ、そしてユイとの出会いが京都の大学であった点が遠因とも考えられる。また冬月の「あの頃はまだこの国に、季節……秋があった」というセリフで、劇中で頻繁にセミの鳴き声が聞こえる理由が明示された。なお、加持が冬月を助け出した際に口にする「碇司令にアダムのサンプルを横流しした件」とは、第八話のアダム搬送の件を指している。

SCENE 1

極秘扱いの南極での葛城調査隊の記録映像。これを見たキールとゲンドウの会話が為される。

SCENE 2

加持はミサトに電話をかけていた。だがミサトはおらず、留守番電話に何事かメッセージを吹き込む。

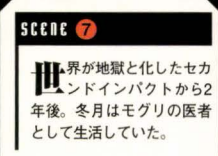
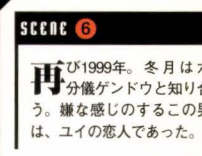
SCENE 3

諜報課から冬月拉致の報告を聞くミサト。加持が関係しているらしく、恋人のミサトは拘束される。

SCENE 4

ゼーレに尋問を受ける冬月は、大学の教授だった頃を思い出す。それは碇ユイとの出会いだった。

SCENE 5

冬月を拘禁して尋問を続けるゼーレは、ゲンドウの背信的な行動に対し不審感を露わにしていた。

SCENE 6

再び1999年。冬月は六分儀ゲンドウと知り合う。嫌な感じのするこの男は、ユイの恋人であった。

SCENE 7

世界が地獄と化したセカンドインパクトから2年後。冬月はモグリの医者として生活していた。

SCENE 8

セカンドインパクト調査団に参加した冬月は真実を垣間見る。だが公式発表は欺瞞に満ちていた。

EPISODE 21 He was aware that he was still a child.

SCENE 9

真相を暴くため人工進化研究所でゲンドウと会った冬月は、ユイや赤木ナオコと再会。E計画を知る。

アダムより人の造りしもの、EVAです

SCENE 10

ミサトとの出会いを思い出すリツコ。それは大学時代であり、ミサトの恋人、加持とも知り合う。

SCENE 11

真実を知りゲヒルンに参加した冬月は、人の未来に対するユイの切なる強い想いを聞いた。

SCENE 12

ユイはEVAの実験中に消失してしまう。その様子を、息子であるシンジも目撃していたのだった。

SCENE 13

ユイの事件から1週間後。失踪していたゲンドウは、人類補完計画を推進すると告げるのだった。

かつて誰もがなし得なかった神への道、人類補完計画だよ

SCENE 14

卒業したリツコはゲヒルンのメンバーとなり、母親のリツコと職場をともにすることになる。

SCENE 15

ゲンドウが綾波レイという子供を連れてきた。ナオコは、レイにユイの面影を感じ慄然となる。

SCENE 16

ナオコが開発を進めてきたMAGIが完成。その夜、ナオコはレイを絞殺。そして自らも転落死した。

大きなお世話よ。ばあさん

SCENE 17 18

冬月を加持が解放する。その後、何者かと待ち合わせていた加持。待ち人の到着と共に銃声が響く。

SCENE 19

帰宅したミサトは加持の遺した留守番メッセージを聞く。涙するミサトにシンジは無力であった。

01 葛城調査隊&国連セカンドインパクト調査団

作戦 TACTICS

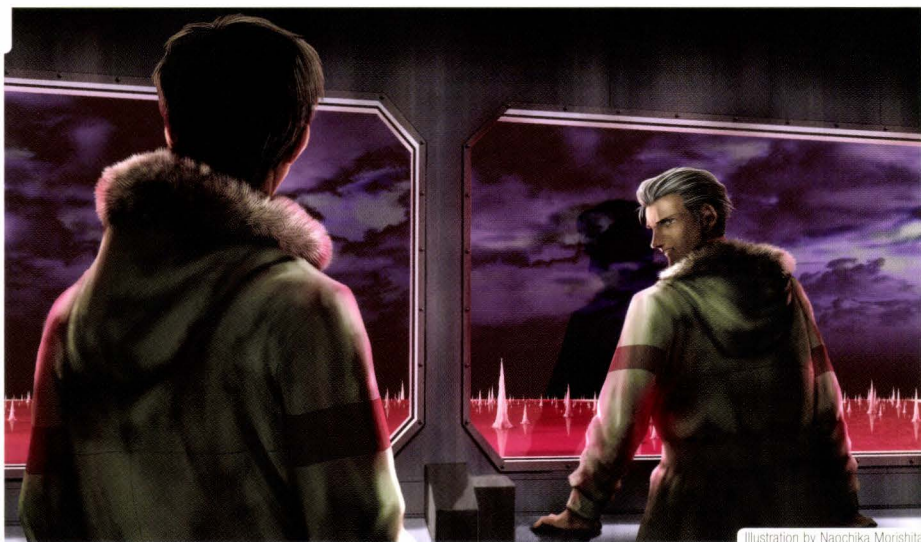



Illustration by Naochika Morishita

セカンドインパクトに関係する二隊の南極調査隊

西暦2000年。S^2理論の提唱者である葛城博士を長とした調査隊は、南極で発見された巨人とS^2機関の研究を行っていたが、何らかの要因でセカンドインパクトが発生。それから2年後に国連は調査隊を派遣。そこで得られた事実は隠蔽された。

セカンドインパクト発生時の国連南極基地の様子を収めた映像。状況を中継していた記録映像と思われる極秘資料である。

2002年に行われた国連のセカンドインパクト調査には、何者かの推薦により冬月が外部のエキスパートとして参加していた。

葛城調査隊

国連の協力を得てS^2機関の研究と実験を目的に結成され、南極へ派遣された。その実体は未知の巨人とその活動源＝S^2機関の解明であったと目されており、その実験中の事故がセカンドインパクト発生の真実であるらしい。

▶関連人物

S^2理論の提唱者である葛城博士は、なぜか一人娘も帯同させている。またゼーレの人間も同行していたが、彼らはセカンドインパクト前日に帰国。

葛城博士

葛城ミサト

六分儀ゲンドウ

キール・ローレンツ

国連セカンドインパクト調査団

2002年にセカンドインパクトの原因調査のためとして南極へ派遣された、国連の調査チーム。これには民間からの科学者もエキスパートとして参加している。だが、この調査で得られた事実は一切公開されることはなかった。

▶参加メンバー

セカンドインパクト調査隊の中核は碇ゲンドウらゼーレの人間であり、民間の人間として参加した冬月らは、事実上数合せだったようである。

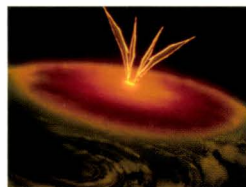
碇ゲンドウ

冬月コウゾウ

セカンドインパクト調査隊の報告として公式に発表されたのは、隕石の激突という事実と異なるものだった。

光の巨人

Illustration by Hirofumi Ichikawa

南極の地下空洞で発見された第1使徒アダムとされる巨人。活動源はS^2機関と推察され、葛城調査隊はこの巨人の研究のために結成されたようだ。なお、2015年に、復元されたという胎児状のアダムがゲンドウの手に渡っている。

セカンドインパクト発生時、南極より巨大な羽のようなものが伸びたといわれるが、アダムとの関連性は明らかにされてはいない。

▼ベークライトで固められたアダムとされる存在

02 セカンドインパクト② 技術 TECHNOLOGY

当時の記録映像から光の巨人が関係していることは間違いない。しかしそれらの情報は公にはされず、真実は一部の人間が知るのみとなった。

セカンドインパクト原因は大質量隕石
毎朝新聞
国連正式発表
予測・回避不可能の惨
光速の数十%で直

国連の正式発表を伝える新聞記事。以降、一般にはセカンドインパクトの原因は、隕石衝突という天災であると信じられている。

COLUMN

南極と箱根の地下球状空間

NERV本部の置かれた地下球状空間＝ジオフロントと同様のもの、コードネーム「WHITE MOON」が、南極にも確認されていた。

南極大陸のスキャン画像。ジャイアントインパクトでできた空洞らしいとの記載がある。

03_ E計画（アダム再生計画）

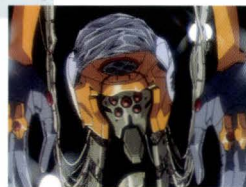
作戦 TACTICS

Illustration by Naochika Morishita

14年の歳月を賭して進められたエヴァンゲリオン建造計画

アダム再生計画、通称「E計画」とは、新たなアダムを人類の叡智により造り出そうという一大プロジェクトである。言うなれば人間の技術でアダムをコピーする計画である。その頭文字はエヴァンゲリオンのEに由来するとされ、人型決戦兵器である人造人間エヴァンゲリオンの開発を指すものといっても差し支えない。その研究開発には、14年の歳月と膨大なリソースが投入されている。

南極で発見された光の巨人アダム。EVAの外見がこの巨人と相似しているというのは、ある意味で自明の理であったともいえよう。

E計画初期に造られたEVAの頭部。その後実用化された零号機と酷似しており、その基本構造は早くに完成していたと考えられる。

実験中に発生した事故

E計画を推進し実行していたのは、調査組織ゲヒルンである。だが、EVAの起動には精神的な接触を要するため、その被験者が必要であった。勢いゲヒルンに所属する科学者が接触実験の被験者とならざるを得ず、実験中に優秀かつ貴重な命が失われるケースもしばしばあったようである。

神経接続によるEVAの起動には、精神汚染のリスクが付きまとう。これはEVAが一応の完成を見た2015年現在も同様である。

碇ユイの消失

2004年、日本の人工進化研究所にて行われたEVAの実験において、碇ユイが被験者となる。だがイレギュラーな事故で彼女は肉体ごと消失してしまう。

惣流・キョウコ・ツェッペリンの精神障害

2005年、ゲヒルンドイツ支部にて行われた接触実験には、同支部の惣流・キョウコ・ツェッペリンが臨むが、精神汚染により重度の精神障害を負う。

E計画により生み出されたEVA

EVAの建造は日本のNERV本部がもっとも先行していた。2015年には、プロトタイプである零号機とテストタイプの初号機が既にロールアウトし、運用に向けて起動実験が行われている。また、ほぼ同時期にドイツ支部でプロダクションモデルの弐号機が完成。これに遅れて米国でも3号機と4号機が建造されたが結果的に両機とも損失。その後、急ピッチでEVA量産機が建造され、9機の量産機が完成を見た。

EVA4号機は米国第2支部で建造されたが、S^2機関搭載実験中の事故で消滅し欠番扱いとなった。なお4号機の諸元は非公開。

EVA-00 EVA零号機

プロトタイプのEVA。適格者はファーストチルドレンの綾波レイ。主に実験などで運用されていた。

戦闘用に改修され再就役した零号機は機体色も青に変更。

EVA-01 EVA初号機

テストタイプのEVA。適格者はサードチルドレンの碇シンジ。使徒と初の実戦を行ったEVAでもある。

初号機は、何度となく不可解な暴走を起している。

EVA-02 EVA弐号機

プロダクションモデルのEVA。適格者はセカンドチルドレン、惣流・アスカ・ラングレー。初の実戦用EVAである。

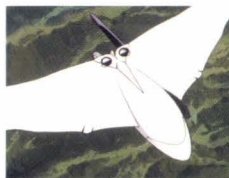
適格者とのシンクロ率が良好だった弐号機。汎用性も高い。

EVA-03 EVA3号機

プロダクションモデルのEVA。適格者はフォースチルドレン、鈴原トウジ。だが使徒に寄生され形式上は破棄。

3号機はパイロットを乗せたまま使徒にジャックされてしまった。

EVA-05-13 EVA量産機

量産モデルのEVA。適格者はなくダミープラグでコントロールされる無人機。S^2機関を動力源としている。

量産機は他のEVAにはない飛行能力も有している。

04 碇ユイ消失事件

作戦 TACTICS

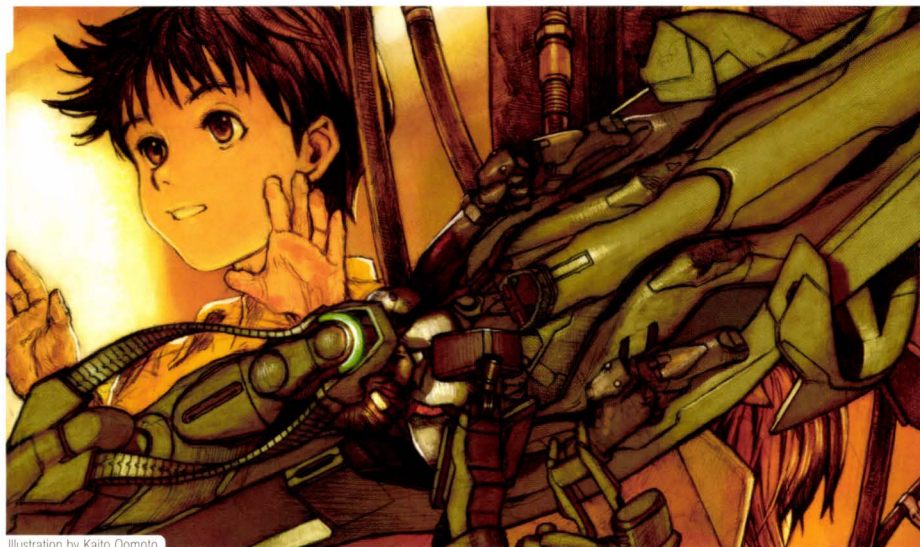



Illustration by Kaito Oomoto

EVAの接触実験がもたらした、最初の惨事

E計画の中核的存在であった日本の人工進化研究所において、2004年に行われた初号機との接触実験。これが成功すれば、EVAの実用化へ大きく前進するはずであったが、実験は失敗し被験者となった碇ユイは初号機に取り込まれ消失した。

EVAの実験には、碇ユイの実子シンジも見学していた。これは息子に「明るい未来を見せたい」という彼女たっての要望であった。

冬月は、碇ユイが被験者になることには反対だったらしい。また、ゲンドウは事件直後に1週間失踪している。

EVAに関する実験

EVAと被験者の接触実験とは、EVAの起動に必要な神経接続のテストであったようだ。碇ユイを被験者とした実験は、そのファーストケースでもあったが、被験者は肉体もろとも初号機に取り込まれる惨事を招いてしまう。

接触実験は、人工進化研究所の地下（ジオフロント内部。2015年時にはターミナルドグマとなっている）に建設された第2実験場で行われた。

▶実験の参加者

接触実験には、被験者の碇ユイをはじめ、所長（当時）のゲンドウ、冬月、赤木ナオコなど、人工進化研究所の主要メンバーが全員立ち会った。

碇ゲンドウ

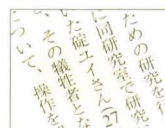
冬月コウゾウ

赤木ナオコ

碇ユイ

▶事件後の世論

極秘に進行していたはずのE計画だが、この碇ユイ消失の事件はマスコミに遺伝子操作実験の事故としてスクープされ、大々的に叩かれたようである。

ための研究を行
に同研究室で研究
た碇ユイさん(27
、その犠牲者とな
ついて、操作を

実験の事故はスキャンダラスに報道され、様々なゴシップ的な記事が乱れ飛び、憶測を呼んだようだ。

05 碇ユイ

人物 CHARACTER

京都大学出身の学生。生物工学のレポートが縁で当時の冬月と知り合うことになる。ゼーレの関係者。のちに六分儀ゲンドウと結婚し、人工進化研究所の所員としてE計画に従事していた。

冬月とハイキングに出かけるなど、アウトドアでもある女性。

06 六分儀ゲンドウ

人物 CHARACTER

ユイの恋人であり、のちに結婚し碇性となる。ユイに接近したのはゼーレ目当てという噂もあった。ゼーレに加わってからは重要人物となる。

ゲンドウは、人工進化研究所の所長を務めていた。

07 赤木ナオコ

人物 CHARACTER

人工進化研究所にて、生体コンピュータ理論の研究をしていた世界屈指の人工知能研究のエキスパート。冬月とも旧知の間柄であったようだ。

赤木ナオコは碇ゲンドウと不倫関係にあった。

COLUMN

教授時代の冬月

セカンドインパクト以前の冬月は、大学の教授だった。人付合いは積極的ではなかったようだ。

冬月が籍を置いていた、大学の形而上生物学第1研究室。

幼い碇シンジ

当時3歳だった碇シンジ。ユイの実験当日見学に訪れ事故を目撃。後の初号機も見ていたようだ。

無邪気にEVAの実験設備をながめる幼いシンジ。

08_ゲヒルン

組織 ORGANIZATION

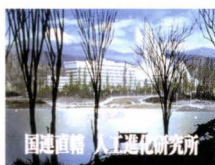
ミサトが「父の組織」と呼んでいることから、セカンドインパクト以前より存在したと見られる調査機関。主にゼーレの後援を受けて活動していた。構成員は学者が中心で、軍事・諜報関係の人材も擁しており、後のNERVの母体となった。

箱根地下に発見されたジオフロントに、後のNERV本部となる各種の施設を建設したのもゲヒルンである。

■ ゲヒルン活動年表

不明	調査機関ゲヒルン誕生
不明	人工進化研究所設立
不明	碇ゲンドウ、人工進化研究所所長に就任
A.D.2003	冬月コウゾウ、ゲヒルン入所
A.D.2004	碇ユイ、実験中に消失
A.D.2004	碇ゲンドウ、人類補完計画を立案
A.D.2005	惣流・キョウコ・ツェッペリン、接触実験で精神障害に
A.D.2005	惣流・キョウコ・ツェペリン、自殺
A.D.2008	赤木リツコ、ゲヒルン入所。E計画に配属
A.D.2008	発令所の躯体が完成
A.D.2010	スーパーコンピュータMAGIシステム完成
A.D.2010	赤木ナオコ、転落事故により死亡
A.D.2010	調査機関ゲヒルン解体。同日、特務機関NERV誕生

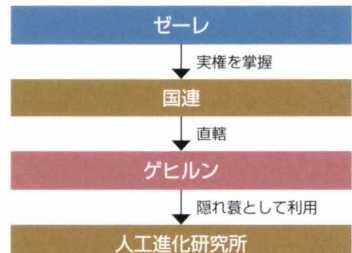
組織概要と主要な所属メンバー

国連直轄の調査組織であるゲヒルンだが、実質的にはその実権を掌握しているゼーレ直属の機関といっても過言ではない。人工進化研究所は国連直轄であったが、その実体はゲヒルンの研究拠点であり、いわば隠れ蓑であった。

ゲヒルン本部の隠れ蓑である人工進化研究所。箱根に研究所が建設されたのは偶然ではなく、ジオフロントがあったため。

▶ 組織関係図

ゼーレ
↓ 実権を掌握
国連
↓ 直轄
ゲヒルン
↓ 隠れ蓑として利用
人工進化研究所

■ 所属メンバー

所長
碇ゲンドウ

遺伝子工学者
碇ユイ

生体コンピュータの権威
赤木ナオコ

形而上生物学の元教授
冬月コウゾウ

E計画所属
赤木リツコ

ドイツ第3支部所属
葛城ミサト

ゲヒルンの研究事項

ゲヒルンの目的は、来るべき使徒の襲来に備えて、それに対向しうるだけの技術や設備等の開発にある。また人類補完計画の遂行もその重要案件であったといわれている。

■ 生体コンピュータの開発

赤木ナオコ博士の理論を元に、生体部品を利用した人格移植OSによるコンピュータの研究が行われていた。すなわち第七世代有機コンピュータとも呼ばれる人工知能である。

人格移植OSの第1号機となったスーパーコンピュータMAGIシステムには、赤木ナオコの3つの人格が移植されている。

■ 三大計画の推進

「人類補完」という命題の元にリンクする三つのプロジェクト——E計画、アダム計画、人類補完計画。ゲヒルンにとってこれらの計画遂行は最優先事項だった。

冬月に人類補完計画を開始すると告げたゲンドウは、「誰もがなし得なかった神への道」とも語った。

05_幼い綾波レイ

人物 CHARACTER

2010年、碇ゲンドウが「知人の子」と称して人工進化研究所へ連れてきた少女。だがレイに関する過去のデータはすべて抹消済み。ナオコは「あんたなんか死んでも代わりはいる」と呟いていた。

無表情のレイ。赤木ナオコは、綾波レイにユイの面影を見る。

REI AYANAMI

COLUMN 学生時代のミサトとリツコ

後にNERV本部の上級スタッフとなるミサトとリツコは、大学時代からの友人である。リツコは、学生時代に髪を金髪に染めたようだ。

COLUMN セカンドインパクト当時のキール

キール議長はセカンドインパクト以前からゼーレの主要メンバーであり、セカンドインパクトに関連する情報操作にも深く関与していた。

第弐拾弐話 せめて、人間らしく

SCENE/CHECK POINT

1 アスカ、日本へ向かう空母で加持に言い寄る
▼
2 アスカ、過去を回想
▼
3 アスカ、シンクロ率が下降
▼
4 日向、EVAの量産開始をミサトに報告
▼
5 アスカ、駅のホームでシンジとレイを見かける
▼
6 アスカ、継母と国際電話で話す
▼
7 アスカ、入浴時に感情が爆発
▼
8 アスカ、シンクロ率がさらに下降
▼
9 ミサト、シンジ、アスカとの共同生活に限界を感じる
▼
10 アスカ、レイと衝突
▼
11 ケンスケとヒカリ、EVAパイロットたちを思う
▼
12 弐号機、修復完了
▼
13 **使徒**、衛星軌道上に出現 ▸▸ 02 P.072
▼
14 アスカ、独断で**使徒迎撃**の先鋒を務める ▸▸ 01 P.072
▼
15 使徒、アスカに精神攻撃
▼
16 零号機、使徒迎撃に失敗
▼
17 アスカの心が暴かれ、弐号機は活動停止
▼
18 ゲンドウ、**ロンギヌスの槍**の使用を許可 ▸▸ 03 P.072
▼
19 使徒、殲滅
▼
第弐拾参話へ

ハーモニクステストの最中、アスカは日本へくる途上での加持との会話や、幼い頃のことを思い出す。それは自分がいかにオトナでありたいかを示す記憶でもあった。テスト結果は最悪で、生理とも重なりアスカのいらだちは頂点に達する。彼女は周囲の人々、何より自分自身に激しい嫌悪を抱く。そんなとき、ドイツにいるアスカの継母から電話がきた。ふたりの会話に親子の繋がりを感じるシンジ。そして、第14使徒戦で大破した零号機と弐号機の修復が完了した矢先、新たな使徒が現れる。零号機のバックアップを命じられたことに屈辱を覚えたアスカは独断で先行、ミサトはラストチャンスとして先鋒を任せる。しかし衛星軌道上の使徒に射撃は届かず、使徒は精神攻撃でアスカの心をズタズタにしてゆく。攻撃の届かぬ相手に、ゲンドウはロンギヌスの槍による殲滅を決断する。零号機は地下の巨人に刺されていた槍を回収し、投擲。槍は容易く使徒を貫く。作戦は終了したが、心を暴かれ、嫌っていたレイに助けられたアスカは、ただ悔し涙を流すのみであった。

STAFF LIST

第弐拾弐話（初回放映日：96.2.28）

脚　　本：山口宏、庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉
演　　出：高村　彰
作画監督：花畑まう

せめて、人間らしく
第弐拾弐話

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:22
Don't Be.

COLUMN

第拾六話のハーモニクステスト以来、アスカの中に芽生えていたシンジへの対抗心と、そこから生まれる孤立感が一気に噴出する。アスカの実母の精神障害は劇中では具体的に語られないが、EVAの接触実験による精神汚染の結果という設定だ。また、エレベータ内でレイが「EVAにも心はある」と話すが、アスカがその意味を理解するのは劇場版でのこととなる。なお、日向がミサトに伝えた13号機までのEVAとは、もちろん劇場版に登場する量産機のことである。

SCENE 1

数ヶ月前のこと。日本に向かう空母の船上で加持に迫るアスカ。だが子供扱いされるだけだった。

SCENE 2

幼い頃。EVA関連の事故でアスカを忘れてしまった実母の死が、彼女の自立した生き方を決めた。

SCENE 3

度重なる敗北とシンジに負けた屈辱感からか、アスカの心は揺れ動きシンクロ率は低下していた。

いいの。私は泣かない。私は自分で考えるの

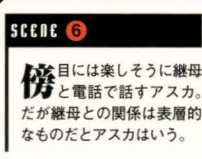
SCENE 4

日向からEVA量産計画の情報を聞いたミサトは、これまで以上にきな臭さを感じるのであった。

SCENE 5

レイと話すシンジを偶然見かけたアスカ。彼の楽しげな様子を見てアスカに黒い感情が沸き上がる。

SCENE 6

傍目には楽しそうに継母と電話で話すアスカ。だが継母との関係は表層的なものだとアスカはいう。

EPISODE 22 Don't Be.

SCENE 7

もはや他人を否定することでしか自尊心を保てないアスカ。そして、そんな自分にも耐えられない。

でも自分がいちばんイヤ!!

パパもイヤ! ママもイヤ!

SCENE 8

さらに低下するアスカのシンクロ率を見て、リツコは弐号機のパイロット変更も視野に入れ始める。

SCENE 9

共同生活の破綻を感じるミサトに軽口で返すリツコ。だが今のミサトには皮肉にしか聞こえない。

SCENE 10

偶然レイと居合わせたアスカ。EVAには心があるというレイの助言に、アスカは「人形」となじる。

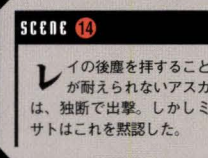
SCENE 11

レイだけでなく、アスカやシンジも学校にこない。ケンスケとヒカリはEVAパイロットを心配する。

SCENE 12

弐号機の修復がようやく完了。つい弐号機に語りかけてしまうことに、アスカは自嘲するのだった。

SCENE 13

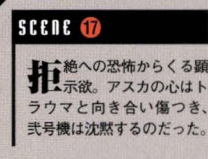
衛星軌道に第15使徒が出現。降下してくる気配はなく、ミサトは零号機による狙撃作戦を考える。

SCENE 14

レイの後塵を拝することが耐えられないアスカは、独断で出撃。しかしミサトはこれを黙認した。

SCENE 15

射撃を窺う弐号機に使徒の可視光線が放たれる。その光は使徒の精神攻撃でありアスカは悶絶する。

SCENE 16

大出力ポジトロンライフル改で狙撃を行う零号機。だが使徒にダメージを与えることはできない。

SCENE 17

拒絶への恐怖からくる顕示欲。アスカの心はトラウマと向き合い傷つき、弐号機は沈黙するのだった。

何であんたがそこにいるのよ! 何もしない! 私を助けてくれない! 抱きしめてもくれないくせに!

SCENE 18 19

ゲンドウの指示によりロンギヌスの槍で使徒は消滅。泣くアスカにシンジは語る言葉を持たない。

01 第15使徒アラエル戦

作戦 TACTICS

Illustration by Naochika Morishita

衛星軌道上の使徒との戦いと、ロンギヌスの槍の投入

衛星軌道上に出現した第15使徒に対し、空戦能力を持たないEVAは不利であった。葛城三佐は超長距離射撃による攻撃を決定。だが通常の装備では目標を捉えられず、先行して出撃した弐号機が精神攻撃を受け戦闘不能となるなど、窮地に立たされる。碇司令はロンギヌスの槍の使用を決断。槍は零号機に投擲され使徒を殲滅した。

第15使徒戦当時、初号機は別命あるまで凍結とされていた。初号機パイロットは弐号機の援護を志願したが、却下されている。

可視波長のエネルギー波によりEVAパイロットへ精神攻撃を行う使徒。リツコはヒトの心を探っているようにも見えると評した。

■ 第15使徒戦における超長距離射撃

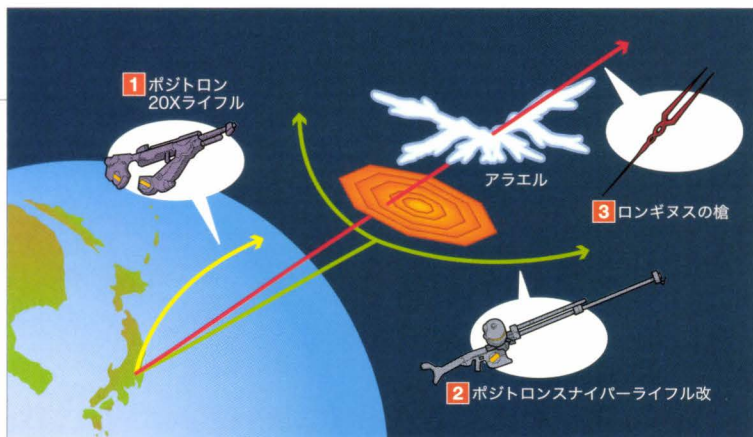
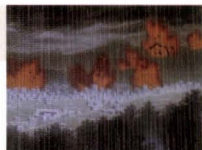



Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

1 ポジトロン20Xライフル【弐号機】

先行して出撃した弐号機は、連射可能なポジトロン20Xライフルで目標を狙うが、衛星軌道上の使徒には届かず、逆に精神攻撃を浴びる。

精神攻撃で錯乱していたため市街地に全弾誤射する。

2 ポジトロンスナイパーライフル改【零号機（改）】

バックアップの零号機がポジトロンスナイパーライフル改にて狙撃を敢行。着弾するが出力不足で敵のA.T.フィールドを貫通できず。

陽電子の着弾には成功するが出力が足りず効果はない。

3 ロンギヌスの槍【零号機（改）】

通常兵器では殲滅不可能と判断した碇司令の指示で、零号機はターミナルドグマよりロンギヌスの槍を持ち出し投擲。使徒は撃破された。

ロンギヌスの槍は衛星軌道上の目標を瞬時に貫く。

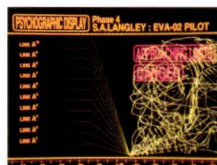
02 第15使徒アラエル

使徒 ANGEL

DATA
- 呼称：第15使徒
- 天使名：アラエル
- 象徴：鳥
- 能力：可視波長のエネルギー波

ARIEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

衛星軌道上に出現した使徒。他の使徒とは異なり、第3新東京市へと降下はせず、大気圏外に留まり続けた。可視波長のエネルギー波を照射し、EVAパイロットの精神に干渉する精神攻撃を行う。なお物理的な方法での攻撃は確認されていない。

A.T.フィールドに近い可視波長のエネルギー波。精神攻撃を浴びた弐号機パイロットの心理グラフは完全に変調をきたした。

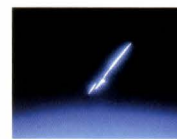
▶ 第15使徒戦で用いたEVAの武器

衛星軌道上から位置を変えない第15使徒。長々距離射撃による攻撃を試みるも、EVAの通常兵器では飛距離、威力ともに不足していた。

■ **ポジトロン20Xライフル**

カートリッジ式で連射が可能。質量センサーによる精密射撃もできる。弐号機が装備し、先制攻撃に使用。

■ **ポジトロンスナイパーライフル改**

大出力かつ長距離狙撃に適した装備であるが、発射に時間がかかるなど弱点もある。零号機が使用。

■ **ロンギヌスの槍**

南極にて回収された槍状物体。使徒を撃破したのち月軌道まで達して回収不能となる。零号機が投擲。

03 ロンギヌスの槍

兵器 EVANGELION

第15使徒殲滅に用いられたロンギヌスの槍。瞬時に大気圏を突破する加速力や、目標のA.T.フィールドを貫く際の自己変形機能など、対A.T.フィールド用ともいえる力を発揮した。意図は不明だが、地下の巨人の体に突き刺して保管されていた。

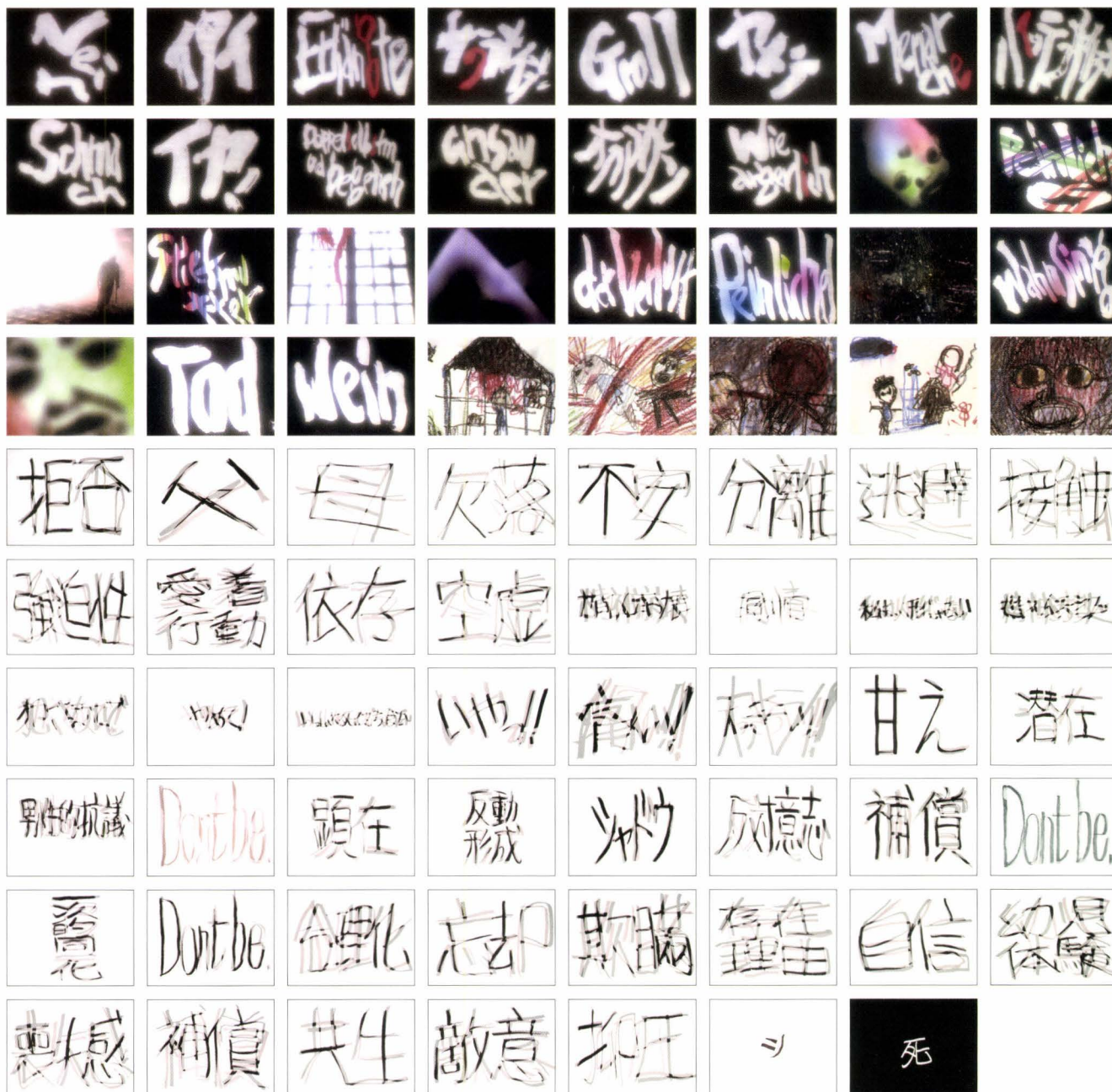
■ A.T.フィールド突破のプロセス

▶ アスカの内的世界

拒絶的・否定的な語彙が多い。Nein（否定）とTod（死）の意が多く、ほかのドイツ語はErhangete（首吊り自殺した）tiefutter（継母）、Groll（憎悪）、Schmach（屈辱）、Doppelselbstmord begehem（二重自殺）、Peinlichen（苦しみ）、unsauber（不潔な）、Wie argerlich（どうして怒るの?）、der Verlust（喪失）など。

■ シンジに対する意識

第九話で「ジェリコの壁」を言い渡した直後と、第拾伍話でキスした直後のアスカの様子が描かれている。

■ 内的世界で見られる映像と言葉

第弐拾参話 涙

SCENE/CHECK POINT

1 ミサト、自室にこもる
▼
2 アスカ、ヒカリの部屋に居候
▼
3 リツコ、祖母から電話を受ける
▼
4 ゲンドウ、ゼーレから召喚される
▼
5 **使徒**、襲来 ▸▸ 02 P.077
▼
6 零号機、**使徒と交戦** ▸▸ 01 P.076
▼
7 レイ、内的世界で使徒と対峙
▼
8 初号機、凍結を解除されて出撃
▼
9 レイ、使徒を巻き込み自爆
▼
10 リツコ、爆心地を調査
▼
11 ゼーレ、死海文書にある使徒の記述とゲンドウの処遇を議論
▼
12 ミサト、温もりを求める
▼
13 冬月、ダミープラグ・プラントにてレイを語る
▼
14 ミサト、レイ生存の報告を受ける
▼
15 レイ、ゲンドウの眼鏡を見て涙を流す
▼
16 リツコ、ゼーレの尋問を受ける
▼
17 ミサト、加持の意志を継ぐことを決意
▼
18 リツコ、シンジとミサトを連れ**ターミナルドグマ**を案内 ▸▸ 03 P.077
▼
19 リツコ、ダミープラグの正体を明かす
▼
第弐拾四話へ

ミサトは加持への未練に囚われ、アスカはヒカリの家で自堕落な日々を過ごす。ゼーレからロンギヌスの槍の無断使用について追及されていたゲンドウに使徒出現の報告が入る。使徒は出撃した零号機に一次的接触を開始。侵食と同化により、使徒はレイの心に秘めたる淋しさを暴露、彼女は初めての涙を流す。レイの危機にアスカの弐号機はシンクロ率低下のため起動できず、ゲンドウは初号機の凍結を解除、援護に回す。しかし使徒はシンジをも侵し始めたため、レイは使徒を抑え込み自爆。その後、生存が絶望視されていたレイは無傷で生還する。一方ミサトは加持の遺志を受け継ぎ真実の探求を決意。レイの身代わりとしてゼーレの尋問を受けたリツコもまた、ある決意を固めシンジを連れセントラルドグマへ。真実を求めるミサトも友人に銃を突きつけ同行する。そこで見たものは、ダミープラグの元だという水槽に浮かぶ多数のレイだった。驚愕するミサトやシンジを尻目に、"元"を処分するリツコ。ゲンドウの裏切りに感情を爆発させた彼女は泣き崩れる。

STAFF LIST

第弐拾参話（初回放映日：96.3.6）

脚　　本：山口宏、庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明
演　　出：増尾昭一
作画監督：鈴木俊二

第弐拾参話 涙

NEON GENESIS EVANGELION EPISODE:23 Rei III

COLUMN

今回の英字サブタイトルは「ReiⅢ」。第伍話・第六話「ReiⅠ」「ReiⅡ」に続く、レイの内面とその変化を描く3度目の話の意味合いと同時に、彼女自身のセリフにもある通り「3人目のレイ」という意味とも取れる。第拾九話での「私が死んでも代わりはいるもの」というレイのセリフも、彼女がクローン体であることを自覚していたことを物語る。なお加持から送られた情報の入った小型カプセルは、第弐拾話のミサトとのベッドシーンでチラリと登場したカプセルだ。

SCENE 1

自宅でのミサトは部屋に閉じこもり、加持からのメッセージを聞き続ける虚ろな毎日を送っていた。

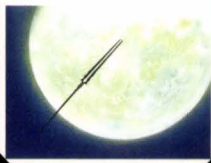
SCENE 2

ヒカリの家で一日中ゲームばかり続けるアスカ。彼女は気持ちをヒカリに吐露し嗚咽を漏らす。

SCENE 3

リツコは祖母から可愛がっていた猫がいなくなったと連絡をもらう。寿命だったとなだめるリツコ。

SCENE 4

ゲンドウの独断によるロンギヌスの槍の使用。それはゼーレにとって重大な背信行為に他ならない。

SCENE 5

使徒が襲来。パターンをオレンジから青に周期的に変化させ、大涌谷近辺の上空に滞空を続ける。

SCENE 6

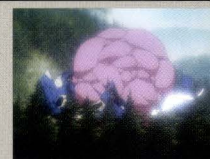
零号機を察知した使徒は先制攻撃をかけてきた。応戦する零号機だが、使徒に侵食、同化されて行く。

SCENE 7

レイの内的世界に現れるもうひとりのレイ。対話を続ける中、いつしかレイは涙を流していた。

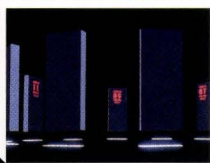
EPISODE 23 Rei Ⅲ

SCENE 8 9

援護に出た初号機にも使徒は侵食。それが自分の想いの顕れと気づくレイは、使徒とともに自爆する。

SCENE 10

零号機爆心地の調査を行ったリツコ。エントリープラグを発見するが、その処分を命じるのだった。

SCENE 11

残る使徒は1体となり補完計画の発動も近い。その前にゼーレはゲンドウへの人柱を求める。

SCENE 12

レイの死にも涙が出ないとミサトにこぼすシンジ。温もりを求めたミサトは、彼に拒否されてしまう。

SCENE 13

空のダミープラグ・プラントを一心に見つめるゲンドウ。冬月にとってレイは「絶望の産物」だという。

レイ、か……彼女は俺の絶望の産物であり、未だおまえの希望の依り代でもある

SCENE 14

レイ生存の知らせを受け、病院に行ったシンジは彼女に礼を言うが、なぜか会話がかみ合わない。

多分、私は3人目だと思うから

SCENE 15

自室に戻ったレイは、大事にしていたはずのゲンドウのメガネを握り潰そうとし、涙を流す。

SCENE 16

リツコはレイの身代わりとしてゼーレの尋問を受けさせられたと知り、ゲンドウへの復讐心を抱く。

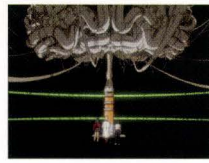
SCENE 17

加持からのメッセージ──彼の意志を継ぐ決意を固めたミサトは、NERVの真実へ迫ろうと動き出す。

SCENE 18

シンジを連れてターミナルドグマへやってきたリツコは、ミサトと出会い内部を案内する。

SCENE 19

ダミープラグの正体を知るシンジとミサト。リツコはゲンドウへの意趣返しに、レイのパーツを壊す。

ここに並ぶレイと同じものには魂がない。ただの容れ物なの。だから壊すの。憎いから

01 第16使徒アルミサエル戦

Illustration by K2 Shoukai

積極的な一次的接触により、使徒に侵食された零号機

大涌谷で滞空する第16使徒に、当時唯一戦闘可能であった零号機を出撃させるも、接近と同時に使徒に機体を侵食される。起動できない弐号機に代わり初号機が急遽凍結を解除され、援護に出撃。だが目標は初号機をも侵食。零号機パイロットは、独自の判断で機体を自爆。使徒は殲滅された。

使徒の侵食は、零号機の機体を構成する生体部品のみならず、そのパイロットの肉体と精神にも及び、さらに融合を行う。

零号機の自爆により使徒は殲滅。コアの臨界突破による爆発力は、第3新東京市市街地をクレーター湖に変貌させてしまう。

第16使徒殲滅までの経緯

1 使徒の出現

使徒は当初は円環状の形態で浮遊し移動。使徒を判別する波長パターンも不規則に変化していた。葛城三佐は零号機を発進させ様子をうかがう。

大涌谷付近の第16使徒。円環状で回転を繰り返す。

2 使徒、零号機（改）と接触

零号機に対し、使徒は紐状に形態を変化させ、その腹部装甲を貫通して接触。零号機はライフルのゼロ距離射撃で応戦するも効果無し。

使徒に腹部装甲を貫かれ、接触箇所から葉脈状腫が拡大。

3 弐号機、初号機の出撃

葛城三佐は、援護のために弐号機を出撃させるが、弐号機パイロットのシンクロ率低下が原因で起動せず。やむなく弐号機は即時回収。

地上へと送り込まれた弐号機だが起動しなかった。

4 使徒、初号機と接触

零号機の危機に碇司令は初号機の凍結を解除。出撃した初号機がA.T.フィールドを展開したとたん、使徒は初号機にも接触し侵食をはじめる。

零号機と融合しつつある使徒の一部形状はレイに似ていた。

5 使徒の殲滅

侵食される初号機を見て、零号機パイロットは独自の判断で緊急時用の自爆装置を起動。使徒を機体ごと殲滅することに成功する。

A.T.フィールドを反転させ使徒を押さえ込む零号機。

■ 第16使徒戦配置概念図

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

1 使徒通過地点【強羅付近】

強羅絶対防衛線を越えた第16使徒。その姿を、本部へ急行中の葛城三佐が目視にて確認している。

2 使徒滞空地点【大湧谷上空】

大涌谷に達した段階で、第16使徒は移動を中止。その場に滞空する。その理由はまったく不明。

3 零号機（改）【大湧谷付近】

零号機は第16使徒滞空地点付近へと接近。これは先制攻撃のためと言うよりは、偵察に近い行動。

4 弐号機出撃地点【第3新東京市内】

援護として出撃させた弐号機の発進ポイント。使徒にもっとも近接したリフトビルを使用した。

5 初号機出撃地点【第3新東京市内】

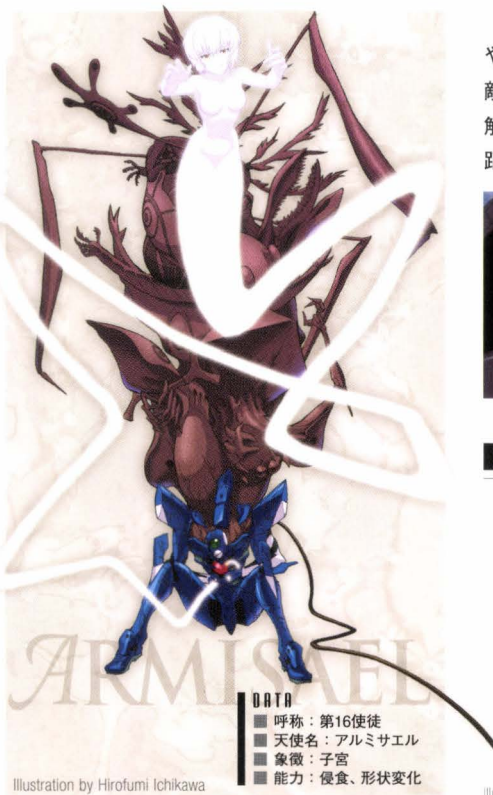
初号機の発進ポイント。道路上に設置された発進口より出撃。直後、使徒の先制攻撃を受ける。

6 零号機(改)自爆地点【大湧谷付近】

零号機が使徒から侵食を受けた地点。自爆により芦ノ湖の水が都心部へと流入してしまう。

02 第16使徒アルミサエル

使徒 ANGEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

DNAを思わせる二重螺旋構造の使徒。移動時や待機状態では円環状で定点回転を繰り返すが、敵の接近を察知すると紐状形態となり、目標に接触し侵食、融合を行う。紐状形態時は、体躯を長距離伸長させる事が可能で、動きも素早い。

第16使徒に侵される ファーストチルドレン。融合されつつある中、内的世界にて使徒との接触があったという。

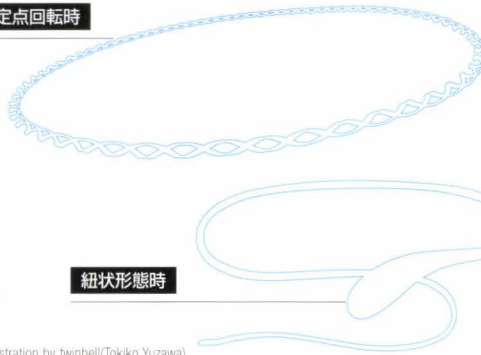
定点回転時

紐状形態時

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

▶各使徒の姿を内包した物体

侵食された零号機の素体より現出した物体。融合により使徒の遺伝子的な情報が具現化したものか。

03 NERV：ターミナルドグマ②

施設 INSTALLATION

NERV本部最下層に位置するターミナルドグマはゲヒルン時代から存在する施設群である。綾波レイに関連したセクションが多いのも特徴。

ターミナルドグマへの立ち入りは、厳重にセキュリティがかけられたエレベータを利用する。背後には六角形の窪みが見える。

等身大のシリンダーと大脳のように構成された装置が設置されたダミープラグ・プラントも、ターミナルドグマの施設。

元・地下第2実験場

ゲヒルン時代に造られたE計画の実験場。現在は一切使用されておらず、開発計画初期に制作されたEVAのプロトタイプが未完成のまま、多数放置されている。

碇ユイがEVAとの事故により消失したのもこの区画であり、サードチルドレンとは因縁浅からぬ場所といえよう。

現在の地下第2実験場は、破棄されたEVAが散乱する"EVAの墓場"といった場所。リツコはゴミ捨て場と呼んだ。

人工進化研究所 3号分室

室内に残された設備から、一種の医療関連施設を思わせる区画だが、実際はファーストチルドレン=綾波レイ養育用として設けられたものらしい。その名称から、ゲヒルン時代から存在した施設であることがうかがえる。

綾波レイの自室は、この場所に似た雰囲気で選ばれたようだ。なお、壁や床には数字や物理学用語が書き殴られている。

▶ レイの生まれ育った部屋

ダミープラグ・プラント

ダミープラグ・プラントは、NERVの最高機密にして最重要施設の一つである。部屋の周囲はL.C.L.と推察される溶液で満たされた水槽が設置され、そこでダミープラグ用のコアとなるクローン体が密かに培養されている。

ダミープラグ・プラントの水槽で培養されているクローン体。その姿は綾波レイのもので、「レイのためのパーツ」とリツコはいう。

第弐拾四話 最後のシ者

SCENE/CHECK POINT

1 アスカ、過去を回想
▼
2 失踪中のアスカ、NERV諜報部に保護される
▼
3 シンジ、レイとユイのことを考える
▼
4 ゲンドウ、リツコを尋問
▼
5 シンジ、カヲルと出会う ▸▸ 04 P.081
▼
6 フィフスチルドレン、NERV本部に着任しシンクロテストに参加 ▸▸ 04 P.081
▼
7 カヲル、レイと接触
▼
8 シンジ、カヲルと入浴
▼
9 ゼーレ、NERVの処置を検討
▼
10 ゲンドウ、初号機に語りかける
▼
11 レイ、自問自答を繰り返す
▼
12 ミサト、ペンペンに別れを告げる
▼
13 シンジ、カヲルの部屋に泊まる
▼
14 カヲル、ゼーレと密会
▼
15 ミサト、カヲルの正体を探る
▼
16 カヲル、使徒として行動開始 ▸▸ 03 P.081
▼
17 シンジ、カヲルを追撃 ▸▸ 01 P.080
▼
18 カヲル、ターミナルドグマで巨人の正体に気づく ▸▸ 02 P.080
▼
19 シンジ、使徒を殲滅
▼
第弐拾伍話へ

自信を失い失踪した末、廃人同然で発見されたアスカ。その頃、人恋しくなり、廃墟を彷徨うシンジに歌が聞こえてくる。歌の主、渚カヲルにシンジは親しみを持つ。フィフスチルドレンであったカヲルは、シンクロ率を自在に設定できるという能力を持っていた。あり得ない力に不信を抱くミサトは彼の正体を探る。そのカヲルはレイと接触。レイは彼に自分と同じものを感じ取った。一方、ともに入浴し、カヲルの部屋に泊めてもらったシンジは、彼に好意を伝えられる。翌朝、カヲルの正体が掴めないミサトは、危険を侵し監禁中のリツコに面会。リツコはカヲルが「最後の使者」だと答えた。その推察通りカヲルは使徒であり、弐号機を操りターミナルドグマへと侵攻する。その事実に愕然とするシンジ。アダムへと辿り着くカヲルだが、それがリリスであると看破。直後、現れた初号機に自ら捕らわれ死を望む。シンジは躊躇しつつも彼の願いを叶える。カヲルこそ生き残るべきだったと言うシンジに、生きる意志のないものにその資格はないと、ミサトは答えるのだった。

STAFF LIST

第弐拾四話（初回放映日：96.3.13）

脚　　本：薩川昭夫、庵野秀明
絵コンテ：摩砂雪、庵野秀明
演　　出：摩砂雪
作画監督：摩砂雪

最後のシ者

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:24
The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"

COLUMN

オープニング映像にも、ほんの一瞬だけ姿を見せていた謎の少年、渚カヲルがついに登場する。カヲルは企画書のシリーズ構成案の時点で、シリーズ終盤に登場する少年の姿をした使徒であるとされており、初期の段階から重要なキャラクターとして位置づけられていたことが判る。シンジとカヲルが枕を並べて会話するシーンがあるが、第拾八話での加持の隣で床に就いた時とは異なり、カヲルの顔を見てシンジは会話をしている。それだけカヲルに心を開いていたのであろう。

SCENE 1

幼い頃に実母を自殺で失ったアスカにとって、慕っていた加持の死は、受け入れがたいものがあった。

SCENE 2

EVAとシンクロできなくなった結果アイデンティティを失い失踪したアスカは、廃人同然で発見される。

SCENE 3

レイの真実に愕然としつつも、シンジは彼女と母ユイに繋がりがあることを直感的に確信していた。

SCENE 4

ダミーシステムを破壊し監禁されるリツコ。尋問するゲンドウは、「失望した」と彼女を切り捨てる。

SCENE 5

廃墟と化した第3新東京市に立つシンジ。聞こえてくるハミング。それがカヲルとの出会いだった。

歌は心を潤してくれる。リリンの生み出した文化の極みだよ

SCENE 6

フィフスチルドレンとして委員会から送り込まれてきたカヲルは、驚異的なシンクロ率を見せる。

EPISODE 24 The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"

SCENE 7

テストを終えたカヲルはレイに不可解な言葉を投げかける。その彼の正体はMAGIにすら掴めない。

SCENE 8

カヲルに惹かれるシンジ。大浴場での入浴時、シンジに対し「好意に値する」とカヲルは口にした。

そう、好意に値するよ

SCENE 9

ゲンドウの背任に対して、ゼーレはNERVとEVAを彼らが望む、本来の形に戻すべきと決断する。

SCENE 10

初号機に語りかけるゲンドウは、愛する妻の名を口にする。その右手には奇怪な物体があった。

SCENE 11

なぜここにいて、誰のために生きているのか？疑問を独りごちるレイ。だが答えは出ない。

SCENE 12

ミサトはペンペンをヒカリの家で預かってもらうことに。穏やかな日々は既に終わりを告げていた。

SCENE 13

シンジはカヲルの部屋に泊めてもらう。自分でも驚くほど積極的にカヲルと会話をするシンジ。

僕は君に会うために、生まれてきたのかも知れない

SCENE 14

カヲルはゼーレと接触していた。彼はある目的のためにゼーレが送り込んできたのであった。

SCENE 15

カヲルのテスト結果を日向から聞き驚くミサト。カヲルはEVAと自在にシンクロできるという。

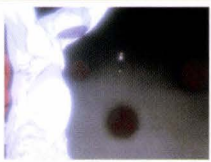
SCENE 16

カヲルの正体は最後の使徒であった。彼は弐号機を引き連れターミナルドグマのアダムへと向かう。

SCENE 17

カヲルが使徒と知りショックを受けるシンジ。だが殲滅命令が下り、シンジは初号機でカヲルを追う。

SCENE 18 19

巨人をリリスと看破したカヲル。彼は死を望み、最後をシンジに委ねる。そして最後の使徒は消えた。

さあ、僕を消してくれ

01 第17使徒タブリス戦

Illustration by K2 Shoukai

“最後の使者”たる、ヒトの姿をした使徒の出現

EVA適格者という形で姿を現した第17使徒は、弐号機を遠隔操作にて奪取。ターミナルドグマへの侵攻を開始した。これに対し初号機が速やかに追撃。メインシャフト内で弐号機と邂逅し交戦状態となる。その間にも使徒は地下のアダムへと接近するが、間一髪のところで初号機が追いつき、使徒を捕える。そして最後の使徒を殲滅した。

フィフスチルドレンとして現れた第17使徒は、NERV着任前にサードチルドレンと接触。それが意図的なものだったのかは不明である。

遠隔操作で第17使徒に操られ、初号機と格闘戦を演じる弐号機。だが第17使徒自身が初号機に直接攻撃を仕掛けた形跡はない。

フィフスチルドレンとしての行動

適格者としてNERV本部に着任した第17使徒は、他のEVAパイロット(ファーストチルドレンとサードチルドレン)と積極的に接触し、会話を交わしている。その真意は不明だが、特にサードチルドレンと行動をともにしていた。なお、第17使徒は人間のことを「リリン」と呼んだが、これは人間がリリスを起源としていることを意味すると思われる。

フィフスチルドレンとしてNERV本部へ現れた第17使徒は、完全に使徒としての正体を隠し、ハーモニクステストを受けている。

サードチルドレンとの接触

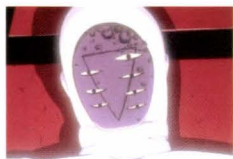
第17使徒はサードチルドレンとより積極的に接触を重ねている。とくに銭湯では一次的接触を持ち、サードチルドレンに対し好意を表明している。

ファーストチルドレンとの接触

ファーストチルドレンに対して「お互いに、この星で生きていく身体はリリンと同じ形に落ち着いたか」と、自分と同種であるかのように語りかけている。

02 リリス①

使徒
ANGEL

これまでターミナルドグマ内の白い巨人はアダムとされてきたが、第17使徒によりリリスであると看破された。

白い巨人の正体は、第17使徒も直接見るまではわからなかった。

▲リリス

COLUMN
ファーストチルドレンのA.T.フィールド展開

第17使徒のA.T.フィールドに干渉したファーストチルドレン綾波レイ。その能力は使徒と同等と言えた。

ファーストチルドレンは強力なA.T.フィールドを展開した。 ▲綾波レイ

使徒としての行動

■ セントラルドグマでの降下戦闘経緯

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

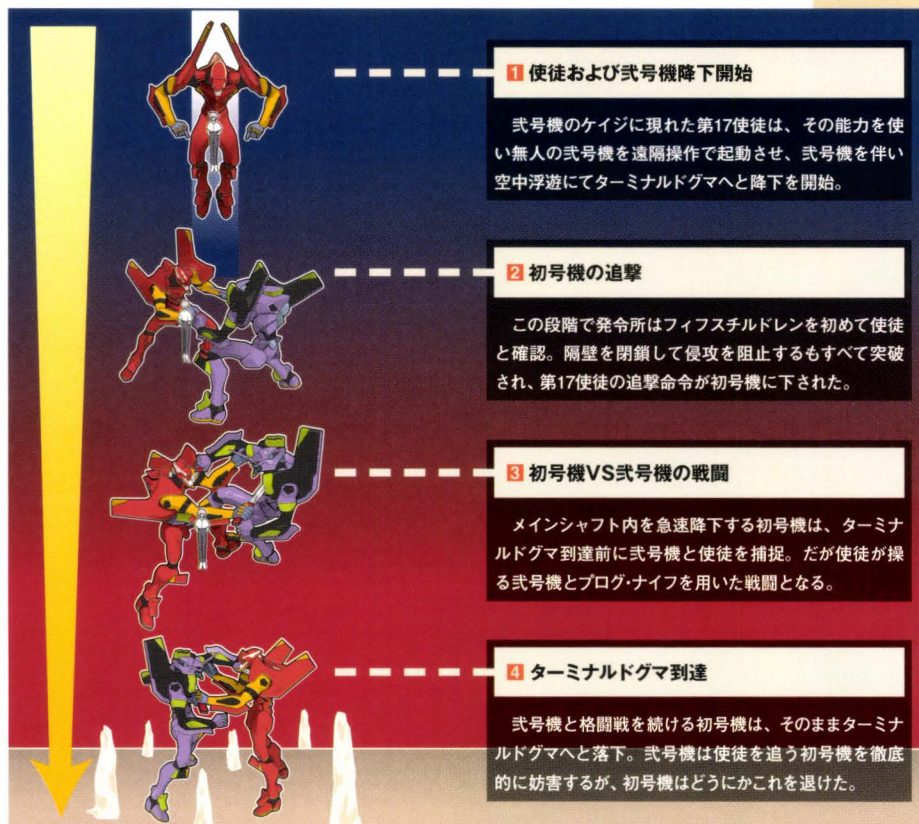
第弐拾四話

エピソードガイド&チェックポイント

03_ 第17使徒タブリス

使徒 ANGEL

DATA
- 第17使徒
- 天使名：タブリス
- 象徴：自由意志
- 能力：EVAとの同化

Illustration by Hirofumi Ichikawa

少年の姿を持つ使徒であり、裏死海文書に記された最後の使徒とされる。使徒としての反応を抑えての行動が可能で、人間と同じように振る舞えるためか、NERV側はダブリスが侵攻を開始するまでその正体に気づかなかった。

ダブリスはEVAと自在にシンクロ可能という能力を使い、弐号機を遠隔操作してターミナルドグマ侵攻の手駒とする。

上半身

顔

アダムの魂を持つ存在

ダブリスは、委員会（ゼーレ）が送り込んできた使徒であった。その肉体に宿していた魂は、サルベージされたアダムの魂そのものであったという説もある。

ゼーレとの会話から、アダムの魂はカヲルの中に宿されていることが明かされ、彼がゼーレの手で生み出された使徒だと分かる。

▶ アダムの肉体の行方

第6使徒戦直後にNERV本部へ持ち込まれた、復元されたアダムの肉体。だが、いつ碇ゲンドウの右掌に移植されていたのかは不明である。

復元され硬化ベークライトで固められたアダム。加持により碇ゲンドウの元へ運ばれている。

アダムの肉体は碇ゲンドウの右掌に移植。彼の手袋はこれを隠蔽する目的もあったと見るべきだろう

04_ フィフスチルドレン：渚カヲル

人物 CHARACTER

戦線離脱したセカンドチルドレンの、いわば交代要員として着任。マルドゥック機関を介さずに人類補完委員会から直接送り込まれた。フランクな性格のようでいて、超然とした雰囲気も持つ。

コアの書き換え無しでも弐号機とシンクロし、かつ自在にシンクロ率を設定できるという能力を見せた。

インナー

プラグスーツ

▶ 渚カヲルの部屋

COLUMN 第17使徒殲滅より18ヶ月前の出来事

第3使徒の襲来以前、第2新東京市第三中学校講堂内に4人の少年少女が集い、パッヘルベルのカノンを演奏した。その姿は、後に世界の命運をかけて戦う4人の適格者達に良く似ていた。

「碇」と呼ばれた少年はチェロ、寡黙な少女はビオラ、陽気な少女と最後にやってきた少年はバイオリンを担当した。

第弐拾伍話 終わる世界

SCENE/CHECK POINT

1 シンジ、カヲルを殺したことに苦悩する
▼
2 シンジ、EVAに乗る理由を考える
▼
3 第2のキャラクター 惣流・アスカ・ラングレーの場合
▼
4 第3のキャラクター 綾波レイの場合
▼
5 人々の補完がはじまる …… ▸▸ 01 P.086
▼
6 葛城ミサトの心の補完
▼
7 惣流・アスカ・ラングレーの心の補完
▼
8 シンジ、自らが望んだ世界を突きつけられる
▼
最終話へ

最後の使徒は自ら死を願い、殲滅された。だがシンジは苦悩していた。ヒトの姿をした使徒カヲルを殺したことが、シンジの心を激しく揺さぶる。だが、それでも彼は他人のために殺したのだと自らに言い聞かせる。その思考はネガティブな方向へと向かってゆく。それを鼻で笑うシンジの心の中のアスカ。だが彼女も常に不安を抱いて生きてきた。他人に依存しないと言いつつも、他人から認めてもらえなくなることへの恐怖。一方、レイはかつて無へと還ることを願っていたが、自我の芽生えた今はそれを恐れていた。斯くして人類補完計画が発動した。人々の心は溶け合い、誰しもが持つ心の欠落を互いに補い合ってゆく。それを馴れ合いと否定するミサト。だが、彼女も愛する男と馴れ合うことで心の渇きを満たしていたに過ぎない。――それぞれが心の奥底に隠してきた弱さや醜さが暴かれ、自分を嫌悪し他人を拒絶する。そんな絶望が支配した世界。それがシンジの望んだ世界なのか? だがこれも一つの終局の形であった。そして補完への道は続く。

STAFF LIST

第弐拾伍話（初回放映日：96.3.20）

脚　　本：庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉、庵野秀明
演　　出：鶴巻和哉
作画監督：本田雄

第弐拾伍話
終わる世界

NEON GENESIS EVANGELION
EPISODE:25
Do you love me?

COLUMN

TV放映の後に製作された劇場版『Air/まごころを君に』が、人類補完計画を"外側"から描いたものとすれば、今回と最終話は登場人物の心の世界=インナースペース側から描いたものと捉えることもできるだろう。射殺されたとおぼしきミサトやリツコのカットなどの真相については『Air/まごころを君に』で描かれることになる。また学校の体育館か講堂を連想させる背景等を使った舞台劇的な見せ方は、その後の総集編劇場版『シト新生』にも引き継がれている。

SCENE 1

カヲルを手にかけたことに苦しむシンジ。苛まれる心はやがて恐怖の源、父の存在に行き着く。

存在理由、レゾンデートル

碇シンジ、彼の場合

お願いだから
誰か助けてよおっ!!

SCENE 2

誰もいない世界。シンジがEVAに乗るのは自分のためだという彼の心のアスカ。それは彼女も同じ。

あんなの、他の人のためにエヴァに乗るのか?

EPISODE 25 Do you love me?

SCENE 3

湖底に沈む弐号機。アスカは他人に求められるためにEVAに乗るのだと、心の中のレイが指摘する。

惣流・アスカ・ラングレー、彼女の場合

分離不安

愛着行動

SCENE 4

自己について議論する3人のレイ。望んでいたはずの虚無に恐怖しはじめた彼女の前にゲンドウが。

綾波レイ、彼女の場合

「それが、絆？」

「怖いでしょ？」

レイ

さあ、行こう。今日、この日の為に、おまえはいたのだ。

人類の補完が始まる

SCENE 5

人類の補完がはじまった。心をひとつにまとめ、お互いの喪失を補填し合い安らぎを得るという。

SCENE 6

補完を馴れ合いだと否定したミサト。だが彼女もまた安らぎを望んでおり、男に逃避していたのだ。

葛城ミサトの場合 (PART 1)

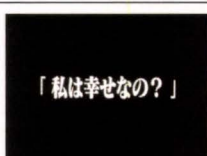
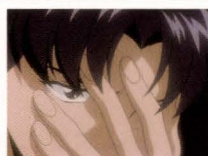
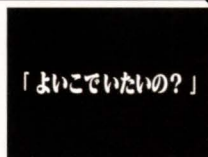
「よいこでいたいの？」

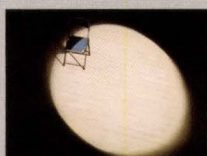
「私は幸せなの？」

SCENE 7

語られるアスカの過去。ひとりで生きると決めたアスカ。だが彼女の本心は孤独を恐れていた。

惣流・アスカ・ラングレーの場合 (PART 1)

独りはイヤァァァァァァアッ!!

SCENE 8

シンジが望んだという誰も救われない世界。閉塞した自分だけの世界がシンジに突きつけられる。

あなた自身が導いた、この世界の終わりなのよ

最終話 世界の中心でアイを叫んだけもの

西暦2016年。人類補完計画により、人々の心の補完は続いていた。それは碇シンジの心も同様であり、彼は心の奥底に隠れた"欠損"を見つめ補おうとする。即ち、自分自身の価値、存在意義——EVAに乗る理由についての問いかけを心の中の自分に、親しい人々に続けてゆく。人々や自分が、自分を嫌う理由。そうならないためのEVA。そんな閉塞した世界が自分の真実なのか？ 自分という真実を見つけ出そうとするシンジは知る。自分自身が望む現実が真実なのであると。自分自身を嫌う世界は、自分を受け入れてもらえない世界になってしまうと。そうでない別の可能性の現実もあり得るのだと。……幼なじみの明日香と他愛ない口げんかをし、美少女転校生のレイとラブコメの王道のような出会いをし、美人のミサト先生にトウジやケンスケと一緒にドキドキする……そんな賑やかで楽しい世界。そう、自分自身が望めば可能性は広がり世界も変わる。そしてシンジは願った。ここにいたいと——。その時シンジの世界は開け、人々は彼を祝福した。「おめでとう」と。

STAFF LIST

最終話（初回放映日：96.3.27）

脚　本：庵野秀明
絵コンテ：摩砂雪、鶴巻和哉、庵野秀明
演　出：摩砂雪、鶴巻和哉

最終話
世界の中心でアイを叫んだけもの

NEON GENESIS EVANGELION
FINALE:
Take care of yourself.

COLUMN

第弐拾伍話と同様に、心の内側に焦点をしぼったエピソード。ラストに「母に、さようなら」というテロップがあるが、これは劇場版において、ユイの魂を宿していると考えられる初号機が、地球を離れていくシーンを意味しているとも考えられる。ちなみにこの最終話も第26話（劇場版後半）も、サブタイトルは有名なSF小説の邦題にちなんだもので、企画書でも最終回のサブタイトルは同様にSF小説の題名「たったひとつの冴えたやりかた」からつけられていた。

SCENE 1

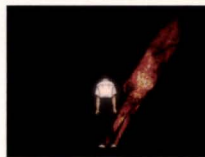
人類の補完が続く中、ひとりの少年、碇シンジの心の補完に焦点が当てられ、終局が描かれる。

時に 西暦2016年

人々の失われたモノ

すなわち、心の補完は続いていた

SCENE 2

人はひとりでは生きられない弱い生き物である。欠けた心をお互いに埋め合うのが補完計画だという。

お互いに埋めあおうとしている。それが補完計画

SCENE 3 4 5

シンジは生きる理由を心の中に問い続ける。自分には価値がないからこそ、EVAに乗るのだと。

「何故、エヴァに乗るのか？」

それが僕のすべてだから

SCENE 6

幸せよりも、まず第一にシンジが欲するもの——それは誰もが自分を必要とするだけの価値だった。

SCENE 7

自分には価値がないというシンジ。"自分"は何なのか、誰も自分のことを分かってくれないと嘆く。

誰も僕を捨てない、大事にしてくれるだけの価値が欲しいんだ！

だから心の閉塞を、願う

EPISODE FINALE **Take care of yourself.**

SCENE 8

何もない自由な世界。自分のイメージ次第の世界で、シンジは他人が自分の心を形作っていると知る。

それが自由

「自分のイメージ?」

SCENE 9

EVAのパイロットではないシンジの可能性の世界。そこでは賑やかな学校生活を送る自分がいた。

SCENE 10 11

自分自身の見方によって世界が変わることに気づいたとき、シンジの世界は明るく拡がった。

父に、ありがとう

母に、さようなら

すべての子供達（チルドレン）に

おめでとう

01 人類補完計画①

作戦 TACTICS

人類補完計画とは、人が誰しも抱える"魂の欠落"を相互的に補い合い、ひとつに繋がることで、心の不安や恐怖を解消するという全人類規模の計画である。ここではNERVメンバーを例に、魂の補完がいかにして行われたかを確認する。

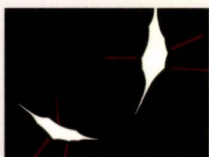
時に 西暦2016年

第3使徒襲来から1年——死海文書に記されたすべての使徒が殲滅され、西暦2016年、ついに人類補完計画は発動した。

"魂の補完"とは、内的宇宙での自分の心の中にある他者のイメージとの対話によって行われた例もあったようだ。

心の補完——それぞれのケース

CASE 碇シンジ

他人との接触を恐れ、自己の存在理由を問い続けてきた碇シンジ。「必要とされている」ことの確認として、彼はEVAに乗ることを選び、使徒と戦ってきた。しかし、友人であったはずの渚カヲルをその手で殺してしまったことから、彼のトラウマはより深いものとなっていく。それは幼い頃に父親に見捨てられたことに端を発する他者からの孤立感にもつながっていると言えよう。補完計画が発動し、他者の魂と解け合う中で、彼は心の閉塞は何も生み出さないと感じる。そして「ここにいても、良い理由」は自分自身の想いにあることを知る。

自己の存在理由を問い続ける碇シンジ。父親=碇ゲンドウに幼い頃に見捨てられた経験から、必要とされたい、嫌われたくないという想いで、EVAに乗り続けてきたのだった。

幼少時

CASE 綾波レイ

綾波レイは、碇ゲンドウに対する従順さが際立つ、アイデンティティの希薄な少女と言えた。しかし、サードチルドレンとの出会いとともに過ごした経験から、碇ゲンドウへの従属とは異なる、他者との絆を欲するようになっていく。それは、つまり彼女が自己の存在意義を求め始めたとも言えよう。当初、己の存在を無へと回帰させることとなる、補完計画の発動こそが"存在理由"であったはずだが、次第に彼女の心境に変化が起こる。自我の芽生えた彼女は、補完計画によって、自我が消滅してしまうことを恐れ、結果的に碇ゲンドウに反抗することとなったのである。

綾波レイは、碇ゲンドウとの従属的な関係性に自己の存在理由を確信していたはずであったが、心に根ざした自我は、計画により無へ回帰することに恐怖感を抱きはじめる。

幼少時

CASE 惣流・アスカ・ラングレー

惣流・アスカ・ラングレーの過剰なまでの自己顕示欲は、他人に自己の存在を認識させようとする一種の代償行為でもあった。おそらく、他人に自分を認めさせることで、自分が孤独ではないことを確認したかったのであろう。それは幼い頃の実母の自殺と、継母との埋められない溝に端を発するものであった。独りで生きることを望む彼女であったが、それは他者に自立している姿を認めさせたい欲求の裏返しに過ぎない。しかし、その自信が失われた時、彼女の心には孤独に対する恐怖と絶望——自己と他者への否定と嫌悪しか残らなかったと言えよう。

自身に価値を見いだせなくなった惣流・アスカ・ラングレー。EVAに乗れなくなったことで、アスカが心の拠りどころとしていた自尊心を満たすことができなくなったのである。

幼少時

CASE 葛城ミサト

NERVの作戦指揮官である葛城ミサトは、幼き頃から家族をないがしろにする父を否定する一方、認めてもらおうと"よい子"に徹してきた。しかし、彼女はそんな模範的な自分に、嫌悪感を頂いてもいた。それは恋人の加持の前で、"よい子"の仮面を外すことで、安息を感じていたことからも明らかであろう。また、加持との情事には、否定していたはずの父親を求める意味もあったようだ。彼女の中では、この関係に対し、刹那的と糾弾する理性と、それを求める感情がせめぎ合っていた。補完計画を「馴れあい」と否定するものの、彼女も馴れ合う他人を欲していたのだ。

葛城ミサトは、幼い頃から不本意な潔癖さを汚したいと願い続け、恋人=加持リョウジとの情事にその願望を満たす。しかし、そんな自分を他人に知られることは恐れていた。

幼少時

エヴァンゲリオンの装備❷
射撃装備

EVANGELION equipment-2

Illustration by Akio Unuma

1 パレットライフル

EVA専用電磁加速レールガンであり、劣化ウラン弾を高速連射する自動小銃。A.T.フィールドを貫通するほどの威力こそないが、使徒への牽制として用いられ、その使用頻度は高い。

第10使徒戦では、パレットライフルにて、目標を殲滅した。

2 3 ハンドガン

デザートイーグル.50EA版に似た形状の拳銃型火器。第12使徒戦で初号機が装備している。第5使徒の観測に用いられたバルーンダミーが所持していたハンドガンは、この試作型である。

第12使徒戦では、初号機が目標へ接近した際に使用した。

4 スナイパーライフル

EVA専用の狙撃用大型火器。スコープを備えたロングバレルライフルだが、狙撃以外に後方支援目的としても使用される。第12使徒戦、第16使徒戦にて零号機が携帯し出撃している。

スナイパーライフルは、零号機が使用するケースが多い。

5 ポジトロンライフル

破壊力に優れた陽電子の弾体を高速射出するEVA専用射撃装備。NERVが独自開発したもので、その形状はEVAの肩部へホールドして発射することを考慮したデザインとなっている。

ポジトロンライフルは、第7使徒戦にて弐号機が使用した。

6 ポジトロン20Xライフル

陽電子を連続発射出来る改修モデルのポジトロンライフル。エクステンションバレルと質量センサーを装備し、精密射撃も可能となった。長距離射撃タイプで、大気圏外へも攻撃できる。

第15使徒戦にて、弐号機が大気圏外への使徒攻撃に使用。

7 ポジトロンスナイパーライフル

戦略自衛隊が開発した自走式陽電子砲をNERVがヤシマ作戦において徴発。EVA用に改造した射撃武装である。その後、さらに改良が加えられ、第15使徒戦にも投入された。

連射は出来ないものの、超高出力と長距離射程を誇る。

8 ハンドバズーカ

EVA専用のロケット弾ランチャー。装弾数も多い上に連射が可能、それなりの火力を持ちながらサイズも小さめであるため、比較的取り回しも良好な汎用性の高い武器となっている。

第14使徒に対して、弐号機が二丁持ちで使用した。

9 バズーカ

EVAとほぼ同サイズの砲身を持った大型ロケット弾ランチャー。大火力であると想定されるが、第13使徒戦時では、使用前に弐号機が撃破されたため、その威力を発揮出来なかった。

そのサイズから長い射程距離と破壊力の高さを伺わせる。

10 ニードル発射装置

EVAの肩パイロンに内装させて使用する小型ニードルランチャー。目標に対して貫通能力の高い小型のニードルを、瞬時に多数射出する兵装で、近接格闘戦時において威力を発揮する。

至近距離に迫った量産機に、ニードルを撃ち込む弐号機。

第25話 Air

CHECK POINT

渚カヲルを手にかけたシンジは罪悪感に囚われていた。救いを求め入院中のアスカに会うも、己の行為によって一層自己嫌悪に陥る。一方、ついにゼーレが動く。NERV各支部からMAGIへのハッキングが為されるも、釈放されたリツコがこれを阻止した。そこでゼーレは日本政府を動かし、戦自による強制接収に出る。次々と制圧されていく本部施設。目的はMAGIの接収とEVAの確保、そしてEVAパイロットの抹殺である。アスカと弐号機をジオフロントの湖底に避難させたミサトは、孤立したシンジを救出。瀕死の重傷を負いつつも彼を初号機ケイジへと送り届け、別れを告げるのだった。さらに戦自はn^2兵器までも投入するが、目覚めたアスカが弐号機で戦自の戦力を一掃する。これによりゼーレはEVA量産機を投入。弐号機は善戦虚しく蹂躙される。一方ゲンドウは、レイとともにリリスの前にいた。そこに現れたリツコは自爆装置を作動させるも、MAGIカスパーに起爆を拒否されゲンドウに射殺される。その頃、本部の爆発とともに、光の翼を有する初号機が姿を現した。

STAFF LIST

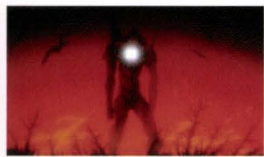
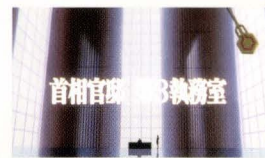
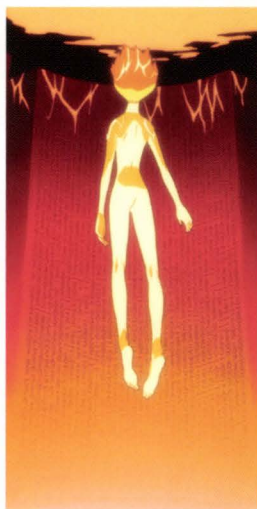
第25話（公開日：97.7.19）

脚　本：庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉、樋口真嗣、摩砂雪
キャラクター作画監督：黄瀬和哉
メカニック作画監督：本田雄

THE END OF EVANGELION
EPISODE:25'
Love is destructive.

COLUMN

弐号機と戦自の空戦部隊との戦闘シーンでは、第壱話の国連軍対第3使徒サキエルの戦闘を思い起こさせる描写がいくつかあるのが特徴だ。また、ゼーレが投入したEVA量産機は、5号機から13号機までの合計9体。白いボディや背中の翼など、いわゆる「天使」のモチーフが散見されるデザインである。なお、量産機がS^2機関を解放した際、それぞれがセフィロートの樹の各セフィーラーに対応。ちなみに初号機は樹の中心のセフィーラー「ティフェレト」に位置していた。

EPISODE 25' Love is destructive.

第26話 まごころを、君に

CHECK POINT

EVA弐号機の敗北 ………… ▸▸ 03 P.094
▼
EVA量産機の戦闘 ………… ▸▸ 04 P.094
▼
リリスの覚醒 ………… ▸▸ 05 P.095
▼
人類補完計画の発動 ………… ▸▸ 06 P.095

初号機に乗りNERV本部の外に出たシンジ。彼は弐号機の惨状を見て絶叫する。シンジの叫びに呼応してか、ロンギヌスの槍が月より飛来。初号機の周囲を量産機が取り囲み、人類補完の儀式が始まった。一方ゲンドウは、レイを利用してアダムとリリスの融合による補完を行おうとするが、レイは彼の望みを無視してシンジに応え、リリスと融合を果たす。リリスは巨大なレイの姿となり上空の初号機と接触。初号機は生命の樹に姿を変え、人類補完計画が発動する。その際に起きた爆発により、ジオフロントは真の姿である黒き月となる。リリスから発生したアンチA.T.フィールドにより、すべての人間がL.C.L.へと還元されていく。その頃シンジは、すべてがひとつになった世界でレイや渚カヲルと対話をしていた。シンジは傷つくことを恐れず、他人の存在する世界を望む。それに反応したかのように初号機はリリスから分離。地球を離れていく。砂浜で目覚めたシンジは、そばにいたアスカの首に手をかける。しかしアスカは、静かに手を伸ばしシンジの頬に触れるのだった……。

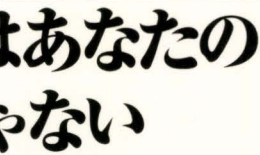
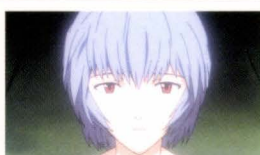
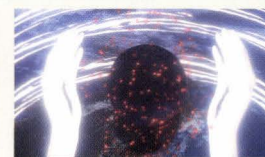
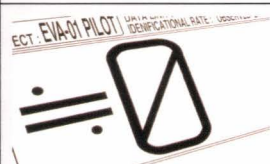
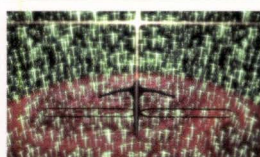
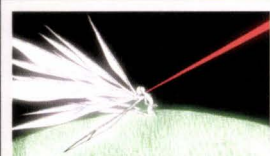
STAFF LIST

第26話（公開日：97.7.19）

脚　本：庵野秀明
絵コンテ：庵野秀明、樋口真嗣、甚目喜一
作画監督：鈴木俊二、平松禎史、庵野秀明
ビジュアルウォーターアーティスト：摩砂雪
作画監督補佐：古川尚哉、吉成曜

THE END OF EVANGELION
ONE MORE FINAL:
I need you.

COLUMN

第弐拾参話ビデオフォーマット版では、零号機を侵食した使徒が、その肉体の一部をレイの姿に変えて初号機に迫る描写があるが、この劇場版での、レイと融合したリリスや、レイの顔に変形した量産機を踏まえた上で追加されたといえよう。第弐拾四話ビデオバージョンでのゼーレとカヲルの会話に出てくる「黒き月」がジオフロントであり、これが「リリスの卵」であることが明示される。これは「白き月」がアダムの発見された南極の大空洞であることを示唆している。

EPISODE ONE MORE FINAL **I need you.**

01_ NERV本部強制接収

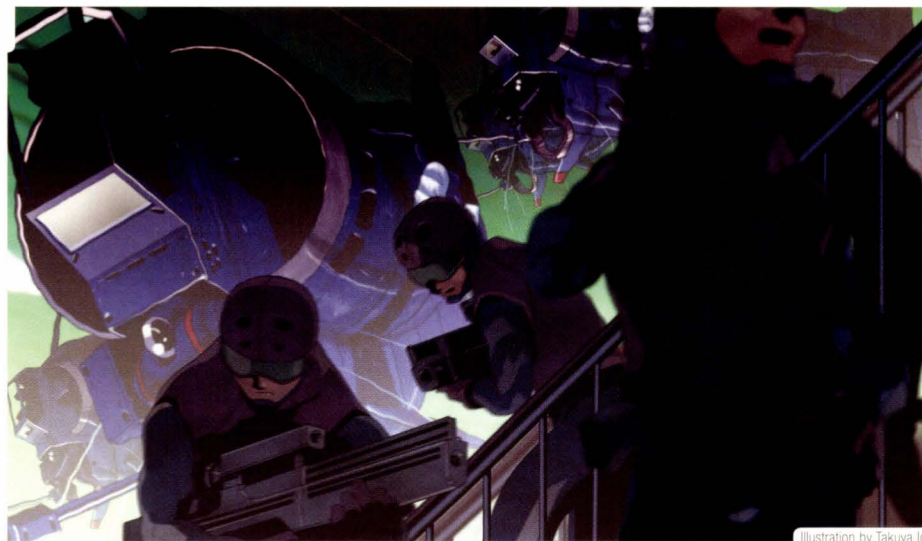



Illustration by Takuya Io

戦略自衛隊による NERV本部施設の強制接収作戦

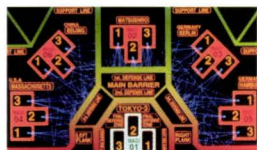
NERVによるサードインパクト誘発の謀略という情報（実はゼーレの情報操作）により、日本政府は戦略自衛隊を動員しNERV本部の武力による強制接収を決行。MAGIおよび現存するEVAの確保とEVAパイロットの排除がその目的であった。

強制接収作戦では、地上部隊の総攻撃と潜入部隊による無差別の掃討戦という、二面作戦が展開された。

一時は優勢であった戦自だが、弐号機の反撃に遭い敗退。ゼーレはEVA量産機を投入することとなった。

強制接収の経緯

1 MAGIへのハッキング

ゼーレは世界各国のMAGI同型機によるNERV内MAGIへのハッキングを開始。が、赤木リツコ博士の防御プログラムにより、攻撃は失敗に終わる。

同時に5つのMAGIからのハッキングを受けるNERV本部のMAGI。

2 戦自、直接占拠開始

ハッキングに失敗したゼーレは、日本政府に働きかけ、強制接収作戦を決行。空陸の総攻撃に併行し、潜入部隊がNERV本部内へ侵入、白兵戦を展開する。

潜入部隊は、白兵戦に長けた対人戦闘のプロで構成されていた。

3 弐号機の起動

弐号機が突然起動し、参戦。戦自は多量のミサイル斉射と航空部隊でこれに応戦するが、戦果は電源ケーブルの切断のみに留まった。

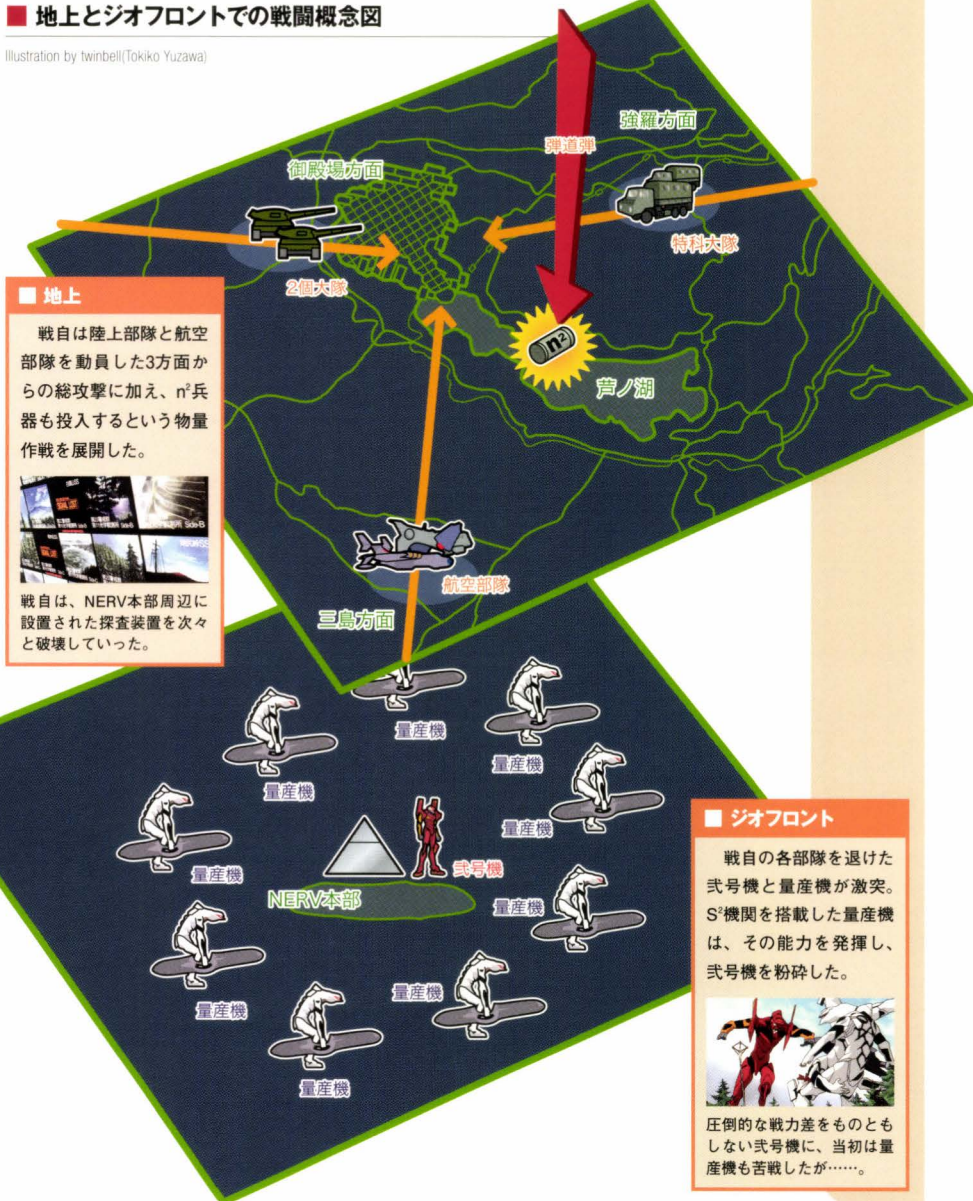
まさに強力無比のEVAに対して、戦自の通常戦力では歯が立たなかった。

4 ゼーレ、量産機を投入

戦況を打開すべく、ゼーレは直接介入を決断。9機のEVA量産機による弐号機の殲滅を開始する。孤軍奮闘する弐号機も、量産機の群れの前に撃破された。

S^2機関を搭載した最新鋭のEVA量産機が、実戦投入された。

■ 地上とジオフロントでの戦闘概念図

Illustration by twinbell(Tokiko Yuzawa)

■ 地上

戦自は陸上部隊と航空部隊を動員した3方面からの総攻撃に加え、n^2兵器も投入するという物量作戦を展開した。

戦自は、NERV本部周辺に設置された探査装置を次々と破壊していった。

■ ジオフロント

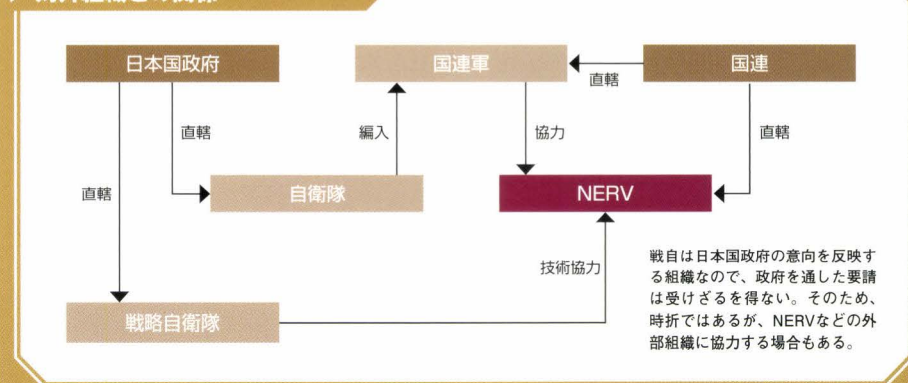
戦自の各部隊を退けた弐号機と量産機が激突。S^2機関を搭載した量産機は、その能力を発揮し、弐号機を粉砕した。

圧倒的な戦力差をものともしない弐号機に、当初は量産機も苦戦したが……。

02 戦略自衛隊

組織 ORGANIZATION

2015年時、国連加盟国は保有する軍隊を国連軍に委譲したため、各国固有の軍隊は原則的に存在しない。しかし、常任理事国である日本は、異例ながら独自の直轄軍事組織として戦略自衛隊（略称：戦自）を保有。この組織は、2003年の南沙諸島での紛争を契機にした、独自の軍事組織の必要性に応え、創設されたものであった。

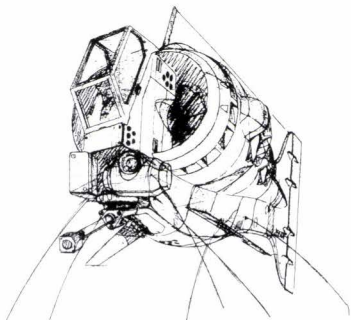
NERV本部の強制接収に従事した戦略自衛隊であるが、本義的には自国防衛のために創設された組織である。

戦自の保有する戦力

国連管轄下ではないにも関わらず、戦略自衛隊は過剰とも言える戦力を有する組織であった。自衛隊とほぼ同一の通常兵器に加えて、n^2兵器やBC兵器の保有、大出力の自走式陽電子砲の開発など、世界屈指の兵力とNERVにも迫る高度な技術開発力を有していた。しかし、戦自が対使徒戦に投入された事実はなく、確認されている戦自の軍事行動は、NERV強制接収のみである。

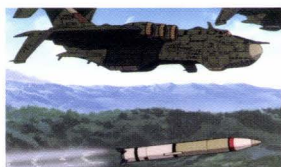
ジオフロント内へ降り注ぐ戦自のミサイル群。その火線の数からも、保有する戦力の大きさが伺い知れる。

航空戦力

■ 軽戦闘機

小魚を思わせるスタイリングのVTOL機。兵装は機首下部の単装機銃のみだが小型で小回りの効く機体であることからNERV本部内へ直接投入。対人制圧に用いられた。

■ 重戦闘機

戦自仕様の大型VTOL戦闘機。主武装は国連軍所有の機体と同一で翼下パイロンのロケットランチャーと機銃。

■ 大型機

機体下部に巡航ミサイルを搭載した大型戦闘機。弐号機殲滅のために投入されたが、返り討ちにあってしまう。

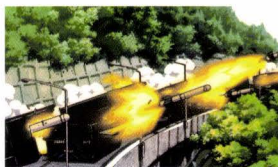
地上戦力

■ 戦車

戦自保有の戦車。NERV本部に対し先制砲撃を行い、NERVのレーダーサイト群を確実に破壊していった。

■ 装甲車両

戦車部隊と同様に、先制砲撃を仕掛けた戦自仕様の六輪タイプの装甲車両。機動性に優れると推測される。

■ ロケットランチャー車両

6連装型のMLRS（多目的ロケット発射システム）を搭載した車両。突如、出現した弐号機に斉射攻撃を行った。

カチューシャと呼ばれる多連装式ロケットランチャー発射機を搭載した車両。本部施設砲撃時に投入された。

隊員と装備

戦略自衛隊の隊員は、高度な装備を着用して任務に従事しており、その独自性が伺える。また、潜入部隊の無差別な戦闘活動と迅速な工作活動は、高度な対人対施設占拠作戦の訓練の成果を物語っている。

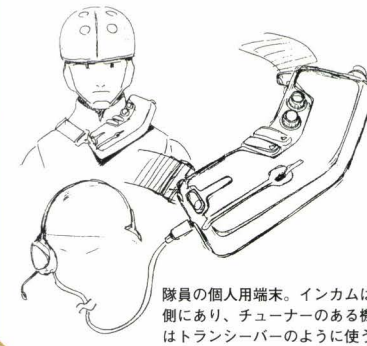
戦自の潜入部隊は、銃器以外にも、バックパック式火炎放射器をも使用して、NERV本部の制圧を行っていった。

▶戦自師団長

▲戦自隊員

▶アサルトライフル

戦闘スーツや対人用アサルトライフルなど、その装備は自衛隊とは一線を画す。

▶ パーソナル無線機

隊員の個人用端末。インカムは左側にあり、チューナーのある機材はトランシーバーのように使う。

03 EVA弐号機

EVANGELION

ジオフロント湖底内に待避させてあった弐号機であるが、機体に母の存在を感じ取ったセカンドチルドレンは戦線復帰を果す。その戦闘力は凄まじく、量産機を一度は全機沈黙寸前まで追い込んだ。

復活した弐号機は、A.T.フィールドを指向展開させて攻撃に利用するなど、圧倒的とも言える戦闘能力を発揮。

04 EVA量産機

EVANGELION

ゼーレが対弐号機のために投入した量産タイプのEVA。外部にセンサーアイを持たない頭部が特徴で、能力、カラーリングなどは9機全機同一。ダミープラグで起動する無人機であり、S²機関を搭載しているためアンビリカル・ケーブル等の制約を受けず活動可能。強靱な自己修復能力を持つ。

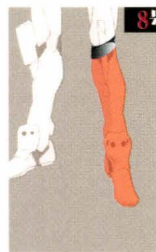
量産機はロンギヌスの槍のレプリカを主兵装とし、またこれまでのEVAにはない飛行能力も与えられている。

弐号機と量産機の交戦記録

3分半ほどの活動時間でEVAシリーズ9体を相手取ることになった弐号機は、9号機、11号機、7号機、6号機、12号機、8号機、10号機、5号機、13号機の順に屠っていく。実質は弐号機の圧勝だったといえる。しかし、残り数秒でロンギヌスの槍のレプリカを頭部に受け、内蔵電源が終了。再生した量産機によって蹂躙されてしまう。なお、図は量産機の損傷部位。

5号機
喉元を握りつぶされる。弐号機の拳により腹部を貫かれる。

6号機
袈裟懸けに斬られ、あばらが露出する。

7号機
首の骨を折られ、右腕を切断される。

8号機
左足を切断される。

9号機
頭部を潰される。背骨を折られ、血が噴き出す。

10号機
頭部をニードルで串刺しにされる。

11号機
頭部にプログ・ナイフの刃を突き刺される。

12号機
胴体を上下に切断される。

13号機
胸部のコアをわしづかみにされる。

完膚なきまでに叩きのめされたはずの量産機だったが、S²機関と思われる力で復活した。

COLUMN

NERVの対人要撃装備

軍事組織としてのNERVは、対使徒戦専門を原則とする極めて特殊な組織である。従って対人戦闘訓練は護身レベルの最低限度のものであり、対人要撃装備も簡素と言わざるを得ず、侵入者には無防備に等しい。

NERVの職員は従軍経験のないものが圧倒的で、護身とはいえ拳銃を持つことに抵抗を覚えるものさえいた。

NERV警備部の車両

NERVが使用している警備用車両。防弾装備等がなされており、本部施設の地上入出用ゲートに配備されている。

戦自の襲撃により、あっけなく破壊される警備車両。

■ グロック17

NERV職員には拳銃が各自に支給されている。制式採用されているのはオーストリアのグロック社製のオートマチック拳銃グロック17である。

支給された拳銃は職場に常備しているようだが、コンソールの引き出しに突っ込まれているなど、ルーズさが垣間見える。

■ サブマシンガン

NERVが正式採用しているサブマシンガン。平時では警備スタッフが使用しており、同一のものが発令所のコンソール下に緊急時用の武器として常備されている。

戦自の特殊部隊潜入の報告により、発令所スタッフはサブマシンガンを取り出し、不慣れな白兵戦に備えた。

■ H&K USP

葛城ミサトが愛用しているドイツのヘッケラー&コッホ社製のオートマチック拳銃。NERVの制式拳銃ではないが実用性の高い軍用・警察用拳銃である。

好みの銃の所持を認められている葛城ミサト。射撃の腕前は確かであり、白兵戦能力も戦自の兵士に引けを取らない。

05_ リリス②

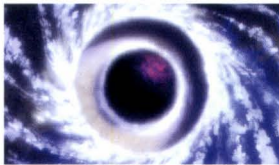
使徒 ANGEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

第2使徒たるリリスは、従来アダムとされてきた白い巨人であり、人類の始祖といえる存在である。使徒の始祖と考えられているアダムと、いわば同様な存在と考えられる。綾波レイと融合した後、その姿をレイへと変貌させ、巨大化していく。

幾重もの羽を広げ、地球規模にまで巨大化したリリスは、強力なアンチA.T.フィールドを発生させる。

黒き月

NERV本部が置かれた箱根のジオフロントは、「黒き月」とよばれる人類の始祖であるリリスの卵であったと判明。人類補完計画の発動には、恰好の場所といえた。

衛星軌道上から見た「黒き月」の映像。サードインパクトによって、初めてその全貌が明らかとなった。

肉体と魂

綾波レイの肉体に宿っていた魂はリリスの魂であり、リリスとの融合は本来の肉体へ還ったとも言える。分離することでリリスの力を抑制していたのかもしれない。

渚カヲルの魂は、アダムの魂であったと推察されており、その意味においてカヲルとレイは同様な存在だといえるだろう。

リリスへと融合して行く綾波レイ。融合の瞬間、レイは「ただいま」と帰還の意志を表している。

COLUMN
南極と箱根の地下空洞

アダムが発見された南極の地下と、箱根の地下は同様の球状空間であることから、リリスもまた以前からジオフロントにあったと推測できる。

使徒の始源とされるアダムと、人類の始源とされるリリスは同格の存在なのかもしれない。

06_ 人類補完計画②

作戦 TACTICS

Illustration by Takuya Io

人類補完計画の発動は、人類を破滅させる災いを意味していた

使徒とアダムの接触によって引き起こされ、人類を滅亡させるといわれてきたサードインパクト。しかし人類自らの手でそれを起こすことこそが、ゼーレの目指す人類補完への第一歩だったようだ。サードインパクトによる全人類のL.C.L.化を経て、完全なる単体生物へと進化する。それが人類補完計画の全貌だったのかもしれない。

人類補完計画発動時の状況が、セカンドインパクトに酷似していることを、オペレータの伊吹マヤが確認している。

ジオフロント周辺から急激に拡大して行く巨大な衝撃波と爆炎。それはまさにサードインパクトと呼ぶべき爆発だった。

サードインパクト発生の要因

ゼーレの量産機投入は、弐号機の殲滅よりもむしろジオフロント上にてサードインパクトを引き起こすためであった。出現した初号機と月より帰還したロンギヌスの槍。これらをいわば依り代として、ゼーレは人類補完計画を発動。量産機のS²機関を解放し、サードインパクトを発生させたのである。

葛城ミサトは、ゼーレがEVAを使いサードインパクトを発生させるつもりであることに気づいた。

■ S²機関解放による物理衝撃波

初号機を量産機が取り囲みセフィロートの樹を描き出す。その後量産機は内蔵されたS²機関を解放。これにより猛烈な物理的衝撃波が発生した。

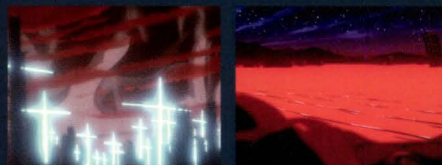
■ アンチA.T.フィールドによる人類L.C.L.化

ファーストチルドレンと融合したリリスから地球規模のアンチA.T.フィールドが発生。人類は自我境界を維持出来なくなり、L.C.L.化して行く。

人物総括

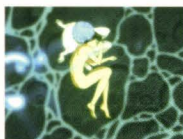
2015年に始まった人類と使徒との戦い。若干の例外はあるが、その中心となって活動した者の大部分は、EVA初号機を依り代とした人類補完計画発動時までを様々なかたちで生き延び、補完の対象となった。人類はL.C.L.と化し一元的な存在へと還元され魂の補完が始まったが、同計画はゲンドウ、ゼーレどちらの思惑とも異なる終焉を迎えた。その後の世界にはシンジとアスカの姿が認められたが、L.C.L.と化した人々がどこへいったのかは定かではない。

COLUMN

ゼーレの主導により発動された初号機を依り代とした人類補完計画。ただし、これは彼らのシナリオを修正したものであり、本来の補完に碇シンジが必要だったかは定かではない。奇しくも補完の方向性を決める重要な役割を担うこととなったシンジが他人の存在する世界を望んだため、ゼーレの計画は潰えるかたちとなった。なお、補完の対象がL.C.L.と化す直前には「想いを寄せる人間の姿が見える」という現象が起こったとされている。

崩れていくリリスの身体の周囲では、完全なる単体生物になり得なかった多くの生命が十字架のような形状を成して輝いていた。シンジが戻った場所に元の地上らしい景観はなく、そこにはただL.C.L.の海が広がっていた。

NERV EVA初号機専属操縦者

碇シンジ

EVA初号機に搭乗し、対使徒戦において活躍したシンジ。友人だった最後の使徒、渚カヲルを殺したことで心に大きな傷を負った彼は、初号機を媒介とした人との繋がりによって救われる。葛城ミサトの命を賭した行動により再起し、人類補完計画における重要な役割を果たしたシンジ。すべてがひとつになった世界に行き着くも、彼はそれを拒み、他人の存在する世界へと帰った。

NERV EVA零号機専属操縦者

綾波レイ

EVA零号機専属操縦者としての活動を通じ、他者——特に碇シンジとの絆を深めていったレイ。感情を得た彼女は、深い信頼を寄せていたゲンドウの人形であることをやめ、明確な意志をもって第2の使徒とも言われるリリスと融合。人類補完計画発動後、人類の行く末を委ねられたシンジを導いたレイは、人類に未来を託すかたちで滅びの時を迎え、復活の余地がないほどに崩れ去った。

NERV EVA弐号機専属操縦者

惣流・アスカ・ラングレー

EVA弐号機に搭乗することで自尊心を満たしつつも、碇シンジへの愛憎を深めていったアスカ。使徒戦での度重なる敗北により精神的な脆さを露呈した彼女は、ゼーレによるNERV本部強制接収時に再起するも、EVA量産機との戦闘にも敗北。直後に、人類補完計画が発動する。アスカは、シンジが望んだ他人の存在する世界における最初の他人として、彼の側に横たわっていた。

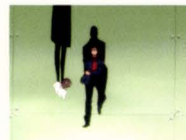
NERV 戦術作戦部作戦局第一課

葛城ミサト

父への想いを原動力として使徒戦の指揮を執ったミサト。恋人である加持リョウジを失った後、セカンドインパクトと人類補完計画の真相を追い続けた。真実に肉薄したものの、突如、ゼーレがNERV本部強制接収を開始。戦略自衛隊から碇シンジを守るために奔走したミサトはシンジを奮い立たせるも、腹部への被弾が致命傷となり人類補完計画の発動を見届けることなく倒れた。

NERV 最高司令官

碇ゲンドウ

使徒殲滅と同時に、ゼーレとは異なるシナリオの人類補完計画の完遂を目指したゲンドウ。自身の意図した形での補完計画発動を目論んだ彼は、ゼーレによるNERV本部強制接収時、アダムとリリスの禁じられた融合を図るもレイの叛意により失敗。リリスと同化したレイが全人類の前に現れた時、ゲンドウは最愛の人、碇ユイと再会した後、EVA初号機の中へと消えていった。

NERV 副司令官

冬月コウゾウ

人類補完計画の真実を知り、常に碇ゲンドウを補佐する役割を担っていた冬月。戦略自衛隊によるNERV本部強制接収を受け、自身の補完計画発動を目論んだゲンドウから後を任された冬月は、侵攻してくる戦自への対応を指揮した。状況を正確に把握できていた彼は、秘かに想っていたユイと再会しL.C.L.へと化すまでの間、自身が支え続けてきた人類補完計画の発動を静かに見つめ続けていた。

NERV 技術開発部技術局一課

赤木リツコ

NERVの技術的な側面を一手に引き受けると同時に、碇ゲンドウの暗躍の目的を知る人物だったリツコ。ゲンドウへの叛意により独房に拘束された彼女は、後にMAGIがハッキングを受けた際、一時復帰してMAGIの自律防御を展開。同時にプログラムを変更し、本部の自爆を謀った。MAGI自身が拒否したため自爆はならず、愛するゲンドウの手によりその命を絶たれる結果となった。

CHARACTER OVERVIEW

NERV 特殊監察部　他

加持リョウジ

NERV、日本国政府、ゼーレの間諜として活動する「三重スパイ」という特殊な存在だった加持。来日以降、様々な謎の真相に近づくにつれ、その周囲には危険が増していった。第14使徒戦の後、ゼーレに拘束された冬月を助けた加持だが、この行動はゼーレに対する裏切りであり、これが彼の命取りとなった。真実を追い求め、組織を股に掛けた結果、加持を待っていたのは何者かによる銃撃だった。

NERV 技術開発部技術局一課

伊吹マヤ

敬愛する上司、赤木リツコを的確に補佐してきたマヤ。しかし、戦自がNERV強制接収をはかってきた際には上司の姿は側になく、敵に銃を向けることを拒否するなど危機から目を背ける一面を見せた。リリスと同化したレイが全人類の前に現れた時、リツコの姿を見た彼女は、不安や恐怖が一気に拭い去られたかのような笑顔を浮かべながらリツコと抱き合い、L.C.L.と化した。

NERV 中央作戦司令部作戦局第一課

日向マコト

葛城ミサトを補佐し、時には危険を省みない行動も取ってきたマコト。使徒侵入の危機に際しNERV本部自爆の可能性を示したミサトへの「いいですよ、あなたと一緒なら」という返答には、マコトの想いが凝縮されていた。リリスと同化したレイが全人類の前に現れた時、彼の前に現れたのは、愛するミサトその人だった。ミサトに口付けられ、マコトは幸福のうちにL.C.Lと化した。

NERV 中央作戦司令室付

青葉シゲル

NERV本部中央作戦司令室を支える存在だったシゲル。戦自がNERV強制接収をはかってきた際には、日向マコトと共に銃器をもって応戦し、弱音を吐く伊吹マヤを叱咤することで励ます強さを見せた。なお、周囲の人間が安らぎのうちにL.C.L.と化す中で、彼は大勢の綾波レイに囲まれ、怯えながらL.C.L.と化した。リアリストである彼には、想いを寄せる相手がいなかったのかもしれない。

NERV EVA適格者　他

渚カヲル

適格者として人類補完委員会から直接NERV本部へと配属された渚カヲル。彼の正体は、第17使徒タブリスだった。使徒の使命を果たすべく「アダム」との接触をはかるも、そこに在ったものがアダムではなく「リリス」であると看破したカヲルは、接触を中止。好意を寄せたシンジにヒトが生きる道を選び取って欲しいと望んだ彼は、自らの死を願い、EVA初号機により握りつぶされた。

ゼーレ 最高幹部／人類補完委員会議長

キール・ローレンツ

人類補完委員会議長であり、ゼーレ最高幹部のひとりでもあるキール。独善的な行動が目立つ碇ゲンドウを危険視していたゼーレは、NERV強制接収に乗り出し、EVA初号機を依り代とすることで人類補完計画を発動させようと企てた。いかなる人物のビジョンを迎えたかは定かではないが、彼は笑みをたたえてL.C.L.と化した。なお、その身体の大部分を占める機械部分は残されたままであった。

民間 第3新東京市立第壱中学校2年A組　他

鈴原トウジ

第3新東京市立第壱中学校2年A組の生徒で、碇シンジの親友だったトウジ。後に適格者として選出されEVAに乗ることを決意した彼だが、EVA3号機起動実験中に事故に遭い、後に第13使徒と識別された同機内に取り残された。第13使徒がEVA初号機に殲滅された際、重傷を負ったトウジは一命を取り留めた。NERV本部の病院に入院していたが、人類補完計画進行時の所在は定かではない。

民間 第3新東京市立第壱中学校2年A組

相田ケンスケ

第3新東京市立第壱中学校2年A組の生徒で、碇シンジの親友だったケンスケ。トウジが重傷を負ったという事実を知ることもなく、EVAに乗ることに憧れていたが、結局、彼には搭乗のチャンスが与えられることはなかった。第13使徒殲滅後、シンジへの電話で羨望する気持ちを吐露したケンスケは、第16使徒戦での被害により家を失い他所に移り住んだものと思われる。

民間 第3新東京市立第壱中学校2年A組

洞木ヒカリ

第3新東京市立第壱中学校2年A組の生徒で、惣流・アスカ・ラングレーの親友だったヒカリ。彼女は、EVA3号機に乗ったために重傷を負ったトウジの姿や、使徒戦での度重なる敗北により自身を喪失した状態のアスカの姿を間近に見るというかたちで使徒の脅威に晒された。なお、彼女もまた、第16使徒戦での被害により家を失いミサトから預けられたペンペンを連れて他所に疎開したようだ。

COLUMN

人類が生きた証を永遠に残したいと願っていたユイ。EVA初号機の実験によって消失する直前には、息子のシンジに「明るい未来を見せたい」という前向きな想いを述べている。自身の死後に立案された「人類補完計画」の詳細を知る由もなかったはずのユイだが、結果的にその想いは、初号機とひとつになり、宇宙の彼方へと旅立ったことで成就されたと言えるだろう。独り旅立った彼女にとって、夫、息子の存在はいかなる意味を持っていたのだろうか。

他人がいる世界へと帰ることを決めたシンジを、ユイは優しく送り出し、自らの願いを叶えるため初号機と共に旅立った。

全使徒戦報告

第3使徒以降、NERVは15回もの使徒迎撃作戦を実行。使徒の特徴に応じた対応をすることで、結果的にすべての作戦で成功を収めた。しかし、3号機の損失、本部施設の大打撃、零号機及び第3新東京市の消失などNERV側にも甚大な被害がおよんでおり、3機のEVAによる対使徒戦が回を重ねるごとに難しくなっていたことをうかがわせる。しかし、第17使徒タブリス戦をもって、すべての使徒を殲滅。NERVはその一義的目的を完遂した。

15年ぶりに姿を現わした使徒。以降、NERVはEVAを擁し、個体ごとに特性がまったく異なる使徒を殲滅してゆく。

MAP-01 NERV本部(箱根近郊)

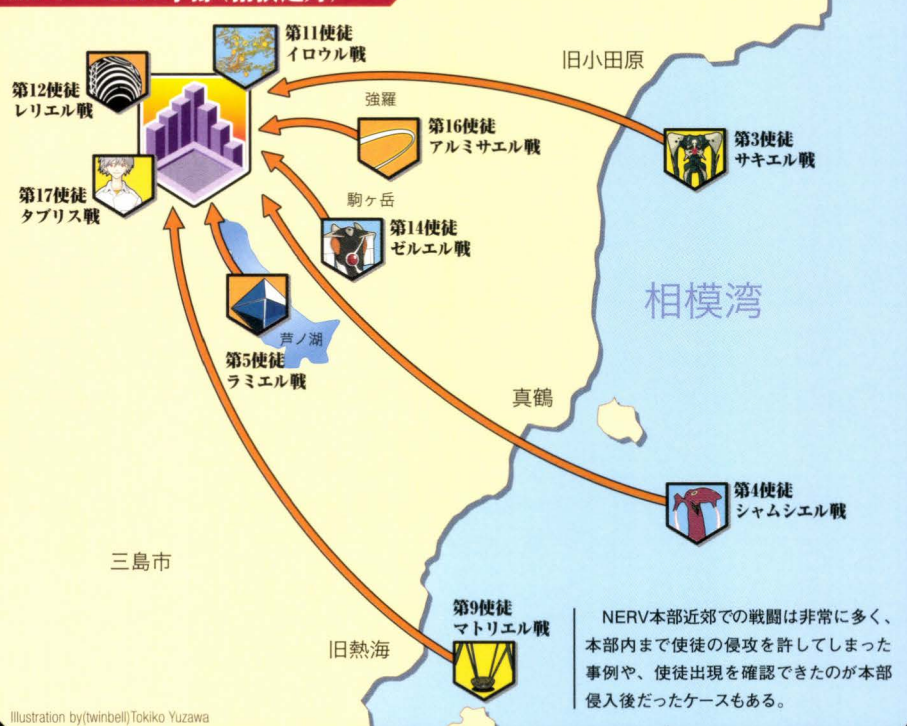
第11使徒 イロウル戦
第12使徒 レリエル戦
第17使徒 タブリス戦
第16使徒 アルミサエル戦
第3使徒 サキエル戦
第14使徒 ゼルエル戦
第5使徒 ラミエル戦
第4使徒 シャムシエル戦
第9使徒 マトリエル戦
旧小田原
強羅
駒ヶ岳
芦ノ湖
相模湾
真鶴
三島市
旧熱海

NERV本部近郊での戦闘は非常に多く、本部内まで使徒の侵攻を許してしまった事例や、使徒出現を確認できたのが本部侵入後だったケースもある。

Illustration by(twinbell)Tokiko Yuzawa

地図の見方

第3新東京市
使徒

使徒侵攻ルート
使徒攻撃ルート
主要都市
主要施設
山岳

初戦 第3使徒サキエル戦

15年振りに出現した使徒サキエルの迎撃は、NERVとEVAにとって初の実戦であった。当初、国連軍第2方面軍が撃破を試みるも失敗し、指揮権はNERVへ委譲された。同日、サードチルドレンがEVA初号機にて出撃。一旦は使徒に屈するも突如再起動、暴走しつつ瞬時に目標を撃破した。

第一次直上会戦と命名された初の使徒との戦闘。しかし、当初初号機は使徒に手も足も出なかった。

第2戦 第4使徒シャムシエル戦

第3使徒の襲来から3週間後に出現した第4使徒。その迎撃戦は、EVAが銃火器等の武装を使用しての初戦闘となった。戦闘中、アンビリカル・ケーブルの切断、2名の民間人をエントリープラグ内に収容するなどのアクシデントはあったものの、暴走することもなく目標の殲滅に成功した。

プログレッシブ・ナイフで使徒を殲滅。使徒のサンプルをほぼ無傷で入手することにも成功した。

第3戦 第5使徒ラミエル戦

ヤシマ作戦と命名された第5使徒戦は、NERVにとって総力戦となった。本作戦には支援として調整中であった零号機も実戦投入。第3新東京市上空に静止し、地下施設にドリル状のシールドで侵攻する目標に対し、ポジトロンスナイパーライフルを使用して初号機が狙撃を敢行し撃破した。

正多面体という幾何学的な形状の第5使徒ラミエルは、強力な加粒子砲を武器としていた。

第4戦 第6使徒ガギエル戦

第6使徒はEVA弐号機輸送のため太平洋上を航行中の国連軍太平洋艦隊を襲撃した。同行していたセカンドチルドレンが弐号機にて緊急出撃。初陣とは思えぬ見事な操縦により目標を海中にて殲滅した。なお、使徒が艦隊を襲撃したのは、アダムを極秘裏に輸送中だったためとも言われている。

弐号機の初陣となった第6使徒ガギエルとの戦闘。洋上、海中で激しい戦いが繰り広げられた。

第5戦 第7使徒イスラフェル戦

駿河湾付近より上陸した第7使徒に対し、迎撃に出た初号機、弐号機であったが連携に失敗。分離する使徒に対応できず敗退する。目標は国連軍のn^2兵器にて一時的に活動を抑制、その間に緊急特訓を受けた両機操縦者はスムーズな連係攻撃が可能となり、活動を再開した第7使徒を二戦目で撃破した。

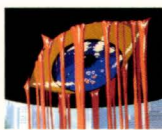
EVA2機による攻撃を受けた第7使徒は、2個体に分離するという想定外の能力を見せた。

第6戦 第8使徒サンダルフォン戦

覚醒以前に発見された第8使徒。その生体分析のため当初NERVは目標の捕獲を目的とした作戦を立案。局地戦用のD型装備を装着した弐号機により、捕獲作戦が浅間山火口内にて実行された。しかし、作戦中に目標が覚醒。作戦は即座に目標殲滅へと変更され、初号機の援護もあって撃破に至った。

浅間山の火口内で探知された時の第8使徒は、ヒトの胎児を思わせる幼生体の姿であった。

第7戦 第9使徒マトリエル戦

旧熱海付近より上陸した巨大節足動物のような第9使徒。使徒出現時、NERV本部はテロと思われる事態により電力供給を絶たれ、迎撃体勢を取れず、目標の侵攻を許してしまう。しかし、碇司令自らの陣頭指揮の下、人力にてEVA3機の起動に成功。本部直上に迫った目標を共同攻撃にて殲滅した。

第9使徒はボディ中央部から強力な溶解液を滴らせることで、本部地下施設へ攻撃を加えた。

第8戦 第10使徒サハクィエル戦

インド洋上空衛星軌道上に出現した第10使徒は、NERV本部上空へと移動し落下。葛城三佐はEVA3機のA.T.フィールドで目標を受けとめるという破天荒な作戦を立案する。万一に備え民間人および非戦闘員を退去させたうえで作戦は決行され、被害は最小限に留めての使徒殲滅に成功した。

第10使徒は成層圏からA.T.フィールドで加速し、自らを質量爆弾として落下してきた。

COMBAT REPORT AGAINST ANGEL

MAP-02 関東・東海・甲信越

日本近海の太平洋上に出現した第6使徒や浅間山火口内で確認された第8使徒など、日本国内の広域で出現を確認できたケースは幾例か存在する。

Illustration by(twinbell)Tokiko Yuzawa

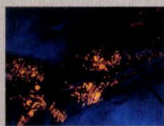
MAP-03 衛星軌道上

衛星軌道上に出現した使徒は第10使徒と第15使徒の2体。侵攻パターンは異なるが、いずれも空戦能力を持たないEVAは苦戦を強いられた。

Illustration by(twinbell)Tokiko Yuzawa

第9戦

第11使徒イロウル戦

NERV本部の保守パーツ内に潜んでいた細菌サイズの第11使徒は、MAGIをハッキング。作戦立案時、MAGIの破棄も検討されたが、赤木リツコ博士は使徒をいわば自滅させるプログラムを送り込むプランを提案。その高度なプログラミング技術により使徒は殲滅されMAGIへの侵食も阻止された。

第11使徒は急速に増殖し続け、知能回路を形成。本部施設を冒し、MAGIをハッキングした。

第10戦

第12使徒レリエル戦

第12使徒は突如として第3新東京市に出現。独断専行した初号機がその内部に呑み込まれる事態が発生する。作戦は初号機救出へと切り替えられ、n^2兵器の爆発エネルギーを用いた救出計画が立案される。しかし、作戦決行直前に初号機が暴走状態で使徒内部より脱出。使徒も殲滅された。

浮遊する球状に見える物体こそ使徒本体と思われたが、これは使徒の"影"であった。

第11戦

第13使徒バルディエル戦

米国より空輸されたEVA3号機内部に侵入していた第13使徒は、覚醒後に機体と同化。NERVは3号機を使徒とみなしEVA3機を出撃させた。しかし、3号機操縦者の安否を気遣うサードチルドレンが戦闘を拒否。碇司令はダミープラグで初号機を制御し、これを撃退させた。

使徒に乗っ取られた3号機の力は凄まじく、弐号機、零号機とも一撃で倒されてしまうほどだった。

第12戦

第14使徒ゼルエル戦

出現した第14使徒は弐号機の連続斉射攻撃や零号機のn2爆雷による自爆特攻にもびくともせず、NERV本部内発令所へと到達。危機一髪で初号機が現われ、形勢は逆転したかに見えたが、電源切れで窮地に陥る。しかし初号機は三度暴走し使徒を組伏すと、その体躯を捕食し殲滅にいたった。

驚異的な攻撃力を持った第14使徒。その迎撃戦は第二次ジオフロント攻防戦と呼称された。

第13戦

第15使徒アラエル戦

第10使徒同様に衛星軌道上に出現した使徒である第15使徒。弐号機が地上から対空斉射攻撃を行うが、セカンドチルドレンは使徒の精神攻撃を受け斉射は失敗。零号機による超長距離狙撃も効果なく、碇司令はロンギヌスの槍の使用を決断。零号機が投擲攻撃を行い、使徒は殲滅された。

EVAが直接攻撃できない高空に留まる第15使徒は、ロンギヌスの槍によって撃破された。

第14戦

第16使徒アルミサエル戦

強羅方面から侵攻してきた第16使徒。単独で迎撃に向かった零号機は、使徒の攻撃により侵食を受ける。第14使徒戦後、凍結されていた初号機が援護に発進するが、使徒との同化が進みつつあった零号機が自爆することで使徒は殲滅。しかし、第3新東京市もその爆発でほぼ消滅した。

第16使徒は、自らの形状を紐状にしてEVAに接触。機体、および搭乗者の精神を侵食した。

第15戦

第17使徒タブリス戦

最後の使徒である第17使徒は、NERVに送り込まれてきたフィフスチルドレンだった。使徒である彼はサードチルドレンと友好的に接触するなどした後、無人の弐号機を操りターミナルドグマへ侵入。アダムとの接触を果そうとするが、追撃してきた初号機により捕獲され、無抵抗のまま殲滅された。

無人の弐号機を操る第17使徒。追撃に出た初号機は使徒の操る弐号機と戦闘を繰り広げる。

COLUMN

使徒の名称や出現順位は裏死海文書に記されていたというのが定説だが、最初の使徒である第1使徒は南極に出現した光の巨人アダム、第2使徒はターミナルドグマ内にてアダムとされていた白い巨人リリスと言われている。なぜターミナルドグマにリリスが安置されていたかは謎だが、地下空洞発見時より、そこに存在していたとする説が有力である。

南極大陸に出現した光の巨人。その存在が、セカンドインパクトの引き金となったと言われている。

三大計画 THREE MAJOR PLANS

ゼーレのもとにNERVが遂行した「アダム計画」、「E計画」、「人類補完計画」。これらはゼーレが活動の指針とする「裏死海文書」の記述などに基づき、人類の前に姿を現すであろう使徒の殲滅と共に、人類の進む道を決定付ける三大計画であった。EVAを用いてすべての使徒を殲滅した段階で、最終目的である人類補完計画が実行に移されるが、ゼーレと碇ゲンドウの思惑は、その大詰めで食い違いを見せる。これにより人類の補完のみは、予定とは異なるかたちでの進行を余儀なくされた。

▶ 三大計画関連組織

ゼーレ
↓ 影響力
国連
国連 → 直属 → 人類補完委員会
ゼーレ → 人員を派遣 → 人類補完委員会
人類補完委員会 → 指導及び監視 → NERV
ゼーレ → 影響力 → NERV
国連 ↓ 直轄
ゲヒルン
ゲヒルン → 移行 → NERV
ゲヒルン ↓ 隠れ蓑として利用
人工進化研究所

三大計画の実行役であるゲヒルン及びNERVは国連の下部組織である。しかし、実質的な影響力を持っているのはゼーレと、そのメンバーが派遣された人類補完委員会のみである。

アダム計画

第1使徒であり、使徒の始祖というべき存在とされる光の巨人アダム。その復元を目的とした計画と推測されるのがアダム計画である。EVAとの接触実験による碇ユイ消失を契機に、ゲヒルンの代表であったゲンドウは一週間失踪。復帰した彼が人類補完計画と同時にこの計画を提唱したと言われている。なお、加持リョウジがゲンドウに渡した胎児状体のアダムと呼ばれる生物は、セカンドインパクトにおいてバラバラになったアダムの肉体を復元したものと推測され、後にゲンドウの掌へと移植された。

復元中のアダムの肉体と思われる胎児状体の生物。硬化ベークライトによって固められた状態だが、生きている。

復元されたアダムの肉体はゲンドウの右掌に移植され、禁じられたリリスとの融合を果たすために用いられる。

E計画

その開始時期は2000年前後とも言われ、三大計画の中でも最初に着手されたE計画。「アダム再生計画」とも言われる同計画は、光の巨人アダムのコピーを生み出す計画であり、"E"は"EVANGELION"の頭文字と推測される。このプロジェクトによって汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンが建造された。2003年には零号機の頭部と脊髄部分の複数の試作パーツが冬月コウゾウに目撃されているが完成までには程遠く、実用化されるまでにはそれから実に10年以上の歳月が費やされている。

人類の技術で新たなアダムを生み出すE計画。セカンドインパクト発生の要因とも言われる存在を元にしてEVAが建造された。

NERV本部地下最深部に磔にされた巨人。当初これがアダムと称されていたが、その正体はリリスだった。

■ アダム及びリリスとEVA

零号機からEVA量産機（13号機）まで、アダムのコピーとして建造されたはずのEVA。しかし、ゼーレによれば初号機のみは、リリスの分身として建造されたと言う。また、初号機は人類補完計画にあたっては依り代の役割を果たしており、特殊な機体であったことが窺える。

零号機は第16使徒戦で自爆。弐号機は量産機によって原形を留めないほどに破壊された。初号機は人類補完計画に欠かせない"依り代"となり、量産機9機と共に計画発動の鍵となった。なお、初号機は計画終焉時に宇宙の彼方へと漂っていったが、量産機は活動を停止し全機地球へと降下したようだ。

人類補完計画

碇ゲンドウが立案し、アダム計画、E計画とともに遂行にあたっている計画。NERVの上位機関である人類補完委員会――実質的にはゼーレの指導のもと、使徒殲滅と重なる形で進められている。三大計画の中で最も重要なものと位置づけられる同計画は「できそこないの群体として行き詰った人類を完全な単体生物へと人工進化させる」ものとされて言われているが、計画のシナリオは提唱者であるゲンドウとゼーレでは異なる部分もあったようで、最終的に両者は決別することとなった。

ゲンドウに予定を狂わされたゼーレは、リリスの代わりに初号機を依り代として人類補完計画の発動を試みた。

結果的に人類は完全な単体生物へと人工進化することなく、シンジは自身が望んだ他人の存在する世界へと帰った。

■ 碇ゲンドウの動向

ゲンドウはその手にアダムを宿し、リリスの魂を持つレイと融合する「禁じられた融合」によって人類補完を行い、「人類の心の隙間を埋める」ことを目指したと思われる。しかし、その計画はレイの叛意によって実現しなかった。

リリスと融合したレイを、呆然と見上げるゲンドウ。彼の人類補完計画は、自我を得たレイの想いによって潰えた。

■ ゼーレの動向

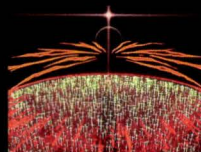
当初の計画を変更し、初号機を依り代とした人類補完計画を目指したゼーレ。NERV強制接収に乗り出した彼らは量産機9機を投入。弐号機を蹂躙した後、初号機を捕らえた量産機は上空に昇り、人類補完計画を発動させた。

NERV本部上空に現れた9体の量産機。S²機関を持つその機体もまた、人類補完計画発動に必要なものだった。

■ 人類補完計画の発動

ゼーレ主導のもとで発動された初号機を依り代とした人類補完計画。人類は完全な単体生物へと人工進化する道へと進むも、レイの導きとシンジの選択により、結果的に想定された補完には至らなかったものと思われる。

S²機関を解放した量産機は、アンチA.T.フィールドを展開。人類の補完が実行に移された。

補完進行中、個体生命の形状を失いL.C.L.と化していく人類のもとにはその姿を見つめるレイの姿があった。

巨大な羽が広がるとともに、地球上には多くの生命が輝いた。この後、シンジは自らが望んだ世界へ帰した。

※掲載しているグッズは2007年11月の情報です。なお一部、絶版などにより入手困難なものもありますのでご了承下さい。

GOODS COLLECTION #01

FIGURE

スタチューやアクションフィギュアなどの塗装済み完成品フィギュアを紹介。
名作ガレージキットのスタチュー版など常に新作がリリースされている。

FIGURE[KOTOBUKIYA] #01

綾波レイ
BMXトリックVer.

発売日：2007年6月
価格：4,410円（税込）
原型製作：白髭 創
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #02

綾波レイ
レースクィーンVer.

発売日：2007年3月
価格：3,990円（税込）
原型製作：YOSHI
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #03

綾波レイ
パーティードレスVer.

発売日：2007年5月
価格：3,990円（税込）
原型製作：河原隆幸
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #04

惣流・アスカ・ラングレー
制服Ver.

発売日：2007年5月
価格：3,990円（税込）
原型製作：徳永弘範
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #05

惣流・アスカ・ラングレー
部屋着Ver.

発売日：2007年6月
価格：3,990円（税込）
原型製作：稲垣 洋
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #06

惣流・アスカ・ラングレー
ゴスロリVer.

発売日：2005年7月
価格：5,040円（税込）
原型製作：西村 直起（Pilot）
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #07

レイ＆アスカ
プラグスーツVer.

発売日：2006年1月
価格：7,140円（税込）
原型製作：稲垣 洋
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KOTOBUKIYA] #08

シンジ＆カヲル
制服Ver.

発売日：2007年1月
価格：6,090円（税込）
原型製作：麻田 咲
発売元：壽屋
備考：PVC塗装済み完成品

FIGURE[KAIYODO] #01

フロイラインリボルテック

綾波レイ

発売日：2007年12月下旬予定
価格：【初回版】2,000円（税込）
【通常版】2,200円（税込）
原型製作：榎木ともひで
企画・制作：海洋堂
発売元：オーガニック

FRÄULEIN REVOLTECH

FIGURE[YAMATO] #01

Creators' Labo CL＃15
新世紀エヴァンゲリオン

綾波レイ 完成品

発売日：2007年12月予定
価格：7,140円（税込）
原型製作：吉沢光正
（REFLECT）
イラスト：山下しゅんや
発売元：やまと

FIGURE[BANDAI] #01

メタモフィギュア

惣流・アスカ・ラングレー

30℃以上

発売日：2007年2月
価格：3,980円（税込）
発売元：バンダイ
備考：30℃以上で、透明なワンピースに変化

FIGURE[VOLKS] #01

1/6スケール

綾波レイ

1/6スケール

惣流・アスカ・ラングレー 塗装済完成品

発売日：2007年9月　価格：各15,540円（税込）
原型製作：岬太郎（造形村）　発売元：ボークス
備考：ワンフェス前夜祭・ワンフェス会場先行販売後、ボークス各SR、通販隊、Webにて発売

FIGURE[VOLKS] #01

1/4スケール

綾波レイ 塗装済完成品

発売日：2007年10月27日
価格：60,900円（税込）
原型製作：北原=choro=康介（造形村）
発売元：ボークス
備考：ボークス各SR、通販隊、Webのイベントにて限定販売

GOODS COLLECTION #02 PETIT-EVA

GAINAX初のオフィシャルデフォルメエヴァとしてスタートとした「ぷちえゔぁ」。ミニフィギュアのリリース以外にも、マンガ化など含め様々な企画が動いている。

PETIT-EVA #01

【えゔぁぐらし】

第壱集

発売日：2007年5月
価格：450円（税込）
ラインナップ：全8種類（碇シンジ、惣流·アスカ·ラングレー、綾波レイ（長女）、綾波レイ（次女）、綾波レイ（三女）、エヴァンチョー、綾波レイ（長女）★、ミサト先生）＋シークレット
発売元：バンダイ
備考：ブラインドボックスにて販売

◀碇シンジ
◀惣流·アスカ·ラングレー
◀綾波レイ（長女）
◀綾波レイ（次女）
▶綾波レイ（三女）
◀エヴァンチョー
◀綾波レイ（長女）★
◀ミサト先生
▶JA子（シークレット）

PETIT-EVA #02

【えゔぁぐらし】

第弐集

発売日：2007年10月
価格：450円（税込）
ラインナップ：全9種類（渚カヲル、綾波レイ（プラグ水着）、惣流·アスカ·ラングレー（体操服）、惣流·アスカ·ラングレー（プラグ水着）、伊吹マヤ（アイドル歌手）、エヴァンチョー（リペイント）、赤木リツコ、洞木ヒカリ、トウジ＆ケンスケ）＋シークレット
発売元：バンダイ
備考：ブラインドボックスにて販売

◀渚カヲル
◀惣流·アスカ·ラングレー（体操服）

◀伊吹マヤ（アイドル歌手）
▶惣流·アスカ·ラングレー（プラグ水着）
◀綾波レイ（プラグ水着）

▶エヴァンチョー（リペイント）

◀赤木リツコ
▶洞木ヒカリ

▶トウジ＆ケンスケ

▶キールさん（シークレット）

PETIT-EVA #03

【ぷちえゔぁ】

カヲル＆シンジVer.

【ぷちえゔぁ】

綾波＆アスカVer.

発売日：ー
価格：ー
製作：バンダイ
備考：Newtype／Newtype Romance応募者全員サービス

◀▲綾波＆アスカVer.
◀▲カヲル＆シンジVer.

PETIT-EVA #04

ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序
ローソン限定「ぷちえゔぁ」グッズ付きチケット

綾波レイ ペンペンストラップ

引き渡し日：2007年8月30日
価格：【「ぷちえう゛ぁ 綾波レイ」付前売券（一般）】1,750円（税込）
【「ぷちえう゛ぁ ペンペンストラップ」付前売券（一般）】1,900円（税込）
製作：バンダイ

▶綾波レイ
▲ペンペンストラップ

※発売から時間の経過している商品は、生産·販売が終了している場合がございます。ご了承ください。

GOODS COLLECTION #03 ANGEL-XX

吉崎観音氏×GAINAXのコラボ企画としてスタートした「使徒XX」。立体物に造詣の深い吉崎氏ならではの遊び心あふれるデザインとこだわりの造形が魅力のシリーズである。

ANGEL-XX #01

使徒XX

A-03 サキエル-XX

発売日：2006年1月
原型製作：創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
価格：2,604円（税込）

ANGEL-XX #02

使徒XX

A-14 ゼルエル-XX

発売日：2006年2月
原型製作：創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
価格：2,604円（税込）

ANGEL-XX #03

使徒XX

A-17 タブリス-XX

発売日：2006年2月
原型製作：
創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
価格：2,604円（税込）

ANGEL-XX #04

使徒XX

A-02 リリス≒XX

発売日：2006年3月下旬
原型製作：
創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
価格：2,604円（税込）

ANGEL-XX #05

使徒XX

CODE：BE

予約開始日：2005年11月
価格：2,604円（税込）
原型製作：創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
備考：EVANGELION STORE限定販売
（再販予定なし）

ANGEL-XX #06

使徒XX

A-16 アルミサエル-XX

発売日：－
価格：－
原型製作：
創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE
備考：少年エース限定モデル

ANGEL-XX #07

続：使徒XX

A-15 アラエル-XX

発売日：2007年1月
価格：3,129円（税込）
原型製作：zenko（硫黄泉）
発売元：WAVE

ANGEL-XX #08

続：使徒XX

A-10 サハクイエル-XX

発売日：2007年3月
価格：2,604円（税込）
原型製作：創造集団ＯＷＬ
発売元：WAVE

ANGEL-XX #09

続：使徒XX

A-04 シャムシエル-XX

発売日：2007年8月
価格：2,940円（税込）
原型製作：林 浩己
発売元：WAVE

ANGEL-XX #10

使徒XXnano！

サキエルXXnano!

発売日：2007年11月予定
価格：1,890円（税込）
原型製作：zenko（硫黄泉）
発売元：WAVE

ANGEL-XX #11

使徒XXnano！

リリス≒XXnano!

発売日：2007年11月予定
価格：1,890円（税込）
原型製作：林 浩己
発売元：WAVE

ANGEL-XX #14

使徒XXnano！

レリエルXXnano!

発売日：2008年3月予定
価格：1,890円（税込）
原型製作：zenko（硫黄泉）
発売元：WAVE

ANGEL-XX #12

使徒XXnano！

タブリスXXnano!

発売日：2008年3月予定
価格：1,890円（税込）
原型製作：林 浩己
発売元：WAVE

ANGEL-XX #13

使徒XXnano！

ゼルエルXXnano!

発売日：2008年3月予定
価格：1,890円（税込）
原型製作：zenko（硫黄泉）
発売元：WAVE

GOODS COLLECTION #04 SEGA PRIZE

UFOキャッチャーに代表されるプライズマシンの景品として人気のセガプライズ。
ここでは2006年12月～2007年10月までのラインナップを紹介しよう。

SEGA PRIZE #01

新世紀エヴァンゲリオン
ハイグレード プラグスーツ フィギュア

展開時期：2007年2月
ラインナップ：全2種
原型製作：
宮川武（T's system.）
発売元：セガ

SEGA PRIZE #02

新世紀エヴァンゲリオン
オルゴール フィギュア Ver.3

展開時期：2007年3月
ラインナップ：全2種
原型製作：
山本苦力猿／水簾洞
発売元：セガ

SEGA PRIZE #03

新世紀エヴァンゲリオン
エクストラ スクール水着 フィギュア feat.ぽよよん・ろっく

展開時期：2006年12月
ラインナップ：全2種
原型製作：桜坂美紀
（チェリーブロッサム）
モデルデザイン：
ぽよよん・ろっく
発売元：セガ

SEGA PRIZE #04

新世紀エヴァンゲリオン
エクストラ フィギュア パジャマ ベイビー

展開時期：2007年1月
ラインナップ：全2種
原型製作：
片桐克洋（Vispo）
発売元：セガ

SEGA PRIZE #05

新世紀エヴァンゲリオン
エクストラ大冒険 フィギュア feat.八雲剣豪

展開時期：2007年4月
ラインナップ：全2種
原型製作：
YOSHI（とればんぐ）
製品版イラスト：八雲剣豪
発売元：セガ

SEGA PRIZE #06

新世紀エヴァンゲリオン
エクストラ アフロディーテ フィギュアVer.2

展開時期：2007年6月
ラインナップ：全2種
原型製作：【綾波レイ】
KaNA（ヘビーゲイジ）
【惣流・アスカ・ラングレー】
志賀弘臣（unsweet）
発売元：セガ

SEGA PRIZE #07

新世紀エヴァンゲリオン
エクストラフィギュア まつりのよるに feat.okama

展開時期：2007年7月
ラインナップ：全2種
原型製作：zenko（硫黄泉）
モデルデザイン：okama
発売元：セガ

SEGA PRIZE #08

新世紀エヴァンゲリオン

エクストラフィギュア 綾波育成計画 Ver.2

展開時期：2007年9月
ラインナップ：全2種
原型製作：西村直起（pilot）
発売元：セガ

SEGA PRIZE #09

新世紀エヴァンゲリオン

新世紀エヴァンゲリオン エクストラフィギュア白と赤

展開時期：2007年10月
ラインナップ：全2種
原型製作：西村直起（pilot）
イメージイラスト：緒方剛志
発売元：セガ

SEGA PRIZE #10

新世紀エヴァンゲリオン

ハイグレードチャイナドレスフィギュア セガ別注Ver.2

展開時期：2007年8月
ラインナップ：全2種
原型製作：あげたゆきを
発売元：セガ

SEGA PRIZE #11

新世紀エヴァンゲリオン

エピソードミニディスプレイフィギュアシリーズ2

展開時期：2007年2月
ラインナップ：全5種
モデルデザイン：藤田幸久
発売元：セガ

SEGA PRIZE #12

新世紀エヴァンゲリオン

ホラーサマーミニディスプレイフィギュア

展開時期：2007年8月
ラインナップ：全4種
モデルデザイン：藤田幸久
発売元：セガ

SEGA PRIZE #13

新世紀エヴァンゲリオン

パブミラーVol.3

展開時期：2007年5月
ラインナップ：全5種
発売元：セガ

EXTRA COLUMN

セガプライズコレクション

セガプライズのフィギュアは、「ハイグレードフィギュア」や「エクストラフィギュア」など多彩なシリーズが存在する。そして、綾波やアスカキャラクターが、いわゆるコスプレをしたフィギュアは、"オリジナルシチュエーションシリーズ"とも呼ばれ、特に人気がある。また、各シリーズにおいて、夢が広がるアイテムとして当代の人気原型師が起用されていることも、見逃せない。

●セガ別注モデル

滅多にリリースされることのないセガ施設限定レアアイテム。人気のあったプライズのカラーバリエーションとしてリリースされ、フィギュアには"SEGA"のロゴが入る。

●ハイグレードフィギュア

宮川武氏やあげたゆきを氏などの有名原型師を起用、高い完成度を追及したシリーズ。全高20cm以上と、他のプライズより大きいフィギュアが多いのも特徴のひとつである。

●エクストラフィギュア

オリジナルシチュエーションに特化したシリーズで、綾波やアスカの様々なコスチューム姿をフィギュア化。モデルデザインに人気イラストレーターを起用したコラボ企画も多い。

GOODS COLLECTION #05 GASHAPON・CANDY TOY

トイショップやコンビニなどで手軽に入手できるガシャポンやキャンディトイ。安価なミニフィギュアながら、そのクオリティは侮れない。

GASHAPON #01

HGIF新世紀エヴァンゲリオン

貞本義行コレクションSP〜新劇場版公開記念〜

発売日：2007年9月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全7種類（レイ（プラグスーツ）、アスカ（プラグスーツ）、ヒカリ、レイ（制服）、ミサト、シンジ＆ペンペン、カヲル）
発売元：バンダイ

GASHAPON #02

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

〜貞本義行コレクション〜

発売日：2003年5月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（綾波レイ、惣流・アスカ・ラングレー、葛城ミサト、洞木ヒカリ、レイ＆アスカ）
発売元：バンダイ

GASHAPON #03

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

〜貞本義行コレクション2〜

発売日：2003年12月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（水着のレイ＆アスカ、葛城ミサト、伊吹マヤ、赤木リツコ、碇シンジ）
発売元：バンダイ

GASHAPON #04

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

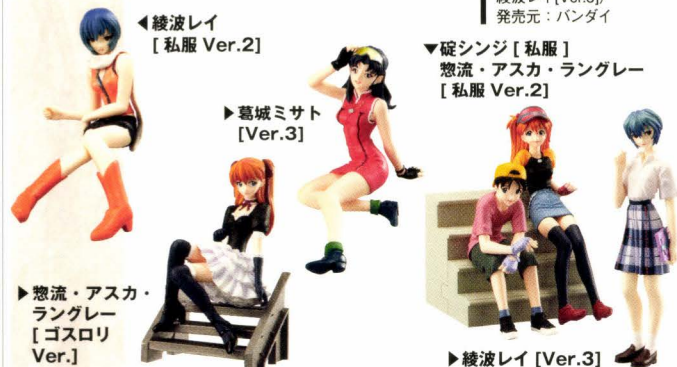
〜貞本義行コレクション3〜

発売日：2003年12月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全7種類（綾波レイ①、綾波レイ②、惣流・アスカ・ラングレー①、惣流・アスカ・ラングレー②、惣流・アスカ・ラングレー③、碇ユイ、渚カヲル）
発売元：バンダイ

GASHAPON #05

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

〜貞本義行コレクション4〜

発売日：2004年9月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（惣流・アスカ・ラングレー[ゴスロリVer.]、綾波レイ[私服Ver.2]、葛城ミサト[Ver.3]、碇シンジ[私服]、惣流・アスカ・ラングレー[私服Ver.2]、綾波レイ[Ver.3]）
発売元：バンダイ

GASHAPON #06

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

～貞本義行コレクション5～

発売日：2006年3月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（綾波レイ①、綾波レイ②、惣流・アスカ・ラングレー①、惣流・アスカ・ラングレー②、碇シンジ、鈴原トウジ）
発売元：バンダイ

▶綾波レイ②
▶惣流・アスカ・ラングレー②
▶綾波レイ①
▲惣流・アスカ・ラングレー①
◀碇シンジ
▲鈴原トウジ

GASHAPON #07

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

ビーチサイドコレクション

発売日：2006年9月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（綾波レイ[パレオ]、綾波レイ[プールサイド]、綾波レイ[スクール水着]、綾波レイ[競泳水着]、惣流・アスカ・ラングレー[サンオイル]、惣流・アスカ・ラングレー[ハイビスカス]）
発売元：バンダイ

▼綾波レイ［スクール水着］
▶綾波レイ［競泳水着］
◀綾波レイ［プールサイド］
▲綾波レイ［パレオ］
▼惣流・アスカ・ラングレー［サンオイル］
▲惣流・アスカ・ラングレー［ハイビスカス］

GASHAPON #08

HGIFシリーズ
新世紀エヴァンゲリオン

ビーチサイドコレクションVer.1.5

発売日：2007年4月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（綾波レイ[パレオ]、綾波レイ[プールサイド]、綾波レイ[スクール水着]、綾波レイ[競泳水着]、惣流・アスカ・ラングレー[サンオイル]、惣流・アスカ・ラングレー[ハイビスカス]）
発売元：バンダイ

▶綾波レイ［パレオ］
▼綾波レイ［スクール水着］
▶綾波レイ［競泳水着］
▼惣流・アスカ・ラングレー［ハイビスカス］
▼惣流・アスカ・ラングレー［サンオイル］
▶綾波レイ［プールサイド］

GASHAPON #09

新世紀エヴァンゲリオン

トリコレ！

発売日：2006年5月
価格：200円（税込）
ラインナップ：全6種類（綾波レイ[制服]、綾波レイ[プラグスーツ]、惣流・アスカ・ラングレー[制服]、惣流・アスカ・ラングレー[プラグスーツ]、惣流・アスカ・ラングレー[スクール水着]、洞木ヒカリ）
発売元：バンダイ

▶惣流・アスカ・ラングレー［スクール水着］

▲綾波レイ［制服］

▼惣流・アスカ・ラングレー［ワンピース］

▲綾波レイ［プラグスーツ］

▼惣流・アスカ・ラングレー［プラグスーツ］

▲洞木ヒカリ

※発売から時間の経過している商品は、生産・販売が終了している場合がございます。ご了承ください。

GASHAPON #10

新世紀エヴァンゲリオン アルティメットアクション
エヴァンゲリオン 第壱集

発売日：2006年8月
価格：300円（税込）
ラインナップ：全5種類（初号機、零号機、弐号機、サキエル、エヴァ専用輸送台＆武器セット）
発売元：バンダイ

GASHAPON #11

新世紀エヴァンゲリオン アルティメットアクション
エヴァンゲリオン 第弐集

発売日：2007年1月
価格：300円（税込）
ラインナップ：全6種類（初号機、弐号機、参号機、イスラフェル甲、イスラフェル乙、エヴァ専用輸送台＆武器セット）
発売元：バンダイ

CANDY TOY #01
新世紀エヴァンゲリオン2

発売日：2004年5月
価格：367円（税込）
セット内容：ラムネ菓子、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全4種類（エヴァンゲリオンF型装備、JA改、綾波レイ、惣流・アスカ・ラングレー）＋α
発売元：バンダイ

CANDY TOY #02
新世紀エヴァンゲリオン キャラクターズTYPE-F

発売日：2006年3月
価格：399円（税込）
セット内容：ガム、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全5種類（エヴァンゲリオン初号機F型装備、エヴァンゲリオン弐号機F型装備、エヴァンゲリオン零号機F型装備、綾波レイ、惣流・アスカ・ラングレー）＋α
発売元：バンダイ

CANDY TOY #03

新世紀エヴァンゲリオン PORTRAITS

発売日：2007年1月
価格：420円（税込）
セット内容：ガム、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全5種類（綾波レイ、惣流・アスカ・ラングレーA、惣流・アスカ・ラングレーB、葛城ミサト、赤木リツコ）＋シークレット
発売元：バンダイ

◀惣流・アスカ・ラングレーB
▶葛城ミサト
▼赤木リツコ
◀惣流・アスカ・ラングレーA
▶綾波レイ
▶綾波レイ（シークレット）

CANDY TOY #04

新世紀エヴァンゲリオン PORTRAITS2

発売日：2007年5月
価格：420円（税込）
セット内容：ガム、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全5種類（綾波レイA、綾波レイB、惣流・アスカ・ラングレー、葛城ミサト、伊吹マヤ）＋シークレット
発売元：バンダイ

▶葛城ミサト
◀綾波レイA
▶惣流・アスカ・ラングレー（シークレット）
◀綾波レイB
▶伊吹マヤ
▶惣流・アスカ・ラングレー

CANDY TOY #05

新世紀エヴァンゲリオン PORTRAITS3

発売日：2007年7月
価格：420円（税込）
セット内容：ガム、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全5種類（惣流・アスカ・ラングレーA、惣流・アスカ・ラングレーB、綾波レイ、洞木ヒカリ、碇シンジ）＋シークレット
発売元：バンダイ

▶惣流・アスカ・ラングレーB（シークレット）
▶碇シンジ
▼惣流・アスカ・ラングレーB
◀綾波レイ
◀洞木ヒカリ
▶惣流・アスカ・ラングレーA

CANDY TOY #06

新世紀エヴァンゲリオン PORTRAITS4

発売日：2007年11月
価格：420円（税込）
セット内容：ガム、彩色済みフィギュア
ラインナップ：全5種類（惣流・アスカ・ラングレー、綾波レイA、綾波レイB、葛城ミサト、渚カヲル）＋シークレット
発売元：バンダイ

▶綾波レイA
▼葛城ミサト
▶渚カヲル
◀綾波レイB（シークレット）
▲綾波レイB
▶惣流・アスカ・ラングレー

※発売から時間の経過している商品は、生産・販売が終了している場合がございます。ご了承ください。

GOODS COLLECTION #06 SOUL OF CHOGOKIN・PLA-MODEL

超合金とプラモデルは、ロボットアニメの王道とも言うべきキャラクターグッズである。初号機を始めとするEVAや使徒が作品中での迫力そのままに立体化されている。

SOUL SPEC #01

超合金

魂SPEC
人造人間エヴァンゲリオン初号機
シンクロ率400%バージョン

発売日：2007年8月
価格：5,250円（税込）
発売元：バンダイ
備考：Yahoo！ JAPAN限定

SOUL SPEC #02

超合金

魂SPEC
エヴァンゲリオン初号機

発売日：2007年1月
価格：オープン価格
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #01

超合金

GX-14
エヴァンゲリオン初号機

発売日：2003年6月
価格：5,775円（税込）
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #02

超合金

GX-15
エヴァンゲリオン弐号機

発売日：2003年7月
価格：5,775円（税込）
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #03

超合金

GX-16
エヴァンゲリオン零号機改

発売日：2003年8月
価格：5,775円（税込）
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #04

超合金

GX-17
エヴァンゲリオン零号機

発売日：2003年9月
価格：5,775円（税込）
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #05

超合金

GX-21
エヴァンゲリオン参号機

発売日：2004年3月
価格：5,775円（税込）
発売元：バンダイ

SOUL OF CHOGOKIN #06

超合金

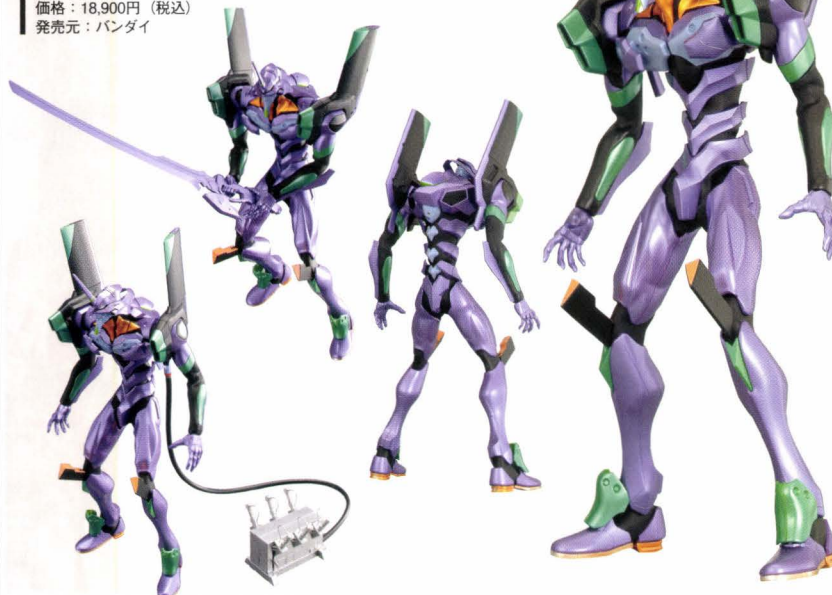
GX-22
エヴァンゲリオン四号機

発売日：2004年3月
価格：6,825円（税込）
発売元：バンダイ

ソフビ
SOUL OF SFB #01
ソフビ魂
サキエル
発売日：2007年9月
価格：2,100円（税込）
発売元：バンダイ

ソフビ
SOUL OF SFB #02
ソフビ魂
シャムシエル
発売日：2007年9月
価格：2,100円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
PERFECT GRADE #02
PG
エヴァンゲリオン初号機
発売日：1997年12月
価格：10,500円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
PERFECT GRADE #01
PG
エヴァンゲリオン初号機
〔リミテッドコーティングエディション〕
発売日：2006年7月
価格：18,900円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #01
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン初号機
発売日：1996年9月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #02
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン弐号機
発売日：1996年9月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #03
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン零号機
発売日：1996年10月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #04
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン零号機（改）
発売日：1996年11月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #05
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン参号機

発売日：1996年11月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #06
LMHGシリーズ
第13使徒バルディエル

発売日：1997年2月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

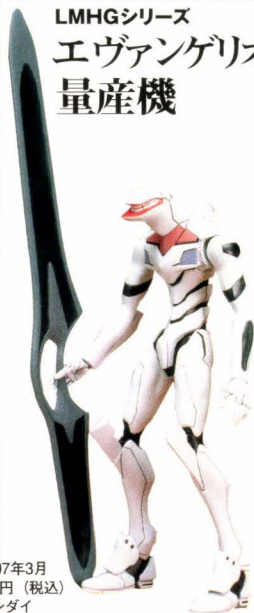
プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #09
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン4号機

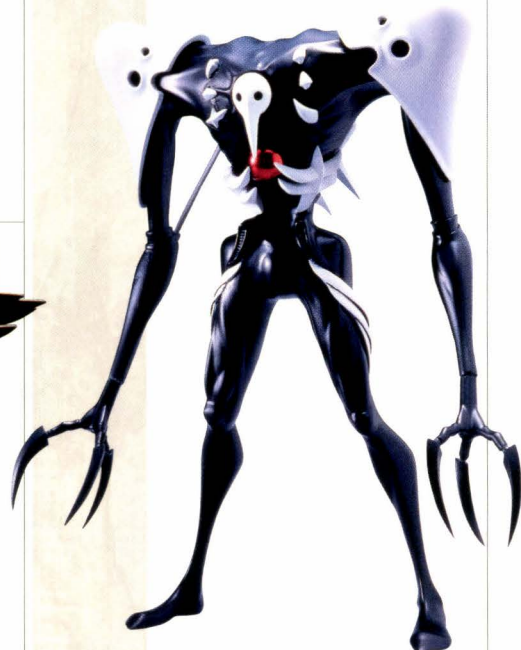
発売日：1997年9月
価格：3,150円（税込）
発売元：バンダイ

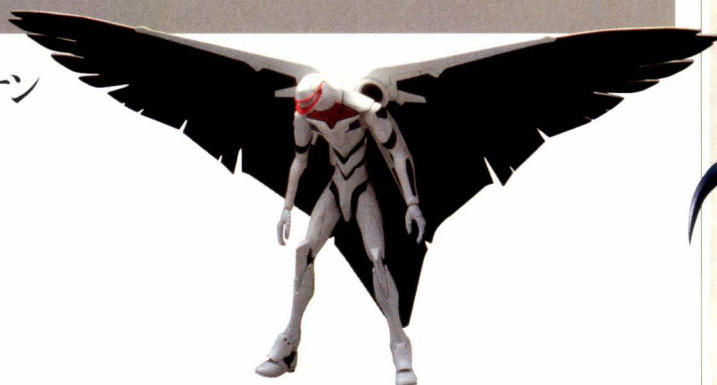
プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #07
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン初号機
〔輸送台仕様〕

発売日：1997年3月
価格：3,675円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #08
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン量産機

発売日：1997年3月
価格：2,625円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #11
LMHGシリーズ
第3使徒サキエル

発売日：1997年11月
価格：3,150円（税込）
発売元：バンダイ
絶版

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #10
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン量産機
〔最終決戦仕様〕

発売日：1997年11月
価格：3,150円（税込）
発売元：バンダイ
絶版

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #12
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン初号機
〔F型装備〕

発売日：2003年11月
価格：3,150円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL HIGH GRADE #13
LMHGシリーズ
エヴァンゲリオン初号機
〔エクストラフィニッシュVer.〕

発売日：2006年1月
価格：5,250円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #01
LMシリーズ
エヴァンゲリオン初号機

発売日：1996年3月
価格：1,050円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #02
LMシリーズ
エヴァンゲリオン弐号機

発売日：1996年5月
価格：1,050円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #03
LMシリーズ
エヴァンゲリオン零号機(改)

発売日：1996年6月
価格：1,050円（税込）
発売元：バンダイ

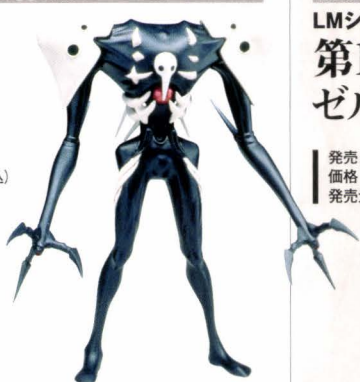
プラモデル
LIMITED MODEL #04
LMシリーズ
エヴァンゲリオン零号機
プロトタイプ

発売日：1996年11月
価格：1,050円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #05
LMシリーズ
エヴァンゲリオン参号機

発売日：1996年11月
価格：1,050円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #06
LMシリーズ
第3使徒サキエル

発売日：1997年1月
価格：1,260円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #07
LMシリーズ
第14使徒ゼルエル

発売日：1997年3月
価格：1,260円（税込）
発売元：バンダイ

プラモデル
LIMITED MODEL #08
LMシリーズ
エヴァンゲリオン量産機

発売日：1997年3月
価格：1,260円（税込）
発売元：バンダイ

GOODS COLLECTION #07 CHARACTER DOLL

ドールヘア、着せ替えコスチュームなどを持つキャラクタードールとなった綾波やアスカ。その存在感は、多くのフィギュアの中でも、より"人"に近いものがある。

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #01

ドルフィードリーム
綾波レイ 水着Ver.

発売日：2004年2月
価格：31,290円（税込）
発売元：ボークス
備考：WEB限定予約取扱商品

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #02

ドルフィードリーム
綾波レイ用制服

発売日：2004年
価格：15,540円（税込）
セット内容：制服（リボンタイ、シャツ、スカート）、ブラジャー、パンツ、デッキシューズ、カバン
（本商品にドール本体とウィッグは付属しておりません）
発売元：ボークス
備考：WEB限定予約取扱商品

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #03

ドルフィードリーム
綾波レイ 転校生Ver.

発売日：2004年5月
価格：41,790円（税込）
発売元：ボークス
備考：ホームタウンドルパ東京2限定販売

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #04

27cmドルフィー
綾波レイ

発売日：2004年8月
価格：12,390円（税込）
発売元：ボークス
備考：ドールズ・パーティー11会場限定品

CHARACTER DOLL [DOLLFIE] #05

27cmドルフィー

綾波レイ

発売日：2006年5月
価格：12,600円（税込）
発売元：ボークス
備考：ドールズ・パーティー15会場限定品

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #06

27cmドルフィー

惣流・アスカ・ラングレー

発売日：2005年5月
価格：12,915円（税込）
発売元：ボークス
備考：ドールズ・パーティー13会場限定品

CHARACTER DOLL [DOLLFIE] #08

27cmドルフィー

ゴスロリ・アスカ

発売日：2006年12月
価格：12,600円（税込）
発売元：ボークス
備考：ドールズ・パーティー16会場限定品

CHARACTER DOLL[DOLLFIE] #07

27cmドルフィー

惣流・アスカ・ラングレー

ワンピースVer.

発売日：2006年5月
価格：12,600円（税込）
発売元：ボークス
備考：ドールズ・パーティー15会場限定品

CHARACTER DOLL[RAH] #01

REAL ACTION HEROES

綾波レイ

（プラグスーツVer.）

発売日：2006年2月
価格：13,440円（税込）
発売元：メディコム・トイ

CHARACTER DOLL [RAH] #02

REAL ACTION HEROES

綾波レイ

（包帯Ver.）

発売日：2006年12月
価格：13,440円（税込）
発売元：メディコム・トイ

CHARACTER DOLL [RAH] #03

REAL ACTION HEROES

惣流・アスカ・ラングレー

（プラグスーツVer.）

発売日：2006年2月
価格：13,440円（税込）
発売元：メディコム・トイ

CHARACTER DOLL [RAH] #04

REAL ACTION HEROES

惣流・アスカ・ラングレー

黄色ワンピースVer.

発売日：2007年5月
価格：14,490円（税込）
発売元：メディコム・トイ
販売元：EVANGELION STORE（株式会社ガイナックス）
備考：EVANGELION STORE限定商品

CHARACTER DOLL[MOMOKO] #01

momoko DOLL as GAINAX Girls

綾波レイ

発売日：2006年8月21日
価格：16,800円（税込）
発売元：（株）セキグチ

GOODS COLLECTION #08

HUMAN SCALE FIGURE

人と同等のサイズ、つまり綾波などのキャラクターであれば1/1サイズとなる等身大フィギュア。まさに究極のフィギュアであり、究極のファンアイテムと言えよう。

HUMAN SCALE FIGURE #01

ヒューマンスケールフィギュア

エヴァンゲリオン初号機

発売日：2007年2月
価格：【定置台座セット】
1,083,600円（税込）
【移動台座セット】
1,107,750円（税込）
発売元：秋山工房

HUMAN SCALE FIGURE #02

[plugsuit version]

綾波レイ等身大フィギュア

発売日：2007年8月
価格：430,000円（税込）
発売元：秋山工房

HUMAN SCALE FIGURE #03

等身大フィギュア

綾波レイ

価格：472,500円（税込）
発売元：ペーパームーン
備考：可動タイプ

HUMAN SCALE FIGURE #05

等身大フィギュア

惣流・アスカ・ラングレー

価格：367,500円（税込）
発売元：ペーパームーン
備考：固定タイプ

HUMAN SCALE FIGURE #04

等身大フィギュア

綾波レイ

価格：380,000円（税込）
発売元：ペーパームーン
備考：固定タイプ（発注時に新規メイク、既存メイクの選択可能）

▶新規メイク

▲既存メイク

HUMAN SCALE FIGURE #06

アスカ用オプション

黄色のワンピース

価格：42,000円（税込）
発売元：ペーパームーン
備考：フィギュア本体は付属しておりません

HUMAN SCALE FIGURE #07

等身大フィギュア

惣流・アスカ・ラングレー／ビキニスタイル

価格：250,000円（税込）
発売元：ペーパームーン
備考：コトブキヤ限定商品。

EXTRA COLUMN

海洋堂版等身大フィギュア

海洋堂直営店“ホビーロビー東京”の店頭には、等身大サイズの綾波レイと初号機が展示されている。この綾波は、海外でも高く評価されている原型師のBOME氏製作のガレージキットを等身大化したもので、かつて数量限定でリリースされた1/1フィギュアである。一方、初号機は、ロボット原型師の第１人者として“ロボ師”と称された佐藤拓氏原型のガレージキットを等身大化した作品。こちらは1点モノとなっている。

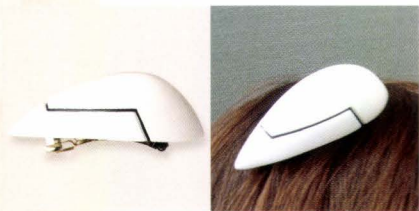
■ホビーロビー東京
住所／東京都千代田区外神田1-15-16ラジオ会館4F
営業時間／11：00～20：00（水曜日定休）
TEL：03-3253-1951

GOODS COLLECTION #09 APPAREL

エヴァのTシャツは、NERVロゴや作品自体を記号化したデザイン性の高いものが多い。また、ストリート系のショップとのコラボTシャツなどもリリースされている。

新世紀エヴァンゲリオン

インターフェイス

カラー：白（綾波Ver）／赤（アスカVer）
価格：各1,575円
発売元：COSPA

▲綾波Ver

▲アスカVer

APPAREL[COSPA] #02

新世紀エヴァンゲリオン

綾波ボウリングシャツ

サイズ：M／L
カラー：黒×クリーム／ベージュ×ブラウン
価格：15,540円（税込）
発売元：COSPA

▲黒×クリーム

▲ベージュ×ブラウン

APPAREL[COSPA] #03

新世紀エヴァンゲリオン

月と綾波Tシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：黒／白
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #04

新世紀エヴァンゲリオン

最後のシ者Tシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #05

新世紀エヴァンゲリオン

あんたバカァ？Tシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：赤／ライトベージュ
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #06

新世紀エヴァンゲリオン

チャ～ンスTシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：赤／白
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

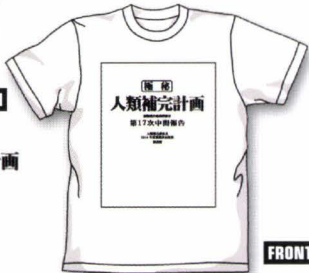
APPAREL[COSPA] #07
新世紀エヴァンゲリオン
ネルフTシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：白／黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

T-SHIRT[COSPA] #08
新世紀エヴァンゲリオン
プラグスーツ01 Tシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #09
新世紀エヴァンゲリオン
人類補完計画Tシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：白／黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #10
新世紀エヴァンゲリオン
逃げちゃ駄目だTシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：黒／赤
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #11
新世紀エヴァンゲリオン
ATフィールドTシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #12
新世紀エヴァンゲリオン
エマージェンシーTシャツ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：白／黒
価格：3,045円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #13
平常心タンクトップ

サイズ：S／M／L／XL
カラー：白
価格：2,625円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[COSPA] #06
第3新東京市立第壱中学校女子制服

サイズ：M／L
セット：ブラウス、ワンピース、胸リボン、靴下2種類
価格：10,290円（税込）
発売元：COSPA

▶制服

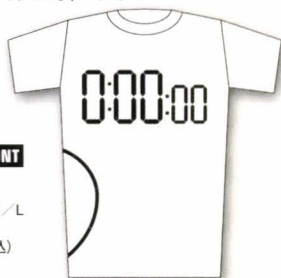
▲ソックス

APPAREL[COSPA] #14
LILITHデニム

発売日：11月中旬
サイズ：30／32／34／36inch
価格：31,290円（税込）
発売元：COSPA

APPAREL[BEAMS] #01

EVANGELION×BEAMS T
コラボレーションTシャツ

0:00:00-活動限界

サイズ：XS／S／M／L
カラー：白
価格：5,040円（税込）
発売元：BEAMS

APPAREL[BEAMS] #02

EVANGELION×BEAMS T
コラボレーションTシャツ

Ayanami

サイズ：XS／S／M／L
カラー：黒
価格：5,040円（税込）
発売元：BEAMS

APPAREL[COSPA] #03

EVANGELION×BEAMS T
コラボレーションTシャツ

Anti H.I.P

サイズ：XS／S／M／L
カラー：白
価格：5,040円（税込）
発売元：BEAMS

APPAREL[BEAMS] #04

EVANGELION×BEAMS T
コラボレーションTシャツ

I mustn't run away

サイズ：XS／S／M／L
カラー：黒
価格：5,040円（税込）
発売元：BEAMS

APPAREL[RISK] #01

EVANGELION×RISK
コラボレーションTシャツ

綾波レイ&7angels

サイズ：S／M／L
カラー：白
価格：5,000円（税込）
発売元：RISK

APPAREL[RISK] #02

EVANGELION×RISK
コラボレーションTシャツ

EVA初号機 SKATE BOARD

サイズ：S／M／L
カラー：黒／白
価格：5,000円（税込）
発売元：RISK

APPAREL[HEX ANTISTYLE] #01

EVA×HEX ANTISTYLE
コラボレーションTシャツ

アダム

サイズ：M／L
カラー：紫／白／赤
価格：5,775円（税込）
発売元：HEX ANTISTYLE

APPAREL[HEX ANTISTYLE] #02

EVA×HEX ANTISTYLE
コラボレーションTシャツ

SEELE06

サイズ：M／L
カラー：黒／赤
価格：5,775円（税込）
発売元：HEX ANTISTYLE

APPAREL[EVA ATWORK] #01

「EVA AT WORK」work01

敵スタイルTシャツ

サイズ：M／L
カラー：アイボリー／白／黒
価格：4,410円（税込）
発売元：POINT

APPAREL[GAINAX] #01
貞本義行イラスト
復刻エヴァTシャツ
レイ
サイズ：L
カラー：黒
価格：4,725円（税込）
発売元：GAINAX

FRONT
PRINT DESIGN

APPAREL[GAINAX] #02
貞本義行イラスト
復刻エヴァTシャツ
アスカ
サイズ：L
カラー：黒
価格：4,725円（税込）
発売元：GAINAX

FRONT
PRINT DESIGN

APPAREL[BANDAI] #01
初号機Tシャツ
サイズ：S／M／L
カラー：黒
価格：各2,940円（税込）
発売元：BANDAI

FRONT

APPAREL[BANDAI] #02
綾波レイTシャツ
サイズ：S／M／L
カラー：白
価格：各2,940円（税込）
発売元：BANDAI

FRONT

APPAREL[BANDAI] #03
アスカTシャツ
サイズ：S／M／L
カラー：赤
価格：各2,940円（税込）
発売元：BANDAI

FRONT

EXTRA COLUMN

全話Tシャツ

エヴァのTシャツは、従来のアニメーショングッズと一線を画すデザイン性の高いものが多い。かつてムービックよりリリースされた全話Tシャツは、エヴァならではのアイテムと言える。サブタイトルがプリントされたTシャツは、シンプルながらインパクト大である。

第壱話
使徒、襲来

第弐話
見知らぬ、天井

第参話
鳴らない、電話

第四話
雨、逃げ出した後

第伍話
レイ、心のむこうに

第六話
決戦、第3新東京市

第七話
人の造りしもの

第八話
アスカ、来日

第九話
瞬間、心、重ねて

第拾話
マグマダイバー

第拾壱話
静止した闇の中で

第拾弐話
奇跡の価値は

第拾参話
使徒、侵入

第拾四話
ゼーレ、魂の座

第拾伍話
嘘と沈黙

第拾六話
死に至る病、そして

第拾七話
四人目の適格者

第拾八話
命の選択を

第拾九話
男の戦い

第弐拾話
心のかたち 人のかたち

第弐拾壱話
ネルフ、誕生

第弐拾弐話
せめて、人間らしく

第弐拾参話
涙

第弐拾四話
最後のシ者

第弐拾伍話
終わる世界

最終話
世界の中心でアイを叫んだけもの

第25話
Air

第26話
まごころを、君に

NEON GENESIS EVANGELION 1993-2007
新世紀エヴァンゲリオン年代記

作品企画の立ち上げより14年間にも及ぶエヴァの軌跡を年表として紹介。
エヴァは企画「人造人間エヴァンゲリオン」からスタート、
庵野監督によるアニメ化と貞本氏によるコミック化が進められた。
アニメシリーズ完結後、現在に至るまでコミック版は連載が続いており、
2007年9月には新劇場版も公開。その歩みは今も続く。

1993年

9月20日　ガイナックス社内検討企画案（第1稿）「人造人間エヴァンゲリオン」提出

1994年

1月5日　企画案（第2稿）、および全26話のプロット完成❶

4月　外部用企画書完成

9月　第壱話、第弐話作画開始

12月26日　「月刊 少年エース」2月号（創刊3号）にてコミック版「新世紀エヴァンゲリオン」連載開始

❶新世紀エヴァンゲリオン企画書（第2稿）

1995年

3月3日〜12日　角川書店「Newtype」10周年を記念したイベント「10Daysアミューズメントパーク」にて、エヴァのパネルを展示。この際、パネルのイラストを使用した告知葉書も配布された

9月1日　**コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume1」発売** 1

7月22・23日　イベント「ガイナ祭'95」にて「新世紀エヴァンゲリオン」第壱話、および第弐話の16ミリフィルムを上映

8月　ガレージキット（GK）イベント「ワンダーフェスティバル」にて、GK第1弾「エヴァンゲリオン初号機」（吉山治樹氏原型）発売。この吉山氏による初号機は、そもそもは作画参考モデルとして製作されたものであった❷

10月4日　**「新世紀エヴァンゲリオン」TV放送開始**

10月上旬　アニメイト（ムービック）より、「新世紀エヴァンゲリオン」関連商品第1弾として、ポスター、下敷き、設定資料集などが発売

1 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume1」

❷作画参考モデル「エヴァンゲリオン初号機（原型製作：吉田治樹）」

10月25日　TVシリーズ主題歌CDシングル3枚同時発売

12月16日　オリジナルサウンドトラック第1弾CDアルバム「NEON GENESIS EVANGELION」発売❸

❸CDアルバム「NEON GENESIS EVANGELION」

1996年

2月3日　VHSビデオ・LD版「新世紀エヴァンゲリオン」リリース開始（全14巻リリース）❹

❹LD版「新世紀エヴァンゲリオン Genesis0：1」

3月1日　ゲームソフト第1弾セガサターン版『新世紀エヴァンゲリオン』発売

3月12日　**コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume2」発売** 2

2 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume2」

3月25日　プラモデル第1弾「LMエヴァンゲリオン初号機」発売

3月27日　**「新世紀エヴァンゲリオン」TV放送終了** 以後、ニフティや口コミなどにより、放送時以上に人気が加熱していく

4月26日　角川書店「少年エース6月号」にて、劇場版「新世紀エヴァンゲリオン」公開を発表。この時点では劇場版は完全新作として報じられた

4月28日　SFイベント「SFセミナー'96」にて、庵野監督と翻訳家の大森望氏、ライターの小黒祐一郎氏による座談会を開催。TV放送終了後、庵野監督が直接ファンの前で作品について語った最初のイベントとなった

5月4日〜19日　GAINAX公認エヴァンゲリオンイベント「ガレキゲリオン」開催。これは東京渋谷の海洋堂ホビーロビーで開催されたGKコンペで、各メーカーのGK展示や販売、セル画などの資料展示が行なわれた❺

❺GK「綾波レイ 病室にて（原型製作：寺岡邦明）」

6月16日　東京六本木のディスコ「ヴェルファーレ」で開催された「ガイナックス新年度会」にて、劇場版はリメイク版の第弐拾伍話と最終話となることを発表

8月29日　「エヴァンゲリオンイベント」を東京・豊島公会堂にて開催。第拾六話、第弐十話、第弐拾伍話の上映、および庵野監督と声優陣のトークショウが行なわれた

11月7日　**コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume3」発売** 3

3 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume3」

12月31日　「エヴァ・セレクション年越しオールナイト・イベント」を東京・新宿ミラノ座にて開催。庵野監督自らセレクトしたTV版13本上映のほか、トークショーや抽選会も行なわれた

1997年

2月14日　劇場版制作記者会見。本来、春に1作品のみの公開予定であった劇場版が春と夏の2作品となることを公式発表

3月13日　劇場版「シト新生」試写会を東京、大阪、名古屋、札幌、福岡にて開催

3月14日　劇場版「シト新生」公開前夜祭を新宿ミラノ座にて開催

3月15日 **劇場版「シト新生」公開❻**
最終的な興行収入は約20億円ほどであった

7月6~8日 新日本フィルハーモニー交響楽団によるコンサート「エヴァンゲリオン交響楽」を東京渋谷Bunkamuraオーチャードホールにて開催

7月11日 ゲームソフトWindows版「鋼鉄のガールフレンド」発売

7月16日 劇場版『THE END OF EVANGELION』試写会を東京、大阪、名古屋、九州にて開催

7月19日 **劇場版「THE END OF EVANGELION」公開❼**
興行収入約25億円と春の劇場版を上回る

7月19日 DVD版「新世紀エヴァンゲリオン」リリース開始（全7巻リリース）

10月22日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume4」発売 4**

12月31日 「新世紀エヴァンゲリオン」CDシリーズ、レコード大賞企画賞受賞

1998年

2月4日 CD「EVANGELION：DEATH」、第12回日本ゴールドディスク大賞「THE BEST ANIMATION ALBUM OF THE YEAR」受賞

3月7日 **劇場版「REVIVAL OF EVANGELION 新世紀エヴァンゲリオン劇場版 DEATH（TRUE）²／Air／まごころを、君に」公開**

12月23日 VHSビデオ・LD版「新世紀エヴァンゲリオン劇場版BOX」発売❽

1999年

9月22日 DVD版「新世紀エヴァンゲリオン劇場版」発売

12月17日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume5」発売 5**

2000年

10月14日 「新世紀エヴァンゲリオン原画集 Groundwork of EVANGELION Vol.1」発売（以後、全3巻）

11月15日 DVD版「新世紀エヴァンゲリオン SECOND IMPACT BOX上巻」発売

12月15日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume6」発売 6**

2001年

2月21日 DVD版「新世紀エヴァンゲリオン SECOND IMPACT BOX中巻」発売

6月22日 DVD版「新世紀エヴァンゲリオン SECOND IMPACT BOX下巻」発売

10月26日 「新世紀エヴァンゲリオン劇場版原画集 Groundwork of EVANGELION The Movie Vol.1」発売（以後、全2巻リリース）

12月1日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume7」発売。 7**
フィギュア付き初回限定版もリリースされた

❻ 劇場版「シト新生」チラシ

❼ 劇場版「THE END OF EVANGELION」チラシ

4 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume4」

❽ LD版「新世紀エヴァンゲリオン劇場版BOX」

5 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume5」

6 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume6」

7 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume7」

2002年

12月10日 リニューアルプロジェクト発表。これは企画立ち上げ10周年を記念した企画であり、以後、DVDのリニューアルを始め、新商品のリリースラッシュが始まる

12月19日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume8」発売 8**

2003年

3月26日 DVD（リニューアル版）「NEON GENESIS EVANGELION? 01 TEST-TYPE」発売

5月16日 ゲームソフトWindows版「鋼鉄のガールフレンド2nd」発売

6月25日 DVD（リニューアル版）「NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX」発売

7月24日 DVD（リニューアル版）「NEON GENESIS EVANGELION」リリース開始（以後、全8巻リリース）

9月 企画立ち上げ10周年

11月23日 ゲームソフトPS2版「新世紀エヴァンゲリオン2」発売❾

2004年

4月23日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume9」発売。 9**
初回限定版としてフィギュア付き「綾波レイスペシャルBOX」もリリースされた

11月3日 DVD版「THE FEATURE FILM NEON GENESIS EVANGELION DTS COLLECTOR'S EDITION」発売

12月 パチンコ第1弾「CR新世紀エヴァンゲリオン」稼動。パチンコのリリースにより、新たなファン層が開拓される

2005年

9月 パチスロ第1弾「新世紀エヴァンゲリオン」稼動

2006年

3月25日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume10」発売 10**

7月1日 分冊百科「エヴァンゲリオン・クロニクル」創刊（全30号リリース）

9月10日 角川書店「Newtype10月号」にて、新劇場版の制作を発表

2007年

2月17日 庵野監督の"緊急声明"として、新劇場版製作に対する所信表明を発表

6月19日 **コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume11」発売 11**

8月1日 DVD版「NEON GENESIS EVANGELION DVD-BOX '07 EDITION」発売

9月1日 **劇場版「エヴァンゲリヲン新劇場版：序」公開**

8 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume8」

❾ PS2版「新世紀エヴァンゲリオン2」

9 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume9」

10 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume10」

11 コミックス「新世紀エヴァンゲリオン Volume11」

THE ESSENTIAL
EVANGELION CHRONICLE SIDE B

発行日　2007年12月25日
発行人　鈴木徹也
発行　株式会社ウィーヴ
〒102-0074
東京都千代田区九段南2-1-30
発売　株式会社ソニー・マガジンズ
〒102-8679
東京都千代田区五番町5-1
共同製作　株式会社テレビ東京
印刷製本　大日本印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。
定価はカバーに明記してあります。
Printed in Japan

編集　株式会社ウィーヴ（石川裕人／田代豪／大久保圭）
有限会社メガロマニア
（加藤和弘／山田展寛／桑木貴章／鈴木秀治）
執筆　ぽろり春草
イラスト　市川裕文、深野洋一（C.P.Tom's）、木下ともたけ、K2商会、射尾卓弥、柳瀬敬之、森下直親、大本海図、鵜沼安希雄、twinbell（湯沢時子）
デザイン　L.S.D.（角田正明）
YUMEX
監修　株式会社ガイナックス

■読者お問い合わせ先（制作部）
TEL：03-5211-6261（平日 13：00～18：00）
■乱丁・落丁本に関するお問い合わせ先（お客様相談係）
TEL：03-3234-7375（平日 10：00～12：00、13：00～17：00）

STAFF / CAST

TVシリーズスタッフ

企画・原作：GAINAX
企画：Project Eva.
掲載：角川書店 月刊少年エース
キャラクターデザイン：貞本義行
メカニックデザイン：山下いくと　庵野秀明
副監督：摩砂雪　鶴巻和哉
美術監督：加藤浩
色彩設定：高星晴美
撮影監督：黒田洋一
音響監督：田中英行
音響制作：オーディオタナカ
音楽：鷺巣詩郎
音楽協力：テレビ東京ミュージック
広報：穴見礼（テレビ東京）　佐藤裕紀（GAINAX）
アニメーション制作：タツノコプロ GAINAX
プロデューサー：小林教子（テレビ東京）　杉山豊
総監督：庵野秀明
製作：テレビ東京 NAS
アニメーションプロデューサー：植田もとき　内山秀二　山賀博之

劇場版スタッフ

Air／まごころを、君に

色彩設定：高星晴美
美術監督：加藤浩
撮影監督：白井久男
編集：三木幸子
音響監督：田中英行
制作担当：松井正一　西沢正智
監督：鶴巻和哉
総監督：庵野秀明

#25「Air」

脚本：庵野秀明
絵コンテ：鶴巻和哉　樋口真嗣　摩砂雪
キャラクター作画監督：黄瀬和哉
メカニック作画監督：本田雄

#26「まごころを、君に」

脚本：庵野秀明
絵コンテ：庵野秀明　樋口真嗣　甚目喜一
作画監督：鈴木俊二　平松禎史　庵野秀明
ビジュアルウォーターアーティスト：摩砂雪
作画監督補佐：古川尚哉　吉成曜

キャスト

碇シンジ：緒方恵美
葛城ミサト：三石琴乃
赤木リツコ：山口由里子
綾波レイ：林原めぐみ
惣流・アスカ・ラングレー：宮村優子
碇ゲンドウ：立木文彦
冬月コウゾウ：清川元夢
日向マコト：結城比呂
伊吹マヤ：長沢美樹
青葉シゲル：子安武人
加持リョウジ：山寺宏一
キール・ローレンツ：麦人
鈴原トウジ：関智一
相田ケンスケ：岩永哲哉
洞木ヒカリ：岩男潤子
赤木ナオコ：土井美加
渚カヲル：石田彰
教師：丸山詠二
時田シロウ：大塚芳忠
オーバー・ザ・レインボウ艦長：西村知道
オーバー・ザ・レインボウ副長：山野井仁
アスカの父：関俊彦
惣流・キョウコ・ツェッペリン：川村万梨阿
女医：勝生真沙子
戦自師団長：沢木郁也
戦自副長：松本保典
首相：沢木郁也
秘書：川村万梨阿
人類補完委員：清川元夢、長嶝高士、鈴木勝美、長野広一、子安武人ほか

ENDING FILM

FLY ME TO THE MOON

歌：CLAIRE
作詞：Bart Howard
作曲：Bart Howard
編曲：Toshiyuki Ohmori

ジャズのスタンダードナンバーのアレンジであるTV版のエンディングソング。
放映当時、話数によってアレンジの異なるバージョンが用いられた。
なお、月を背景に、綾波レイが水の中へと逆さまに沈んでいくかのような映像は摩砂雪氏による構成・作画。